R314.41
Sy996s

*0006015000*

0006015-000

R３１４．４１－Ｓｙ９９６ｓウ

# 衆議院要覧

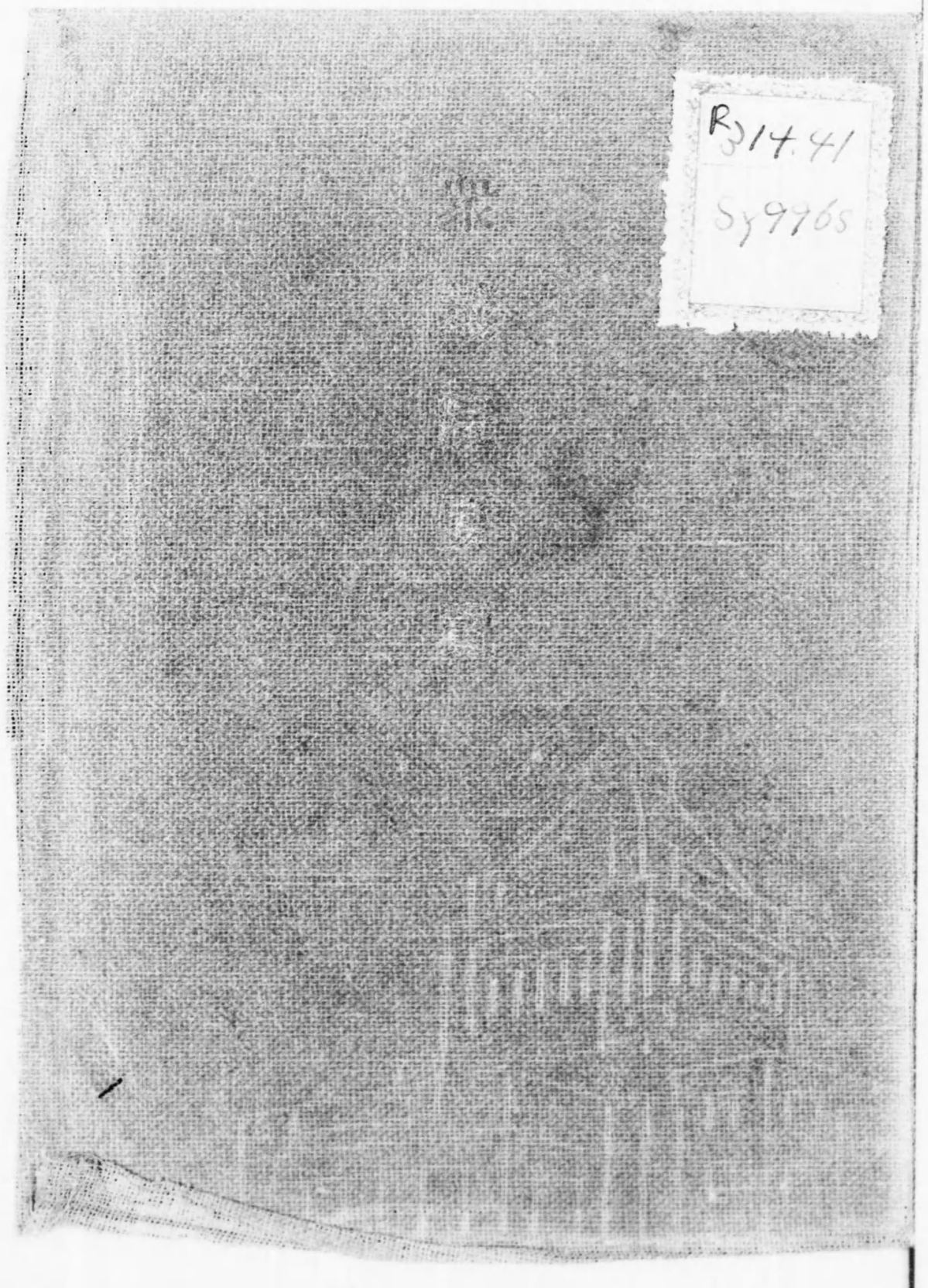
衆議院事務局・編

衆議院事務局

昭和２２年１２月現在　乙

昭和２３

ABE


R314.41
Sy996s

*0006015000*

0006015-000

R314.41−Sy996sウ

# 衆議院要覧

衆議院事務局・編

衆議院事務局

昭和２２年１２月現在　乙

昭和２３

ABE

○正誤

六三頁　川橋豊治郎君の「当選二回（1923）」は「当選三回（1819 23）」の誤り。

二二四頁　米田吉盛君の「愛媛委第一区選出」は「愛媛縣第一区選出」の誤り。

R
314.41
Sy996s

昭和二十二年十二月

# 衆議院要覽（乙）

衆議院事務局

国立図書館
昭 34 3.29 和
寄 贈

# 凡例

一　本書は、現議員の寫眞及び履歴中の重なるものを集錄す

一　履歴事項は、出生地、学歴、業務及び党歴の一部を錄するに止む

一　本書は、昭和二十二年十二月五日現在による

昭和二十二年十二月

衆議院事務局

國立圖書館
昭和24.3.29
寄贈

# 衆議院要覧(乙)

目次

議長、副議長、議員略歴 附事務総長その他
議員選挙区別氏名
議員党派別氏名

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | 三 | イ(ヰ) | 二 | ウ | 二七 | エ(ヱ) | 三三 | オ(ヲ) | 三三 |
| カ | 五〇 | キ | 六七 | ク | 七四 | ケ | — | コ | 七八 |
| サ | 八五 | シ | 九六 | ス | 一〇二 | セ | 一〇八 | ソ | 一一〇 |
| タ | 一一二 | チ | — | ツ | 一二七 | テ | 一三一 | ト | 一三三 |
| ナ | 一三九 | ニ | 一五三 | ヌ | — | ネ | 一五六 | ノ | 一五八 |
| ハ | 一五九 | ヒ | 一六八 | フ | 一七二 | ヘ | — | ホ | 一七七 |
| マ | 一八二 | ミ | 一九五 | ム | 二〇一 | メ | — | モ | 二〇四 |
| ヤ | 二〇八 | イ(ヰ) | 二 | ユ | — | エ(ヱ) | 三三 | ヨ | 三三 |
| ラ | — | リ | — | ル | — | レ | — | ロ | — |
| ワ | 三四 | ヰ(イ) | 二 | ウ | 二七 | ヱ(エ) | 三三 | ヲ(オ) | 三三 |


# 議長、副議長、議員略歴

衆議院議長　松岡駒吉　東京都第二区選出、日本社会党

明治二十一年四月鳥取縣岩美郡岩井町に生る○日本労働総同盟会長、日本労働組合会議議長を経て日本労働組合総同盟会長、財團法人日本労働会館理事長、日本社会党常任顧問となり現在に至る、この間第八回及び第九回國際労働総会労働代表委員顧問、第十二回國際労働総会労働代表委員となり、東京地方職業紹介委員会、退職積立金及び退職手当法施行準備調査会、中央労働委員会各委員を命ぜられ、労働保険調査会臨時委員、失業対策委員会、社会保険調査会、中央職業紹介委員会、保険院保険制度調査会、戰後対策審議会、中央賃金委員会、社会保険制度調査会、中央経済再建整備委員会各委員、傷兵保護院、軍事保護院各專門委員、行政調査部顧問等仰せつけらる○現に衆議院議長である○当選二回（2223）

## 足立梅市

三重縣第二区選出、日本社会党
弁護士

明治三十四年二月三重縣多氣郡三瀬谷村に生る、日本大学法文学部卒業○高等文官試驗司法科に合格す、昭和十五年八月東京弁護士会所属弁護士として東京都に於て弁護士開業現在に至る○当選一回（23）

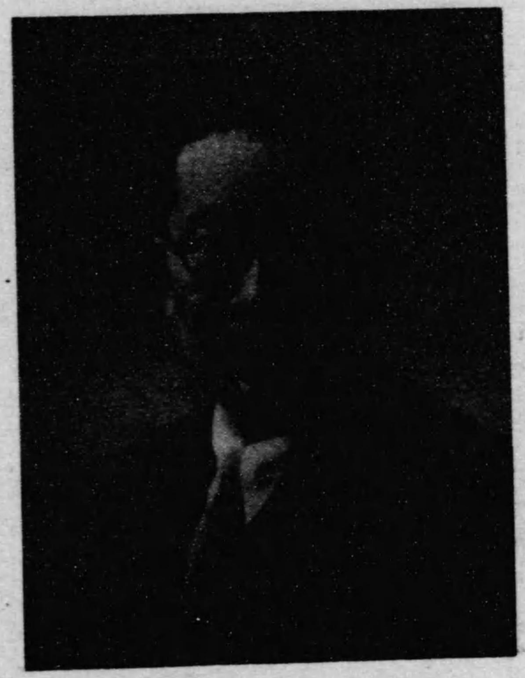
## 安東義良

岐阜縣第二区選出、民主党
常任委員長

明治三十年五月岐阜縣可兒郡御嵩町に生る、東京帝國大学法学部卒業、外務省在外研究員として渡佛、グルノーブル大学及びパリー法科大学卒業「ドクトールアンドロア」の学位を受く○在勤外交官補、中國及び瑞西在勤公使館三等書記官、瑞西在勤公使館二等書記官、外務大臣秘書官、外務書記官兼農林書記官、伊國在勤大使館参事官、外務省欧亜局長、同條約局長、同政務局長、大東亜省總務局長等を歴任す、この間壽府に開催の第二回國際会議帝國代表委員、三度壽府に開催の一般軍縮会議参列全権委員隨員、羅馬に開催の日独伊混合專門委員会委員、万國農事協会常設委員会委員等及びしばしば高等試驗委員仰せつけらる、退官後弁護士となり現在に至る、現に民主党政務調査会理事である、又衆議院外務委員会委員長である○当選一回（23）







## 衆議院副議長　田中萬逸

大阪府第四区選出、民主党

明治十五年九月大阪府南河内郡富田林町に生る、早稲田大学に学ぶ「皇宮」「雲上宝典」外数種の著書がある○多年記者として報知新聞社に在職し、後早稲田鉱山株式会社取締役、石切土地建物株式会社監査役、安藝工業株式会社、和同工業所各顧問、三和金属工業所相談役となり、又遞信政務次官、國務大臣等に任ぜらる、日本進歩党總務委員、同幹事長、同顧問となり、現に民主党顧問である、小作調査会、國際観光、電氣通信、船舶管理、電力評價審査、航空機製造事業、航空事業調査、國民貯蓄奨勵、中央電力調整、造船事業、持株会社整理監査等の各委員会委員、電力審議会委員、鉄道会議々員、地方制度調査会委員等仰せつけらる、しばしば滿洲、中國、西比利亜を歴遊す、第二十五回列國議会同盟会議に参列し、歐米各國を巡遊す○現に衆議院副議長である○当選十一回（12補13 14 15 15補16 17 19 20 22 23）

## 青木青左ヱ門

福井縣選出、民主党
常任委員長

明治三十二年一月福井縣吉田郡東藤島村に生る〇村、郡、縣の青年團長及び役員に選ばれ、月刊雜誌「福井縣青年」「若越春秋」を主宰す〇三度福井縣會議員、同縣參事會員に選ばる、この間土地收用審査委員、本莊村長、坂井郡町村長會幹事、本莊村産業組合長、竹田川水害予防組合會議員及び委員、並びに十郷大堰所普通水利組合海道綜合開発特別委員となる、政友會福井縣支部政務調査會長等となり、北議院食糧対策議員連盟理事である、現に民主党政務調査會理事、衆〇当選二回（22補23）

## 青木孝義

愛知縣第五區選出、日本自由党
大学教授　経済学博士

明治三十年一月愛知縣南設樂郡東郷村に生る、日本大学高等專攻科卒業〇日本大学留学生として渡欧、主として「ベルリン」「ハイデルベルヒ」「ゲッチンゲン」の各大学において金融及び取引を研究す、「経済思想史概論」「世界経済入門」「ワーゲマン貨幣理論」等の飜訳及び「銀行要論」「貨幣論」「貨幣論新講」「貨幣経済の理論」等の著述がある〇日本大学教授、同経済学部々長となる、日本自由党政務調査會副會長、同大藏部々長、同金融部々長となり、現に同党政務調査會顧問である、さきに文部政務次官に任ぜられ、金融制度調査會、國語審議會各委員仰せつけらる〇当選二回（2223）

## 青柳高一

埼玉縣第三區選出、民主党
会社々長

大正二年二月埼玉縣兒玉郡若泉村に生る、都立京橋商業学校修業〇株式会社青柳製作所、関東産業株式会社、群馬工業株式会社、帝國車輛工業株式会社等の各取締役社長となり現在に至る、さきに民主党常任幹事となる〇当選一回（23）

## 赤松勇

愛知縣第一區選出、日本社会党
鉄工業

明治四十三年一月兵庫縣朝來郡和田山町に生る、聽講生として早稲田大学に学ぶ〇労農党名古屋支部、日本労働組合総評議会、全國評議会中部地方評議会、日本無産党愛知縣連合会等の幹部となる、現に日本社会党愛知縣支部連合会常任執行委員、同青年部々長である〇当選二回（2223）

## 赤松明勅

愛媛縣第二區選出、日本社会党
製本業

明治四十五年三月愛媛縣宇摩郡金砂村に生る、日本大学大阪専門学校法科に学ぶ○海南新聞社記者となり、後赤松博集堂製本工場経営今日に至る、関西製本業統制組合専務理事となり、現に全國製本紙工協連関西支部長、全國製本紙工商工業協同組合専務理事、上分村農民組合長である、又日本社会党愛媛縣連執行委員である○当選一回（23）

## 秋田大助

徳島縣選出、國民協同党
会社重役

明治三十九年一月東京都千代田区神田錦町に生る、東京帝國大学経済学部経済科卒業○西華商事株式会社取締役、株式会社大阪ノレス製作所専務取締役となる、現に南海鍛圧機株式会社専務取締役、高知縣造船株式会社、株式会社松本鑄造鉄工所等の各取締役である、又協同民主党常任中央委員、同政策調査会労働部々長、同選挙対策委員会委員となり、現に國民協同党中央常任委員、同政務調査会副会長である、さきに金融制度調査会委員仰せつけらる○当選二回（2223）

## 淺沼稻次郎

東京都第一区選出、日本社会党
常任委員長

明治三十一年十二月東京都三宅島神着村に生る、早稲田大学政治経済学部経済科卒業○無産階級運動に携わり、日本農民、全國農民等の各組合並びに労働組合総同盟、労働農民党、日本労働党、全國大衆党、全國労農大衆党及び社会大衆党等の幹部となり、その中央執行委員、組織部々長、会計監督等に挙げられ、現に同党中央執行委員、同書記長代理、同政務調査会々計監査である、又衆議院議院運営委員会委員長である○東京市会議員、同名誉職参事会員、東京都会議員、同副議長等に挙げられ、地方制度調査会、國家総動員審議会、中央職業紹介委員会、國土計画審議会等の各委員仰せつけらる、さきに第三十五回列國議会同盟会議（オスロ）に派遣議員團員として参列す○当選四回（19202223）

## 淺利三朗

岩手縣第二区選出、日本自由党
会社重役

明治十五年十一月岩手縣東磐井郡長島村に生る、東京帝國大学法学部卒業○三重縣事務官、同理事官、大阪府理事官、茨城縣属、山形縣事務官、同理事官、大阪府理事務部長、香川縣知事、高知縣、新潟縣、北海道廳各警察部長、富山縣内ず、この間各國の行政、社会、文化等の視察を命ぜられ、米、英、佛、独、伊、白、和、瑞、諾、丁、埃等の各國を巡察す○日本舗道株式会社、満洲舗道株式会社各社長、朝鮮石油株式会社取締役、全國舗装同業連合会々長、日本道路技術協会理事となり、現に東洋セメント工業株式会社取締役である、又日本自由党代議士会副会長、同政務調査会理事である○当選一回（23）

## 芦田均

京都府第二區選出、民主党
外務大臣、法学博士

明治二十年十一月京都府天田郡中六人部村に生る、東京帝國大学法科卒業、「世界大戰後の欧洲外交」「列強ノ政戰」「ロシヤ印象記」「君府海峽通航制度史論」「最近世界外交史」「第二次世界大戰前史」「バルカン」等の著書がある○外交官補、大使館一等書記官兼參事官、大使館三等書記官、外務書記官、同參事官、厚生大臣兼保護院總裁等を歴任し、現に外務大臣である、又慶應大学講師、「ジャパンタイムス」社長、郡是製糸取締役となる、國際観光委員、通商審議会、貿易審議会、議会制度審議会等の各委員、内閣情報部參與、厚生省委員、教育刷新委員会委員、戰争調査会副總裁等仰せつけらる、日本自由党總務、同政務調査会々長となり、現に民主党總裁である○当選六回（18 19 20 21 22 23）

## 東舜英

石川縣第一區選出、同志クラブ

明治二十九年十二月石川縣小松市野田町に生る、早稲田大学政治経済学部卒業○萬朝報、読賣新聞、國民新聞等の各新聞記者を経て拓務省嘱託となり、辞して後再度東京市会議員に選ばる、又再度遞信大臣秘書官に任ぜらる○当選一回（23）

## 天野久

山梨縣選出、民主党
酒造業

明治二十五年一月山梨縣東山梨郡鼡山町に生る○笹子郵便局長に任ぜらる、笹子村会議員、山梨縣酒造組合副理事長、同酒販連合会々長に挙げられ、山梨縣酒類販賣株式会社々長となる、家事審判制度調査委員会委員仰せつけらる、日本進歩党常議員及び民情部々長となり、現に民主党監査部々長、同政務調査会事、同遞信部会部会長である○当選二回（22 23）

## 荒木萬壽夫

福岡縣第三區選出、民主党
常任委員長

明治三十四年七月福岡縣三池郡高田村に生る、京都帝國大学経済学部卒業○遞信局書記兼遞信属、通信事務官兼遞信局事務官、簡易保険局、遞信省各事務官、簡易保険局書記官、遞信書記官、航空局書記官、兼中央航空研究所書記官、電氣廳書記官、兼内閣東北局書記官、遞信書記官兼遞信大臣秘書官、廣島遞信局長、軍需省電力局長等を歴任す、この間滿洲國交通部事務官、同理事官、國務院總理廳理事官、同參事官等に も歴任す、重要肥料業、産業設備評價中央、農林計画各委員会臨時委員、農商省總務局參與、中央電力調整委員会、電力審議会各委員等仰せつけらる、退官後再度大牟田市長に挙げらる、現に民主党政務調査会理事、同内務部会部会長である、又衆議院國土計画委員会委員長である○当選一回（23）

## 荒畑勝三

東京都第四区選出、日本社会党
著述業

明治二十年八月横浜市南区永樂町に生る、「谷中村滅亡史」「財産進化論」「生物進化と社会進化」「東亜近世史」「世界の原始民族」「敗戦日本の青年に訴ふ」「労働組合運動史」外十数種の著書がある〇二六新報及び日本新聞記者となる、雜誌「近代思想」「労農」等を発刊す、中央労働委員、労務法制審議会委員を嘱託せられ、労働組合総同盟所属関東金属労働組合長となる、現に日本社会党中央執行委員、同教育部々長である〇当選二回（2223）

## 有田二郎

大阪府第一区選出、日本自由党
会社重役

明治三十七年七月神戸市湊東区福原町に生る、東京帝國大学文学部卒業〇大阪薬学専門学校講師を委嘱せらる、愛知縣嘱託、終戰連絡大阪事務局参與、國務大臣秘書官等を歴任し、現に日本自由党幹事である、大阪財務局管内不動産評價委員会委員仰せつけらる〇東洋薬品工業、有田産業、有田製薬、有田容器工業各株式会社及び眞日本社、大阪タイムス社等の各取締役社長となる〇当選二回（2223）

## 井伊誠一

新潟縣第二区選出、日本社会党
弁護士

明治二十五年十月新潟縣北蒲原郡新発田町に生る、東京帝國大学法学部卒業〇新潟縣立新発田中学校講師を委嘱せらる、金錢債務調停委員、新潟縣農地委員、戰時特別調停委員、借地借家調停委員に選任せられ、新発田町会議員及び新潟縣会議員にそれぞれ三選せらる、大正十一年弁護士開業現在に至る〇当選二回（2223）

## 井出一太郎

長野縣第二区選出、國民協同党
酒造業

明治四十五年一月長野縣南佐久郡臼田町に生る、京都帝國大学農学部農林経済科卒業〇橘倉醸造合名会社代表社員、大東亜醸造組合専務理事となる、又國民党青年部々長、國民協同党情報宣傳部々長となり、現に同党常任中央委員、同政務調査会副会長である〇当選二回（2223）

## 井上知治

鹿児島縣第一區選出、同志クラブ
農業

明治十九年七月鹿児島縣揖宿郡頴娃村に生る、東京帝國大学法学部卒業〇神戸市株式会社鈴木組社員、合資会社冠東商会事務理事、鹿児島大山灰硅藻土株式会社監査役、読賣新聞社員等を経てアポロ商会顧問となる〇國民体力審議会委員、教育刷新委員会委員等仰せつけらる、日本進歩党總務委員となり、衆議院副議長に任せられ、後民主党顧問となり、又皇室会議及び皇室経済会議の予備議員となり現在に至る〇当選六回（17 18 19 20 22 23、

## 井上良次

大阪府第三區選出、日本社会党
農林政務次官

明治三十一年五月高知縣吾川郡伊野町に生る、大阪労働学校卒業、労働者必携の著書がある〇大阪労働学校主事、大阪交通運輸労働組合長、社会民主党、全國労農大衆党、社会大衆党等の各中央執行委員、同民情部々長を経て同党無任所中央執行委員となり、又農林政務次官に任ぜられ現在に至る〇さきに安治川野田衞生組合評議員、同副組合長、大阪府道路、公園、商工、農林、水産等の各調査委員会委員を命ぜられ、産業復興営團設立委員、復興金融金庫設立委員等仰せつけらる、再度大阪府会議員に選ばれ、同参事会員に挙げらる、上海、南京及び満洲國各地を視察す〇当選三回（20 22 23）

## 井谷正吉

愛媛縣第三區選出、日本社会党
農業

明治二十九年四月愛媛縣北宇和郡日吉村に生る、縣立宇和農業学校卒業〇株式会社東洋徑大鋼管製造所、國産金属工業株式会社等の社員となり、財團法人瀬戸田学園、瀬戸田高等女学校常任理事となる〇当選一回（23）

## 井村徳二

石川縣第一區選出、民主党
会社重役

明治三十二年十一月石川縣金沢市片町に生る、早稲田大学商科に学ぶ〇金沢市商工会議所議員、同常評議員、金沢市商工経済会評議員、石川縣商工会議所理事に選ばる、日本百貨店組合理事、同北陸支部連合会々長、石川縣産業報國会常任理事、朝日車輛外二株式会社代表取締役、東洋紡毛、金沢交通外数株式会社取締役等を経て北陸燃化興業外数株式会社取締役、監査役、大和興業、北陸鉄道各株式会社監査役、北菱電興外数株式会社取締役社長、辰已製紙外数株式会社の相談役、監査役、取締役社長、現在に至る、現に民主党常任幹事、同政務調査会商工部会國内商業委員会委員長である〇当選一回（23）

## 伊瀬幸太郎

奈良縣選出、日本社会党
農業

明治二十七年十二月奈良縣北葛城郡磐城村に生る○磐城村会議員、北葛城郡農会議員、同評議員に選ばる、磐城村役場書記となり、又日本農民組合奈良縣連合会々長、同組合中央委員、労働農民党奈良縣支部連合会書記長となる、現に日本労農党奈良縣連合会々長、日本社会党奈良縣連合会組織部々長である○当選一回（23）

## 伊藤卯四郎

福岡縣第二区選出、日本社会党
常任委員長

明治二十七年八月長崎縣島原市島原町に生る、「欧米に胎動する労働の新秩序」外数種の著書がある○再度福岡縣会議員に当選す、筑豊採炭組合長に挙げられ、北九州石炭統制株式会社取締役となる○社会大衆党中央執行委員、同福岡縣支部連合会書記長、日本労働組合会議九州地方協議会議長、労働組合総同盟中央委員、同西部同盟会々長、日本社会党福岡縣連合会顧問となり、現に日本社会党中央執行委員、同選挙委員会委員長である、又衆議院鉱工業委員会委員長である○当選二回（2223）

## 伊藤恭一

岐阜縣第二区選出、民主党

明治二十一年四月岐阜縣惠那郡付知町に生る、岐阜縣師範学校卒業○岐阜縣視学に任ぜらる、岐阜縣加納、付知、白山、徹明、京町等各尋常高等小学校長兼訓導、白山商工実修学校長、徹明商業青年学校長等を歴任す、この間岐阜縣教員購買組合監事、同縣國民党、國民協同党各中央常任委員となり、現に民主党政務調査会理事である○当選二回（2223）

## 伊藤郷一

北海道第五区選出、日本自由党
漁業

明治三十三年九月新潟縣西蒲原郡内野町に生る、京都帝國大学文学部哲学科卒業、「良寛和尚と伊藤家」の著書及びキエルケゴールの「不安の概念」等の訳書がある○北海道廳立余市中学校教諭心得、横浜市総持寺高等女学校教師を経て釧路市文化協会理事長、日刊釧路大東新聞社顧問となる、現に日本自由党幹事、同政務調査会外務委員会副委員長である○当選二回（2223）

## 猪俣浩三

新潟縣第四区選出、日本社会党

弁護士、弁理士

明治二十七年七月新潟縣刈羽郡田尻村に生る、日本大学法文学部法律学科卒業、「教育疑獄を弁護して」「一億人の法律」「闇取引と刑罰」「統制法令の臨床解釈」等の著書がある○高等試験司法科合格、弁護士、弁理士を開業し日本弁護士協会理事に選ばる、さきに小学校訓導、上智大学、日本大学各講師等に就任し、麹町区学務委員、同学事委員、東京府物價調査委員となる、現に日本社会党、日本農民組合各中央委員、上越農民組合連合会執行委員長である○当選一回（23）

## 飯田義茂

北海道第五区選出、國民協同党

農業

明治十五年十二月高知縣長岡郡大杉村に生る○北海道野付牛町会議員、同町長、北海道会議員、北見市会議員、同市会副議長等に当選す、この間野付牛町農会副会長、北見市農業会長、北海道農業会監事及び理事、同網走支部長、上常呂土功組合理事、北海道信用購買販賣組合連合会監事及び理事、同製酪販賣組合監事等に挙げられ、土地賃貸價格調査員、地價設定調査員、小作調停委員、金錢調停委員等を命ぜらる○北見石灰株式会社々長、北見貨物自動車株式会社、北海道興農公社の各監査役となり現在に至る、又協同民主党政策調査会連信部々長、國民協同党社会部々長となり、現に同党常任中央委員である○当選二回（22 23）

## 飯村泉

茨城縣第一区選出、民主党

会社員

明治四十一年五月茨城縣東茨城郡小松村に生る、縣立水戸中学校卒業○日刊油業報知新聞社々員を経て東京都油脂配給協同組合組合員となり現在に至る、現に民主党常任幹事、同党政務調査会理事、同会特別委員会勤労連盟委員会委員長である○当選一回（23）

## 生悦住貞太郎

三重縣第二区選出、民主党

会社重役

明治三十一年十二月奈良縣宇陀郡三本松村に生る○鉄鋼販賣業を経営す、廃業後日曹製鋼株式会社取締役並びに大阪営業所長、米子鉱業株式会社取締役社長、三元金属工業株式会社、株式会社大綱機械製作所、日本高圧管株式会社等の各取締役となり、現に大阪特殊製鋼株式会社取締役社長、大阪工業会復興委員、関西経済連合会評議員、関西経営者協会委員である、又民主党常任幹事、同党政務調査会理事、同会商工部会鉱工業委員会委員長である○当選一回（23）

## 池谷信一

靜岡縣第一區選出、日本社會党
弁護士

明治三十二年十一月靜岡縣志太郡高洲村に生る、京都帝國大學法学部卒業〇高等試驗司法科合格、弁護士を開業す、靜岡地方裁判所各種調停委員となる、又靜岡縣労働委員会、同縣失業対策委員会、東海北陸地方生産監査委員会等の各委員となる、現に日本社会党志太支部長、同靜岡縣支部連合会常任執行委員並びに書記長代理である〇当選一回（23）

## 石井繁丸

群馬縣第一區選出、日本社会党
弁護士

明治三十七年一月群馬縣勢多郡木瀬村に生る、日本大学法科卒業〇高等試驗司法科合格、前橋地方裁判所所属弁護士となり現在に至る〇現に日本農民組合顧問弁護士、同中央執行委員、日本労働農民党群馬縣連書記長、同中央委員、日本社会党群馬縣連書記長である〇当選一回（23）

## 石神啓吾

宮崎縣第二區選出、日本社会党

明治四十年八月宮崎縣宮崎市宮崎町に生る、第七高等学校造士館に学ぶ〇再度宮崎縣会議員に選ばるる、又東諸縣郡高岡町長となる〇当選一回（23）

## 石川金次郎

岩手縣第一區選出、日本社会党
弁護士

明治三十年一月岩手縣岩手郡玉山村に生る〇高等試驗司法科合格、盛岡市に弁護士を開業現在に至る、三度盛岡市会議員に当選、同市参事会員に挙げらる、金銭債務調停委員、借地借家調停委員、人事調停委員、戰時民事特別調停委員等を命ぜらる〇岩手縣立工業学校教諭心得となり、社会主義研究思想團体牧民会を主宰す、社会民衆党、國家社会党各盛岡支部顧問となる、現に日本社会党岩手縣支部連合会々長である〇当選二回（22 23）

## 石田一松　東京都第五区選出、國民協同党

演藝家

明治三十五年十一月廣島縣安藝郡府中村に生る、法政大学法文学部法律学科卒業○在学中から演歌師となり、流行歌、書生節の作詞、作曲、レコード等の吹込をなす、後舞台に進出、吉本興業株式会社専属演藝家として現在に至る、満洲同胞援護会嘱託となる、國民党情報宣傳部々長となり、現に國民協同党中央常任委員である○当選二回（22・23）

## 石田博英　秋田縣第一区選出、日本自由党

大正三年十二月秋田縣山本郡響村に生る、早稲田大学政治経済学部経済学科卒業、「忘れられた子供たち」「異常兒とその作品」等の著書がある○中外商業新報社上海支局長、同政治部次長となる、現に日本自由党情報部副部長、同幹事、同政務調査会労働委員会副委員長である○当選一回（23）

## 石野久男　茨城縣第二区選出、日本社会党

茨城縣第二区選出、日本社会党

明治四十四年二月三重縣志摩郡波切町に生る、早稲田大学政治経済学部経済科卒業○茨城縣労働調停、同地方労働、同食糧等の各委員となる、日立製作所水戸工場社員となり、同工場社員組合執行委員長を経て日立製作所労働組合総連合中央執行委員長、全國重電機会議中央幹事長となり現在に至る○当選一回（23）

## 石原圓吉　三重縣第二区選出、日本自由党

三重縣第二区選出、日本自由党

明治十年十二月三重縣志摩郡和具町に生る○三度三重縣会議員に選ばれ、同縣会議長に挙げらる、この間和具町長、大日本水産会評議員、三重縣水産会々長、同縣々政調査会第一部長となる、三重沃度、石原満俺各株式会社取締役社長、三重交通株式会社相談役、三重縣鮮漁運搬統制組合理事長、同眞珠業施設組合、同眞珠加工品協会、同水産業会各顧問となり現在に至る、財産税委員会委員、名古屋財務局管内不動産評價委員会委員等仰せつけらるなり、日本自由党常議員、同政務調査会水産部々長となり、現に同党総務である○当選二回（22・23）

## 石原登

鹿兒島縣第二區選出、第一議員倶樂部
會社員

大正二年十月鹿兒島縣薩摩郡里村に生る、中央大学経済学部卒業○中島鋼機株式会社設立委員となる○民権同志会を結成その理事となり、同時に鹿兒島縣支部長となる、又協同民主党青年部々長となる○当選二回（22 23）

## 泉山三六

山形縣第二区選出、日本自由党
銀行顧問

明治二十九年三月山形縣東田川郡大和村に生る、東京帝國大学法学部卒業○帝國銀行秘書役、同調査役となる、現に荘内銀行顧問、三井銀行企画部長である、又日本自由党幹事、同政務調査会財政金融委員会副委員長である○当選一回（23）

## 磯崎貞序

神奈川縣第三区選出、日本自由党
農業

明治二十三年十月神奈川縣高座郡茅ヶ崎に生る、東京農業大学卒業○四度神奈川縣会議員に当選す、神奈川縣水産会長、同縣森林会議員、平塚江陽銀行取締役、相模肥料株式会社監査役となり、神奈川縣耕地協会理事、藤沢税務署所得調査委員、茅ヶ崎農業会々長、鎌倉地方事務所参與を経て農業保險組合連合会監事、横浜地方裁判所各種調停委員となる○文部省科学教育振興委員会委員を委嘱せらる、日本自由党幹事となる○当選二回（22 23）

## 稲田直道

鳥取縣選出、日本自由党
農、鉱業

明治二十二年七月鳥取縣鳥取市古市に生る、早稲田大学政治経済科卒業○鳥取新報社を創立しその常務取締役副社長及び岩手縣において安國鉱山主となり鉱山業を営み、出光農場の相談役となる○因伯青年自由党を組織し、その総理となる○税制調査会委員、廣島財務局管内不動産評價委員会委員等仰せつけられる、日本自由党常議員、同政務調査会鉄道部々長、同党総務、同青年部々長となり、現に同党代議士会々長である○当選四回（20 20補 22 23）

## 稲村順三

新潟縣第三區選出、日本社會党
著述業

明治三十三年九月北海道虻田郡倶知安町に生る、東京帝國大学文学部に学ぶ、ヴァルカの「農業理論の基礎問題」「マルクス・エンゲルス全集」テボーリンの「正統派マルクス主義とは何ぞ」等の飜訳「日本に於ける農業恐慌」「轉換期の食糧問題」「食糧増産の基本問題」「農産物價格論」等の著書がある○私立錦秋高等女学校講師、帝國農会の嘱託等となり、中央農会副参事となる、現に日本社会党教育部次長である○当選二回（22 23）

## 荊木一久

新潟縣第四区選出、民主党
弁護士

明治三十六年十一月新潟縣中頸城郡春日村に生る、慶應大学経済学部に学ぶ○文官高等試験司法科合格、高田市に弁護士を開業現在に至る、この間春日村会議員、新潟縣会議員に各再選せらる、日本進歩党常議員、同監察部副部長、同部長となり、現に民主党政務調査会理事である○当選二回（22 23）

## 今井耕

滋賀縣選出、國民協同党

明治二十九年二月滋賀縣蒲生郡武佐村に生る、実業学校教員免許狀授與○滋賀縣北里、神照各実業補習学校教諭、滋賀縣実業補習学校教員養成所教諭兼滋賀縣立長浜農学校教諭等を経て公立実業学校教諭並びに同舎監に任ぜられ、同縣立栗太農学校教諭、同校舎監等に補せらる、この間昭和八年度学事委員を命ぜられ、青年学校視学委員を委嘱せらる、退官後滋賀縣農業会技師となる、協同民主党政策調査会理事、國民協同党農林部々長となり、現に同党中央委員である○当選二回（22 23）

## 今澄勇

山口縣第一区選出、日本社会党
会社員

大正二年六月山口縣防布市字宮市共進町に生る、山口高等商業学校卒業○日興証券株式会社の福岡、名古屋、大阪、東京各支店、南洋拓殖株式会社東京支店、同パラオ本店、同ラバウル出張所、東洋高圧工業株式会社東京本社、同新島工業所等に勤務し、同新島工業所労働組合長、同所勤労課長心得、同所厚生課長等を経て全國硫安工業労働組合連盟副会長、下関労働組合連盟委員長、山口縣労働組合総連盟執行委員長、下関勤労文化協会委員長となる○当選一回（23）

## 今村忠助

長野縣第三区選出、日本自由党

大学講師

明治三十二年二月長野縣下伊那郡座光寺村に生る、立教大学商学部並びに日本大学法文学部卒業「世界遊記」「ブラジル物語」「比律賓を語る」「フイリッピンの性格」等の著書がある〇立教大学々生課長、名古屋新聞記者を経て日本大学講師となり現在に至る、海外同胞中央会各常務理事、財團法人敷島育英財團、同海外同胞援護会理事、太平洋商事合資会社代表社員となる、さきに歐米各國、南亞、南米、南洋各地、亞細亞諸國を視察巡遊す、現に日本自由党遊說部副部長、同政務調査会商業委員会副委員長である〇当選一回（23）

## 今村長太郎

和歌山縣第一区選出、日本自由党

メリヤス製造業

明治三十三年三月和歌山縣和歌山市新通に生る〇和歌山市会議員、同商工会議所議員、同理事に選ばる、和歌山メリヤス生地工業組合、和歌山メリヤス製造統制組合各理事長となり、現に同縣メリヤス商工業協同組合理事長、日本メリヤス工業会理事、日本メリヤス生地部全國委員長、日本メリヤス統制株式会社取締役である、又日本自由党幹事、同党和歌山縣支部党務部々長である〇当選一回（23）

## 岩本信行

神奈川縣第三区選出、日本自由党

農業

明治二十八年三月神奈川縣高座郡相模原町に生る〇四度神奈川縣会議員に当選し、三度同縣会議長に挙げらる、この間大野村並びに相模原町の各農会長、高座郡養蚕業組合長、同郡畜産組合長、同郡牛乳販賣購買利用組合長、同郡馬匹畜産組合長、神奈川縣販賣購買組合、同信用販賣購買利用組合各連合会々長等に挙げらる、相模原食品市場株式会社々長となり現在に至る〇借地借家、商事、金銭債務、人事各調停委員を命ぜられ、地方制度調査会委員、東京財務局管内不動産評價委員会委員等仰せつけらる、日本自由党政務調査会農政部々長、同党經濟再建委員会經濟安定部々長となり、現に同党總務である〇当選二回（22 23）

## 宇都宮則綱

大分縣第二区選出、民主党

農、水產業

明治二十二年五月大分縣速見郡八坂村に生る〇大分縣会議員に選ばる、又別府市会議員に三選せられ、同市会議長、全國市会議長会々長に挙げらる、豊洋水產株式会社取締役会長となる〇当選一回（23）

## 植原悦二郎

長野縣第四区選出、日本自由党

明治十年五月長野縣南安曇郡明盛村に生る、北米華盛頓州立大学及び倫敦大学院卒業、「パッチェラー・オブ・アーツ」及び「ドクトル・オブ・サイエンス」の学位を受く、「新政日本と民主々義の哲理」外数種の邦文著書の外英文著書及び飜訳書がある〇米國西北新聞記者、日米商報社長、シアトル日本人会副会長、明治、立教各大学教授、東京高工、青山女学院各講師、衆議院副議長、高等女学校長となる〇逓信参與官、外務参與官、衆議院副議長、國務大臣、内務大臣等を歴任す、日本自由党常議員、同総務となり、現に同党顧問である、永年在職議員として衆議院より表彰せらる、さきに対支文化事業調査会、議院制度調査会、自動車製造事業委員会、貴族院制度調査会、電力評價審査委員会等の各委員及び鉄道会議々員等仰せつけらる、米國及び満ソ國境方面を視察す〇当選十回（13 14 15 16 17 18 19 20 22 23）

## 受田新吉

山口縣第二区選出、第一議員倶楽部

明治四十三年五月山口縣大島郡屋代村に生る、日本大学専門部法律科卒業〇文部省中等教員公民科検定合格、小学校准訓導、同訓導、師範学校訓導、山口縣主事補等を経て山口縣佐賀青年学校長、同佐賀甲学校長等を歴任す〇当選一回（23）

## 打出信行

熊本縣第一区選出、民主党

弁護士

明治二十八年七月熊本縣菊池郡迫間村に生る、東京帝國大学法学部卒業〇熊本市会議員に再選せられ、同縣会議員に選ばる、熊本縣監査委員となる、現に民主党常議員である〇当選一回（23）

## 内海安吉

宮城縣第二区選出、日本自由党

会社重役

明治二十三年四月宮城縣桃生郡小野村に生る、日本大学法律科卒業、「巖頭ニ立チテ小学校教員ト警察ノ優遇ヲ叫ブ」の著書がある〇再度大連市会議員に当選す、興亜院嘱託、日本電報通信社大連支局長、同理事、帝國新聞社取締役社長、拓南産業株式会社取締役、大東振興株式会社顧問となり、又日本自由党政務調査会厚生部副部長、同党幹事となる、さきに地方制度調査会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 生方大吉

群馬縣第一區選出、民主党
農業

明治十五年三月群馬縣利根郡新治村に生る○所得稅調査委員に選任せらる、利根電氣株式会社、新治製材株式会社各社長、利根倉庫株式会社監査役等を経て群馬共栄合資会社代表社員となり現在に至る、日本進歩党常議員、同会計監督となり、現に民主党常議員会々長である○当選五回（15 17 19 22 補23）

## 馬越晃

愛媛縣第二區選出、民主党
会社重役

明治三十五年三月愛媛縣北宇和郡若松町に生る、縣立弓削商船学校卒業○今治市会議員、愛媛縣会議員に各三選、同縣名誉職参事会員に四選せられ、同縣会副議長に選ばる、日本進歩党幹事となり、現に民主党総務委員、同政務調査会理事、同特別委員会水産連盟委員長である、この間愛媛縣地方森林会議員、市町村吏員懲戒及び土地收用の各審査委員会委員、都市計画地方委員会委員等を命ぜられ、今治市学務、港湾、戰災復興その他各種委員に選任せらる、又中央職業委員会委員仰せつけうる○愛媛縣漁連副会長、同縣商工経済会評議員、今治商工会議所及び全國水産煉製品工業協同組合各顧問その他各種組合の組合長、理事、理事長等を経て東予運送、今治水産工業各株式会社社長、愛媛漁網各株式会社取締役、愛媛縣水産業会々長、廣島化成工業、愛媛縣となり現在に至る○当選二回（22 23）

## 梅林時雄

大分縣第一區選出、民主党
会社重役

明治三十九年十一月福岡縣築上郡吉富町に生る、明治大学政治経済科卒業○東洋産業開発、東洋商事、東洋加工、梅林土木等の各株式会社取締役社長、株式会社梅林組專務取締役、東洋耐火木材株式会社取締役、大分液体燃料株式会社取締役会長となり、大分縣地方社会保險審査会委員、大分縣労務報國会副会長、同縣協和会評議員、同縣土木建築工業組合理事長となる、現に西日本工業、梅林土木の各株式会社取締役会長、東洋土地建物株式会社相談役、日本建設工業統制組合大分縣支部長、大分縣石材採掘工業組合理事長である、又民主党々務部副部長、同政務調査会理事である○当選一回（23）

## 海野三朗

山形縣第一区選出、日本社会党
僧侶、理学博士

明治二十二年九月山形縣山形市小姓町に生る、東北帝國大学理科大学物理学科卒業、「鉄銅の研究」「科学と宗教」等の著書がある○縣立米沢中学校教諭、製鉄所技師等を歴任し、八幡製鉄所研究所員、日本製鉄理事、同研究所調査部長となる、技術院の事務を嘱託せられ、生産技術部金属技術課に勤務す○当選二回（22 23）

## 江崎眞澄

愛知縣第三区選出、日本自由党

大正四年十一月愛知縣一宮市須崎町に生る、東邦商業学校卒業「新生日本ニ叫ブ」の著書がある○東邦商業学校教員、大同製鋼株式会社々長秘書となる、さきに名古屋購買組合常任理事となり現在に至る、中央職業紹介委員会委員仰せつけらる、日本自由党幹事、同政務調査会労政部々長となり、現に同党青年部々長である○当選二回（22 23）

## 衞藤速

福岡縣第四区選出、日本社会党
石炭採掘業

明治二十七年九月大分縣宇佐郡龍王村に生る○川崎町会議員に選ばれ、田川商工会議所副会頭に挙げらる、大進鉱業株式会社代表取締役、耶彦新聞名誉社長となる、石炭採掘業東豊炭鉱を経営し現在に至る、現に日本社会党田川支部顧問である○当選一回(23)

## 小笠原八十美

青森縣第一区選出、日本自由党
農、畜産業

明治二十一年六月青森縣上北郡十和田村に生る○しばしば三本木町会議員、青森縣会議員、同参事会員等に当選し、三本木産馬畜産組合長、同畜産組合長、同養蚕実行組合長、同家畜保険組合長、同町農会総代、上北郡水産会長、青森縣馬匹組合連合会長、同町農会総代、上北郡水産会長、青森縣漁業会理事等に挙げらる○所得調査委員、東日本産馬会副会長、日本馬事会評議員等を命ぜられ、内閣委員、内務省委員、鉄道会議々員、中央社会事業委員会委員等仰せつけらる○上北貨物自動車、十和田鉄道各株式会社々長となる、日本自由党常議員、同社会部々長、同政務調査会畜産部長となり、現に同党総務である、さきに厚生政務次官に任ぜらる○当選五回（19 20 21 22 23）

## 小川半次

京都府第一区選出、民主党
会社重役

明治四十二年九月石川縣河北郡高松町に生る、立命館大学法律科卒業○京都市会議員及び京都府会議員に各三選せらる、この間京都中学校嘱託、京都精工株式会社取締役、株式会社平安製作所取締役となり、関東六大学野球連盟顧問、全日本学生相撲連盟理事となる○日本進歩党幹事となり、現に民主党総務委員、同青年部々長、同政務調査会理事、同会厚生部会部会長である、さきに厚生大臣秘書官に任ぜられ、引揚援護院参與仰せつけられる○当選二回（22 23）

## 小川原政信

北海道第一区選出、日本自由党
農業

明治十五年一月福井縣大野郡上穴馬村に生る○北海道倶知安第一尋常小学校訓導兼校長に任ぜらる、三度北海道会議員、四度同参事会員に当選す○北海道綜合計画委員会、同道政調査委員会、同農地委員会、同農業会農政委員会各委員、同農業会設立委員等を命ぜられ、後志農保險組合副組合長、同馬匹組合長、北海道馬事牧野協会副会長、同農業会後志支部指導部長等に挙げらる、現に日本自由党総務である○当選二回（22 23）

## 小澤佐重喜

岩手縣第二区選出、日本自由党
弁護士

明治三十一年十一月岩手縣膽沢郡水沢町に生る、日本大学法科卒業○弁護士試験に合格、東京に於て弁護士を開業す、三度東京市会議員、再度同府会議員に選ばる、この間東京市佛貨常設、予算、航空港常設、学務の各委員となり、市、府各参事会員となる、又日本自由党幹事となり、現に同党情報部々長、同総務である、さきに運輸大臣秘書官に任ぜらる○当選二回（22 23）

## 小澤專七郎

福島縣第三区選出、民主党
会社々長

明治三十八年三月福島縣石城郡上遠野村に生る、東京高等工科学校電機科に学ぶ○日本國民食糧株式会社、日本製塩株式会社、茨城縣合同罐詰株式会社、小沢木材工業株式会社、日東石材株式会社等の各社長、財團法人東京保護事業協会々長となる、現に民主党総務委員である○当選一回（23）

## 小野　孝

山形縣第一区選出、民主党
常任委員長

明治二十六年七月山形縣鶴岡市馬場町に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業○青森縣師範学校講師嘱託、報知新聞社員、日本故銅統制株式会社々員、金属回收統制株式会社々員、粉砕鉄球統制株式会社事務理事となる、財政收支調整調査会委員仰せつけらる、日本自由党政務調査会理事、同鉄鋼部々長となり、現に民主党政務調査会理事である、又衆議院厚生委員会委員長である○当選二回（22 23）

## 小野瀬　忠兵衞

茨城縣第一區選出、同志クラブ
商業

明治三十二年八月茨城縣新治郡九重村に生る、慶應義塾大学部理財科卒業〇株式会社興亞製作所社長、茨城縣塩業株式会社取締役、同縣肥料卸商業組合理事長、同龍ヶ崎地方生活必需品配給統制組合理事長、同食料品配給統制組合理事長となる〇茨城縣司法保護委員会委員、恩給金庫評議員を命ぜられ、恩給制度調査会委員を委嘱せらる、日本進歩党常議員、同民情部々長、民主党民情部々戸、同政務調査会理事、同会公團法対策特別委員会理事となる〇当選二回（22 23）

## 尾崎　末吉

鹿兒島縣第二區選出、同志クラブ
会社重役

明治二十七年四月鹿兒島縣出水郡阿久根町に生る、日本大学専門部法律科に学ぶ〇東京相愛女学校々長となる、東京土地埋立株式会社、日本ポスター掲示株式会社各常務取締役、大森乘合自動車株式会社々長、日本旅行株式会社、昭和鋼業株式会社各專務取締役、朝日航空工業株式会社取締役となり、現に朝日ミシン製造株式会社取締役である、さきに民主党常議員、同政務調査会理事となる〇当選一回（23）

## 尾崎　行雄

三重縣第二區選出、無所属

安政六年十一月神奈川縣津久井郡中野町に生る、慶應義塾に学ぶ〇統計院權少書記官、外務省参事官、文部大臣、司法大臣等を歷任す、再度東京市長に挙げらる、さきに新潟新聞、報知新聞、朝日新聞各記者となる、日本大博覽会評議員仰せつけらる、欧米に漫遊す、又第十六回列國議会同盟会議に参列す〇永年在職議員として衆議院より表彰せらる〇当選二十三回（1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23）

## 織田　正信

香川縣第一區選出、第一議員倶樂部
新聞社主幹

大正十年十二月香川縣木田郡牟礼村に生る、東京文理科大学教育学科卒業〇現に公正新聞社主幹である〇当選一回（23）

## 生越三郎

島根縣選出、同志クラブ
学校理事長

明治三十年四月島根縣美濃郡益田町に生る、大阪工業專門学校機械科卒業〇合資会社東京大同商会代表社員、日本電氣漂白株式会社專務取締役、三星工業株式会社、日本機械車輛工業株式会社取締役、三星工業株式会社、日本機械車輛工業株式会社取締役、現に日本化機工業株式会社取締役社長となり、現に日本化機工業株式会社取締役、財團法人石見工業学校理事長である、さきに民主党幹事、同政務調査会商工部会電氣委員会委員長、同党島根縣支部総務となる〇当選一回（23）

## 大石ヨシエ

京都府第二区選出、日本社会党

明治三十年二月京都府舞鶴市魚屋に生る、大阪信愛高等女学校卒業〇奉天毎日新聞婦人部顧問、人類愛善会総務となり、現に新日本婦人会々長である、さきに婦人問題並びに政治、社会問題調査研究のため米國各地及び中華民國各地を視察す〇当選二回（22 23）

## 大石倫治

宮城縣第二区選出、日本自由党

明治十年六月宮城縣仙台市に生る〇三度仙台市会議員に当選す、仙台市都市計画地方委員、帝國馬匹協会監事、日本馬事会監事等を命ぜられ、國有財産調査会、中央開拓委員会各委員、復興金融金庫設立委員等仰せつけらる〇東北自動車学校長、東北土地漆器株式会社專務取締役、宮城石材工業株式会社、株式会社キヤバレー・オリエントの各取締役社長となる〇日本自由党常議員となり、現に同党々務部々長、同総務である、さきに農林政務次官に任ぜらる、派遣議員團員として「タイ」國を視察す〇当選六回（17 18 19 20 22 23）

## 大内一郎

福島縣第一区選出、日本自由党
著述業

明治二十四年三月福島縣安達郡針道村に生る、早稲田大学專門部政治経済科に学ぶ、「電力問題と東北モンロー主義」の著書がある〇四度福島縣会議員に当選、五度公立福島病院組合会議員に挙げらる、さきに福島新聞記者、福島民報主筆、読賣新聞福島支局長となる、二本松自動車会社々長、同富士商事株式会社々長、安達郡竹細工組合長に挙げらる、日本自由党幹事となり、現に同政務調査会電氣委員会副委員長である〇当選二回（22 23）

## 大上司

兵庫縣第四区選出、民主党
会社重役

大正三年十月兵庫縣赤穗郡赤松村に生る、立命館大学法経学部卒業〇税務署属、財務局属等を歴任し、後大阪新聞社、大阪時事新報、産業経済新聞社各記者となる、又港女子商業学校理事となり、現に大阪高等女学校名誉校長、財團法人内外財務研究所理事長、上田証券株式会社監査役である、さきに民主党常議員、同政務調査会理事となる〇当選一回（23）

## 大神善吉

福岡縣第一区選出、第一議員倶樂部
土木建築請負業

明治二十九年六月福岡縣福岡市中小路町に生る、中央大学経済科卒業〇筑紫郡春日村長に挙げらる、代書及び建築代願業を経て土木建築請負業を営み、有限会社大神商会を設立す、瑞穗工業株式会社々長となり現在に至る〇当選一回（23）

## 大島多藏

佐賀縣選出、國民協同党

明治三十六年一月佐賀縣杵島郡江北村に生る、九州帝國大学法文学部卒業〇公立中学校教諭に任ぜられ、佐賀縣立鹿島中学校教諭に補せらる、さきに宮崎縣立都城中学、熊本縣立中学済々黌、佐賀縣立佐賀商船、同武雄中学、同唐津中学、長崎縣立諫早中学、同対馬中学校等の各教諭を歴任す、國民党青年部副部長となり、現に國民協同党中央委員、同文教部々長兼宗教部々長である〇当選二回（22 23）

## 大島義晴

群馬縣第二区選出、日本社会党
農業

明治二十七年十二月群馬縣新田郡尾島町に生る〇日本友愛会向島支部長として労働者開放運動に携わり、米國ワシントン市に於ける第一回國際労働会議に労働代表顧問として出席す、奥利根自動車株式会社副社長、東武自動車株式会社取締役、東群馬貨物自動車株式会社々長となる、又尾島町農業会々長、群馬縣農業会副会長となる、現に新田農民組合長、日本農民組合縣連合会々長である〇当選一回（23）

## 大澤嘉平治

栃木縣第二区選出、民主党

会社々長

明治三十八年五月群馬縣群馬郡長野村に生る、法政大学商業学校に学ぶ○佐野商工会議所会頭となる、又佐野合同自動車、昭和自動車工業、東亜電化工業、二里山林業等の各株式会社取締役、佐野織維工業、東亜産業、野州織維工業、安足産業、佐野合同トラック、東亜産業、栃木組、日本化工各株式会社、栃木石灰有限会社等の各取締役社長等を経て栃木合同貨物自動車、関東自動車各株式会社監査役、東亜産業、安足自動車運送各株式会社取締役社長となり現在に至る、又民主党常議員である○当選一回（23）

## 大瀧亀代司

山形縣第一区選出、日本自由党

弁護士、会社々長

明治三十一年十月山形縣西置賜郡蚕桑村に生る○大正十二年弁護士試験に合格、弁護士を開業し現在に至る、全日本弁護士会理事、第一東京弁護士会常議員となる、現に株式会社大興社取締役社長である、又日本自由党々務部副部長、同政務調査会予算委員会副委員長である○当選一回（23）

## 大野伴睦

岐阜縣第一区選出、日本自由党

明治二十三年九月岐阜縣山縣郡谷合村に生る、明治大学並びに早稲田大学に学ぶ○東京市会議員に選ばれ、終身市会議員の待遇を受く、内務政務次官に任ぜらる、国民貯蓄奨励委員会、地方制度調査会、地方分與税委員会、持株会社整理監査委員会、同調査会、国土計画審議会各委員等仰せつけらる、さきに派遣議員団理事として「タイ」國を、又東京市並びに財団法人労資協調会の嘱託に依り欧米等を視察す○日本自由党常議員、同総務となり、現に同党幹事長である○当選六回（17 18 19 20 22 23）

## 大原博夫

廣島縣第二区選出、國民協同党

常任委員長

明治二十七年三月廣島縣豊田郡河内町に生る、慈恵会医科大学卒業○四度河内町会議員、五度廣島縣会議員に当選す、この間河内町長、縣会副議長に挙げらる、又廣島縣選挙肅正委員会、同縣経済更生委員会、同縣旱害対策委員会各委員、廣島縣医師会々長、日本医師会理事等に選任せられ、廣島縣地方優生審査委員会委員、大日本母子愛育会、結核予防会、日本医療團各廣島縣副支部長等を嘱託せらる、地方制度調査会廣島財務局管内不動産評價委員会委員等仰せつけらる、同党常任中央委員、同政策調査会財経部々長となり、現に國民協同党中央常任委員である○当選二回（22 23）

## 大宮伍三郎

廣島縣第三区選出、民主党

会社重役

明治三十年十月廣島縣沼隈郡赤坂村に生る、明治大学政治科に学ぶ○名古屋新聞東京支社長、同專務理事、株式会社名古屋野球会社取締役、科学工業新聞社取締役、新聞共販組合中部連合会々長等を経て廣島縣松永浜製塩工業所社長となり現在に至る、さきに產業復興、営團設立委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 大村清一

岡山縣第一区選出、日本自由党

弁護士

明治二十五年五月岡山縣津山市西今町に生る、京都帝國大学法学部独法科卒業○高等文官試験合格、内務属、鹿兒島縣揖宿郡長、地方事務官、内務事務官、内務書記官、内務省地方局長、同警保局長、社会局長官、長野縣知事、神奈川縣知事、文部次官、内務次官、内務大臣等を歴任し、貴族院議員に勅選せらる、この間土木会議々員、中央衞生会、社会保険調査会、教育審議会、勅任文官銓衡委員会、資格審査委員会等の各委員、議院制度調査会幹事等仰せつけらる、又東京市助役、大日本育英会理事長となる、現に弁護士を開業し、日本林業会長、日本自由党顧問である○当選一回（23）

## 大森玉木

石川縣第二区選出、民主党

土木建築請負業、興行業

明治十九年三月石川縣七尾市直津町に生る○石川縣会議員、七尾町会議員に選ばる、西湊村農会長、鹿島七尾連合畜産組合長、七尾市農会長、七尾鹿島馬匹組合長、石川縣馬匹組合連合会副会長、浅草興業組合理事となり、七尾税務署管内所得税調査委員、金沢地方裁判所各種調停委員に選任せらる、現に石川縣木材林産組合連合会々長である、又民主党常任幹事である○当選一回（23）

## 大矢省三

大阪府第一区選出、日本社会党

明治二十六年三月三重縣志摩郡鵜方村に生る○機械旋盤工として大阪鉄工所、住友鉄鋼所その他の工場等に勤務し福岡ポンプ製作所社員として現在に至る、この間四度大阪市会議員に選ばれ、大阪府賃金委員に挙げらる、又日本労働総同盟中央委員、日本労働組合総同盟大阪連合会主事、社会民衆党、社会大衆党各中央執行委員を経て日本社会党中央執行委員となり、現に日本社会党代議士会副会長である、さきに地方制度調査会委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 太田典禮

京都府第二區選出、日本社會党
醫師、醫學博士

明治三十三年十月京都府與謝郡三河内村に生る、九州帝國大學醫學部卒業○昭和二年醫師を開業し、昭和二十年醫學博士の學位を得て今日に至る○當選一回（23）

## 岡井藤志郎

愛媛縣第一區選出、日本自由党
弁護士

明治二十八年五月愛媛縣伊予郡松前町に生る、東京帝國大学法學部法律学科卒業○高等試驗行政科合格、司法官試補を経て判事に任ぜられ、廣島、松江、奥、尾道、岡山、山口、横浜の各地方裁判所又は区裁判所等の判事、横浜地方裁判所部長等に補せらる、昭和二十一年弁護士開業現在に至る○當選一回（23）

## 岡田春夫

北海道第四区選出、日本社會党
木材業

大正三年六月北海道空知郡美唄町に生る、小樽高等商業学校卒業○北海道会議員及び同参事会員にそれぞれ再選せらる、北海道治療師会副会長、同麺類統制組合理事長、札幌俸給者組合執行委員長となる、現に日本社会党青年部次長である、さきに札幌財務局管内不動産評價委員会委員仰せつけらる○當選二回（2223）

## 岡田勢一

德島縣選出、國民協同党
常任委員長

明治二十五年八月德島縣麻植郡牛島村に生る○大阪商工会議所常議員に選ばる、大阪市空海事工業部技師、船舶引揚解体業統制組合理事長、德島縣木造船組合理事長、日本潜水協会理事となり、株式会社岡田組、岡田商船株式会社、德島工業株式会社等の各取締役社長、東洋サルベージ株式会社取締役となる、國民協同党中央常任委員会議長となり、現に同党中央常任委員、同書記長である、又衆議院通信委員会委員長である、さきに船員中央労働委員会臨時委員を委嘱せられ、産業復興當團設立委員、復興金融金庫設立委員、高松財務局管内不動産評價委員会委員等仰せつけらる○當選二回（2223）

## 岡野繁藏

靜岡縣第一區選出、民主党
貿易業

明治二十七年六月靜岡縣志太郡青島町に生る、育英学校中学科に学ぶ〇在スラバヤ東洋貿易株式会社支配人となり、後貿易業大信洋行を創業、スマラン市、バタビヤ市、チエリボン市、パレンバン市、マカッサル市等に支店を設け、日本商品の蘭領各地への輸入業を営み、ついで千代田百貨店をスラバヤ市、バンドン市、バタビヤ市、ジョクジヤ市、マゲラン市等に開設しデパート業を経営す、現に民主党常議員である〇当選一回(23)

## 岡部得三

福岡縣第二區選出、無所属
運輸業

明治四十二年七月福岡縣遠賀郡中間町に生る、東京高等工業学校建築科卒業〇岡部組八幡市黒崎出張所長、株式会社岡部組監査役、同代表取締役、同取締役社長を経て株式会社岡部組取締役社長となり現在に至る、さきに若松市建設連合会の創立に際し、その創立委員、同事務理事となる〇日本進歩党常任幹事、民主党々務部々長、同政務調査会副会長となる〇当選二回(22 23)

## 岡村利右衞門

岐阜縣第二區選出、日本自由党
会社重役

明治三十三年十月岐阜縣吉城郡國府村に生る、早稲田大学政治経済科卒業、ペーツ大学、コロンビヤ大学、ニューヨーク大学等に学び、同大学院卒業、「マスター・オブ・ビジネス・アドミニストレーション」の学位を受く〇逓信省嘱託を経て社團法人電氣協会弁理課長、北支那開発株式会社々員となり、現に飛驒農工開発株式会社取締役、さくら水産株式会社々長、合名会社國富製材所代表取締役である、又日本自由党渉外部副部長、同幹事、同政務調査会理事である〇当選一回(23)

## 奥村竹三

京都府第二區選出、日本自由党
農業

明治二十九年三月京都府船井郡西本梅村に生る、京都府師範学校卒業〇船井郡田原小学校訓導、同檜山小学校訓導兼校長、兼檜山村実業補習学校長、京都府社会教育主事補、京都府属兼同視学等を経て公立小学校訓導兼校長、公立青年学校々長兼教諭等に任ぜられ、園部第二小学校訓導兼校長、園部町実業補習学校長兼教諭、園部町実業青年学校長等を歴任す、日本自由党京都支部総務となる〇当選一回(23)

## 押川定秋

宮崎縣第一区選出、民主党
弁護士

明治二十三年五月宮崎縣兒湯郡高鍋町に生る、明治大学法科卒業○弁護士試驗に合格、弁護士を開業現在に至る、神奈川縣農機具工業組合、同農機具工業統制組合、同農機具工業統制組合、同農機具工業協同組合等の各理事長となり、滿洲國、北支及び中支の農業、文化を視察す、さきに合資会社細王舍工場代表社員となる、現に民主党常任幹事である○当選一回（23）

## 加藤勘十

愛知縣第一区選出、日本社会党
常任委員長

明治二十五年二月愛知縣丹羽郡岩倉町に生る、日本大学專門部法科に学ぶ「階級戰の先頭を行く」外数種の著書がある○東京市会議員に選ばる、さきに雜誌「労働世界」記者、東京毎日新聞記者、東京新聞從業員組合、日本機械技工組合各顧問、日本鉱夫総連合主事兼鉱夫組合各本部会計、同相談役、日本労働總同盟、日本農業労働組合、全労全國統一会議、日本労農党中央執行委員、関東金属產本無產党各中央執行委員長等を経て日本社会党常任中央執行委員、同党組合委員会委員長となり今日に至る、現に衆議院労働委員、中央経済再建整備委員会委員長である○名古屋財務局管内不動產評價委員会委員、労働團体及び宗教團体の招聘を受け渡米し日米労働者の親善運動をなす○当選四回（1920 22 23）

## 加藤吉太夫

福井縣選出、日本農民党
農業

明治二十八年二月福井縣今立郡中河村に生る、縣立武生中学校卒業○中河村長に挙げらる、さきに同村德尾合同耕地整理組合長となり、引続き現在に至る、又日本農民党々務部長、同会計である○当選一回（23）

## 加藤シヅエ

東京都第二区選出、日本社会党
著述業

明治三十年三月東京都文京区本郷西片町に生る、女子学習院卒業、紐育バラード・スクールに学ぶ、英文「フェーシング・ツーウエース」「イーストウエー、ウエストウエー」の著書及び「麦と兵隊」の英訳書等がある○しばしば欧米各國を視察し、米國へ講演旅行をなす、地方制度調査会臨時委員仰せつけらる、現に日本社会党渉外部次長である○当選二回（22 23）

## 加藤靜雄

靜岡縣第一区選出、日本社会党
水產業、鉄工業

明治四十四年四月靜岡縣志太郡豊田村に生る、京都帝國大学法学部法律学科卒業○合資会社東亜製作所副社長、焼津水產株式会社取締役社長となり現在に至る、又日本社会党情報部次長である○当選一回（23）

## 加藤隆太郎

東京都第五区選出、日本自由党
印刷業

明治二十年三月東京都練馬区東大泉町に生る、大原簿記学校修業○大泉村会議員、板橋区会議員に各三選せられ、板橋区会副議長、同議長に挙げらる、又東京府会議員、同市会議員、同都会議員、東京都参事会員に選ばる、この間大泉村助役、同農業会長となる、漬物、罐詰製造業を廃業後印刷業を経営し今日に至る、現に社團法人東京都耕地協会副会長である、又日本自由党経理部副部長、同幹事である○当選一回（23）

## 花月純誠

滋賀縣選出、日本自由党
僧侶

明治三十年八月滋賀縣坂田郡柏原村に生る、京都帝國大学経済学部卒業○滋賀縣立彦根中学校教諭に任ぜられ、鉄道々友会講師を嘱託せらる、再度滋賀縣会議員、同縣名誉職参事会員に選ばる、近江新報社主幹となり、又本願寺協力会議事務局長、日本佛教会教化局長、日本宗教会総務局総務部長、眞宗本願寺派宗会議員となる、日本自由党幹事、同政務調査会文化部々長となり、現に同党総務である○当選二回（22 23）

## 鍛冶良作

富山縣第一区選出、日本自由党
弁護士

明治二十八年二月富山縣下新川郡生地町に生る、明治大学法学部法科卒業○弁護士登用試験合格、弁護士を開業現在に至る、この間神田区会議員に選ばれ、廣瀬大藏大臣秘書、昭和女子薬学専門学校講師、光明電氣鉄道株式会社取締役、東京弁護士会常議員議長、生命保険中央会監事となる、又しばしば東京弁護士会常議員及び日本弁護士協会理事に選ばれ、チエッコスロバキヤ國において開催の万國法曹大会に日本弁護士協会代表として出席し、欧米各國を視察す○現に光明電氣鉄道株式会社清算人、日野產業株式会社監査役である、又日本自由党幹事である○当選一回（23）

## 角田幸吉

宮城縣第二区選出、日本自由党
弁護士、大学教授、法学博士

明治二十九年五月宮城縣牡鹿郡渡波村に生る、法政大学專門部法律科卒業、「家族法論」「親族法論考」「日本親子法論」等の著書がある〇弁護士試驗合格、弁護士を開業し、法政大学法学部教授となり現在に至る、又日本自由党幹事である、さきに家事審判制度調査委員会委員仰せつけらる〇当選一回（23）

## 笠原貞造

新潟縣
弁護士　第一区選出、日本社会党

明治三十四年八月群馬縣利根郡片品村に生る、早稲田大学附属專門学校政治経済科卒業〇高等試驗司法科合格、弁護士を開業現在に至る〇大日本弁護士報告会新潟支部理事、社会大衆党、全國農民組合各新潟縣連合会執行委員となり、現に日本農民組合新潟縣連合協議会々計、同新潟縣支部連合会書記長である〇当選一回（23）

## 梶川靜雄

鳥取縣選出、日本社会党
会社々長

大正三年八月鳥取縣氣高郡鹿野町に生る、九州帝國大学卒業〇宝鉱業合資会社專務となる、鳥取縣労働組合会議、同縣工業会、同縣杞柳工業協同組合、日本農民組合鳥取縣支部連合会各顧問、労農科学研究会理事長等の外、鳥取蚕具株式会社々長、君司興産株式会社顧問となり、又日本社会党鳥取支部書記長、同鳥取縣連常任委員となり現在に至る〇当選一回（23）

## 柏原義則

德島縣選出、日本自由党
宗教家

明治三十三年二月德島縣德島市幟町に生る、京都帝國大学文学部哲学科卒業〇天理外國語学校教授、天理中学校長兼天理第二中学校長等を経て天理教名東大教会長、天理教德島教区廳長となり現在に至る、この間德島縣神道連盟会長、日本宗教会德島縣支部事務局総務部長兼神道部長となり、又高松地方株式等評價委員会委員仰せつけらる、現に日本自由党遊説部副部長、同幹事である〇当選二回（22 23）

## 片岡伊三郎

千葉縣第三区選出、日本自由党
会社重役

明治二十七年七月千葉縣山武郡東金村に生る、縣立成東中学校卒業○合名会社片岡商店社員、大洋土地建物株式会社々長、千葉縣繊維製品統制株式会社々長となり、又千葉縣商工経済会理事、同評議員に選任せられ現在に至る、日本自由党幹事となり、現に同党総務である○当選二回（22 23）

## 片島港

宮崎縣第一区選出、日本社会党

明治四十三年四月宮崎縣東臼杵郡北郷村に生る、逓信官吏練習所第二部行政科卒業、「通信事業経営」「通信事業概要」「労働組合のつとめ」等の著書がある○高等文官予備試験合格、逓信属、逓信省養成係長、逓信事務官等を歴任す、全逓信従業員組合常任中央執行委員となる○当選一回（23）

## 片山哲

神奈川縣第三区選出、日本社会党
内閣総理大臣

明治二十年七月和歌山縣西牟婁郡田辺町に生る、東京帝國大学法科大学卒業「政治的自由の獲得」「民主々義政治の大道」「日本社会主義の展開」「人事調停法」外数種の法律に関する著書がある○東京女子大学講師となる、社会民主党書記長、日本労働総同盟法律部長、日本農民、日本漁民各組合顧問、日本農民組合総同盟会長、社会大衆党常任中央執行委員、日本社会党書記長となり、現に同党中央執行委員長である○労働者災害扶助責任保険審査委員会、選挙制度調査会、百貨店委員会、司法制度調査委員会、中小産業調査会、持株会社整理監査委員会各委員等仰せつけらる○現に内閣総理大臣である○当選五回（17 19 20 22 23）

## 勝間田清一

靜岡縣第二区選出、日本社会党
國務大臣秘書官

明治四十一年二月靜岡縣駿東郡印野村に生る、京都帝國大学農学部農林経済科卒業、「日本農業ノ統制機構」の著書がある○農工協力中央会、硫安肥料製造業組合の各常務理事となる、さきに企画廳副調査官、企画院調査局調査官に任ぜられ、内閣調査局専門委員仰せつけらる、現に和田國務大臣秘書官である、又日本社会党靜岡縣駿東支部長である○当選一回（23）

## 叶　凸

大阪府第四区選出、日本社会党

明治四十一年九月愛媛縣越智郡東伯方村に生る、早稲田大学専門部政経科に学ぶ〇全國農民組合本部員となり農民運動に携わり、日本農民組合、日本社会党各中央委員となる、布施市会議員に当選す、現に布施市嘱託である〇当選二回（22 23）

## 金子益太郎

栃木縣鉄工業

栃木縣第二区選出、日本社会党

明治三十年七月栃木縣栃木市入船町に生る、栃木市会議員に再選せらる、さきに退職手当積立法案栃木縣委員会委員、栃木縣職業紹介委員等を命ぜらる〇全國農民組合、全國労農大衆党等の栃木縣連合会常任委員、社会大衆党栃木縣連合会書記長、同会長、農地制度改革同盟栃木縣支部長等を経て鉄工業を経営現在に至る〇当選二回（22 23）

## 金光義邦

大分縣第一区選出、民主党

厚生政務次官

明治四十二年三月福岡縣筑紫郡山家村に生る、東京帝國大学経済学部経済学科卒業〇王子電氣軌道、東亜煙草、日本人造羊毛、南武鉄道、愛國工業、高丘製作所、東京セールス各株式会社取締役、山陽電氣鉄道株式会社監査役、新日本火災海上保険、日本教育生命保険、大正生命保険各株式会社取締役社長となる、又日本進歩党会計監督、同政務調査会副会長となり、現に厚生政務次官である〇当選二回（22 23）

## 上林與市郎

山形縣第二区選出、日本社会党

農業

明治四十五年一月山形縣東田川郡泉村に生る、中央大学法学部英法科卒業〇酪農経営を主体とする開拓農場を建設す、山形縣食糧調整委員会副委員長、増加所得税調査委員を命ぜらる、現に日本農民組合田川地方協議会々長、同中央委員、日本社会党山形縣連合会常任執行委員である〇当選一回（23）

## 上林山榮吉　鹿兒島縣第一区選出、日本自由党

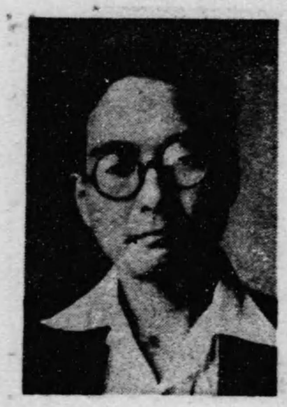
明治三十六年十月鹿兒島縣揖宿郡指宿村に生る、日本大学法律学科卒業○鹿兒島縣農林主事補に任ぜらる○三度鹿兒島市会議員、同参事会員、再度同縣会議員、同参事会員に選ばる、全國水産煉製品統制組合監事、鹿兒島縣水産煉製品統制組合理事長、同縣製靴工業組合理事長となる○日本自由党常議員、同政務調査会内務部副部長、同政務調査会理事、同國土計画部々長となり、現に同党総務、同遊説部々長である、さきに船員失業対策委員会委員を委嘱せられ、國土計画審議会委員仰せつけらる○当選二回（22・23）

## 唐木田藤五郎　長野縣第二区選出、國民協同党

明治三十年七月長野縣埴科郡屋代町に生る、上田蚕糸専門学校卒業○日本蚕糸機械商会、日本発明株式会社、日本ダイガスト株式会社、東京府空地利用協会、東亜繭革株式会社、有限会社東亜繭革研究所等を創立す、この間朝鮮、満洲、蒙古、中國、佛印、比島、米國、南洋、印度、濠洲等を視察旅行す、信濃毎日新聞社客員となる、現に國民協同党中央委員、同会計監督である○当選一回（23）

## 川合彰武　靜岡縣第三区選出、日本社会党

明治三十九年九月靜岡縣浜名郡笠井町に生る、中央大学法学科卒業、「朝鮮工業ノ現段階」の著書がある○朝鮮機械工業統制協会常務理事となり、現に協同産業株式会社取締役社長である、又日本社会党浜松支部書記長である○当選一回（23）



## 川越博　宮崎縣第二区選出、國民協同党

明治四十四年二月宮崎縣都城市中原町に生る、東京青山学院高等学部英語師範科卒業○報知新聞社記者、東亜研究所嘱託、日本興亜同盟書記等を経て社團法人輿論科学研究所理事となる○協同民主党事務局次長、同宣傳部々長、同民情部々長、同選挙対策委員会副委員長を経て國民協同党青年部々長となり、現に同党中央委員、同情報宣傳部々長、同出版部々長である○当選二回（22補23）

## 川崎秀二

三重縣第一区選出、民主党
著述業

明治四十四年九月大阪市東区清水谷町に生る、早稲田大学政治経済学部経済科卒業、「戰況報道の眞相」の著書がある〇日本放送協会に入社、亞洲部副部長、同企画部副部長となり、雜誌「陸上日本」の編集責任者、東京オリンピック組織委員会編集委員等を経て日本陸上競技連盟常務理事となる〇日本進歩党常任幹事、同青年部副部長、同部長となり、現に民主党總務委員、同政務調査会副会長である〇さきに文部参與官に任ぜられ、國語審議会委員仰せつけらる〇当選二回（2223）

## 川島金次

埼玉縣第一区選出、日本社会党
会社重役

明治三十六年九月埼玉縣大宮市に生る、中央大学経済学科卒業〇大宮町会議員、埼玉縣会議員に選ばる、さきに日本連合通信社政治部記者となり、退職後は日刊大宮夕刊を発行し、ついで埼玉新聞社発行名儀人兼理事等を経て第一冶金工業株式会社取締役社長となり現在に至る、財政收支調整調査会委員仰せつけらる、日本社会党大宮支部長、同埼玉縣連合会常任執行委員となり、現に同党政務調査会副会長、同議案審査委員会副会長である〇当選二回（2223）

## 川野芳滿

宮崎縣第一区選出、國民協同党
酒造業

明治三十一年九月宮崎縣宮崎市末廣町に生る、慶應義塾專修科卒業〇昭和三年より引続き宮崎市会議員に当選、同名誉職参事会員に選ばる、宮崎縣方面委員、宮崎税務署管内所得税調査委員、宮崎地方裁判所調停委員に挙げらる、熊本財務局管内不動産評價委員仰せつけらる〇宮崎縣酒造組合副理事長、同業務酒共販組合理事長、同組合長、同酒販組合連合会副会長、同生活必需品商業統制組合理事長、同酒類販賣株式会社取締役、同酒造株式会社々長となる〇協同民主党政策調査会商工部長、同協同民主党中央常任委員となり、現に同党中央委員、同代議士會副会長である〇当選二回（2223）

## 川橋豊治郎

京都第一区選出、日本自由党

明治十六年十二月奈良縣北葛城郡新庄村に生る、早稲田大学專門部法律科卒業、「野人森田茂」の著書がある〇京都市会議員に三選せられ、同市会副議長、同市名誉職參事会員に挙げらる、又京都府方面委員に選ばる、東西電球、壽重工業各株式会社取締役となる、石油業委員会委員仰せつけらる、現に日本自由党政務調査会治安及び地方制度委員会委員長である〇当選二回（1923）

**川村善八郎**　北海道第三区選出、日本自由党

漁業、水産物加工業

明治二十五年九月北海道茅部郡森町に生る○森町会議員に四選せられ、北海道会議員に選ばる、森漁業協同組合理事、同漁業会専務理事、渡島水産会代議員、北海道漁業組合連合会常務理事となり、現に森漁業会々長、北海道綜合開発水産専門委員、同水産物製造業会森支所長、同森町農地委員、同水産業会常務理事、副会長である、又日本自由党北海道支部総務、同党政務調査会水産委員会副委員長である○当選一回（23）

**河井榮藏**　大阪府第一区選出、日本社会党

弁護士、会社重役

明治二十三年一月愛媛縣喜多郡新谷村に生る、東京帝國大学法科大学独法科卒業○現に株式会社大行社化機製作所取締役、有限責任第一貯蓄信用組合理事である○当選一回（23）

**河合義一**　兵庫縣第三区選出、日本社会党

農業

明治十五年三月兵庫縣加古郡高砂町に生る、東京外國語学校佛語科卒業○高砂町会議員に四選せらる、さきに日本銀行員となり、後日本農民組合東播連合会々長となる、現に日本農民組合兵庫縣連合会々長、日本社会党中央委員である○当選二回（20 23）

**河口陽一**　北海道第二区選出、日本農民党

農業

明治三十九年三月富山縣下新川郡上中島村に生る○北海道廳劇毒物管理者試験合格○北海道廳農産物検査員を嘱託せらる、永山産業組合書記、同主事を経て永山村農業会常務理事、同副会長、同会長に挙げられ、北海道上川青果物出荷組合常務理事となる、日本農民党設立準備副委員長、同党永山村支部長となり、現に同党政務調査部々長である○当選一回（23）

## 神山榮一

新潟縣第三区選出、民主党
会社々長

明治二十五年十一月新潟縣長岡市表町に生る、縣立新潟商業学校卒業○長岡商工会議所議員、同副会頭、長岡区裁判所人事調停委員、長岡市復興委員会参與等に選任せられ、新潟縣食糧営團理事長、長岡商工経済会理事等に挙げらる、東日本砂糖元賣商業組合、新潟縣小麦粉卸商業組合各理事、新潟縣肥料卸商業組合、同縣乾麺澱粉卸商業組合、同縣肥料資源生産配給組合各理事長、日本砂糖配給統制会社参與等となり、合資会社神山商店代表社員、長岡合同運送、惠比壽製菓、松ケ崎造船、新潟塩業等の各株式会社取締役、株式会社興板屋呉服店社長、越後製塩工業株式会社取締役社長となる、現に民主党常議員である○当選一回（23）

## 神田博

靜岡縣第一区選出、日本自由党
会社重役

明治三十六年十二月新潟縣東蒲原郡三川村に生る、法政大学専門部法律科卒業○税務署、復興局、内務省、靜岡縣等の属官を経て地方事務官等に任ぜられ、靜岡縣内務部水産課長、同祕書課長、経済部商工課長兼総務部人事課長、同工務課長、靜岡工業試験場長事務取扱等を歴任す○靜岡縣科学協会評議員及び監事、同縣商工経済会評議員、日本軽金属鑄造組合理事等となり、理研榮養食糧工業、同電化工業、北陸軽金属工業各株式会社取締役社長となる、又日本自由党幹事、同経済再建委員会貿易再開準備部々長となり、現に同党代議士会副会長である○当選二回（2223）

## 木下榮

兵庫縣第四区選出、國民協同党
会社重役

明治十五年五月長野縣下伊那郡喬木村に生る、司法省指定和佛法律学校に学ぶ○かつて台湾総督府法院書記に任ぜらる、退官後満洲日日、神戸又新日報の各新聞社々員を経て鈴木商店入社、同社経営の日比製錬所、浪華造船所、鳥羽造船所等の各経理部長支配人となる、ついで神明自動車、神姫自動車各株式会社を創設、その専務取締役、兵庫縣乗合旅客自動車事業組合理事長、明石商工会議所、姫路商工会議所各議員となり、神姫合同自動車、兵庫縣薪炭、菱油商事各株式会社取締役社長となり現在に至る、さきに封鎖預金等審査委員会委員を命ぜられ、戰時補償特別税審査委員会委員仰せつけらる、現に國民協同党中央常任委員である○当選二回（2223）

## 木村公平

岐阜縣第一区選出、日本自由党
会社重役

明治三十八年七月岐阜縣大垣市俵町に生る、明治大学法科卒業○大垣市会議員に再選、同市会議長に挙げられ、又岐阜縣会議員に選ばる、長良紙工株式会社取締役、岐阜縣西部紙工株式会社取締役会長、同縣建築興業株式会社監査役、高倉土建株式会社相談役となり、又日本自由党幹事、同政務調査会理事、同会外務部副部長となる、現に同会國土計画委員長である○当選二回（2223）

## 木村　小左衛門

島根縣選出、民主党
内務大臣

明治二十一年二月島根縣大原郡大東町に生る、早稲田大学專門部法制経済科に学ぶ○大東郵便局長、内務大臣秘書官、明治神宮造営局参事、大藏大臣秘書官、内閣総理大臣秘書官、拓務参事、大喪使事務官、大藏参與官、拓務参與官、衆議院副議長、農林大臣等を歴任し、現に内務大臣である、この間大東町会議員に三選、大原郡会議員、同郡会議長、大東町長等に選ばれ、大原郡農会長、同郡青年会長、同郡教育会長、同郡青年会長、大東町商工会長等となり、松竹株式会社監査役、興化工業株式会社取締役、中央公職適否審査委員会委員となり、阿片委員会委員、士木会議々員等仰せつけらる○日本進歩党政務調査会々長、同顧問となり、現に民主党顧問である○当選七回（15 16 17 18 19 22 23）

## 木村　榮

島根縣選出、日本共産党
陸上小運搬業

明治四十三年十二月島根縣八束郡古江村に生る○若松汽船株式会社大阪出張所及び山陰道産業株式会社に勤務す、後陸上小運搬業を営み現在に至る○当選一回（23）

## 喜多楢治郎

大阪府第四区選出、民主党
常任委員長

明治三十二年九月大阪市東区農人橋に生る、大倉商業学校に学ぶ○大藏省中央酒類配給協議会委員、大阪地方酒類委員会委員、全國酒販賣組合連合会々長、酒販組合中央会理事等を命ぜられ、中央酒類委員会委員、國土計画審議会委員等仰せつけらる○大阪府商工経済会評議員、大阪商工会議所常議員に挙げらる、近畿酒類商業組合連合会々長、大阪府業務酒共販組合連合会々長、近畿合成清酒、近畿味淋、近畿果実酒各問屋組合連合会々長、大阪府実業組合連合会理事、大阪府業務酒酒販組合理事長、同府酒販組合連合会々長、大阪食糧品協会々長となり、又株式会社大阪府醤油統制株式会社各社長、関西麦酒株式会社監事等となる○現に民主党常議員、大阪府調査会理事である、又衆議院商業委員会委員長である○当選二回（22 23）

## 菊川忠雄

東京都第四区選出、日本社会党
著述業

明治三十四年三月愛媛縣越智郡波方村に生る、東京帝國大学経済学部卒業、「労働組合組織論」「学生社会運動史」「戰争と労働」等の著書、その他訳書及び評論等がある○かつて神奈川縣立農業学校教諭に嘱託せらる、日本労働組合同盟本部常任書記、教育出版部長、主事兼会計、全國労働組合同盟本部主事、政治部長兼國際部長となり、第十八回國際労働会議に日本労働代表として出席す、全日本労働総同盟本部主事となり、大日本滑空機株式会社常務取締役等を経て日本鉱山労働組合本部主事に至る○当選一回（23）

## 菊池重作

茨城縣第三区選出、日本社会党
團体役員

明治三十年七月群馬縣伊勢崎市茂呂町に生る〇かつて織物製造業、蚕種販賣業に従事す、社会大衆党縣連書記長、全國農民組合茨城縣連合会々長となる、現に日本農民組合茨城縣連合会執行委員長、日本社会党茨城縣連合会副委員長である〇当選一回（23）

## 菊池豐

茨城縣第三区選出、民主党
会社重役

明治三十年七月茨城縣直壁郡伊讃町に生る〇昭和十年九月より引続き茨城縣会議員に選ばる〇茨城精漆工業株式会社取締役社長、日本西部生漆採集統制組合理事長、茨城縣水産業会監事となる、現に民主党議員総会副会長である〇当選三回（22 23）

## 菊池義郎

東京都第二区選出、日本自由党
大学講師

明治二十七年四月東京都大田区南千束町に生る、日本大学政治科大学部卒業〇さきに読賣新聞社記者、日本大学、國士館高等拓殖学校各講師となり、現に外務省嘱託、國際日本協会評議員、東日本水産会々長、徳島造船株式会社、水産興業株式会社各顧問である、又日本自由党遊説部副部長、同幹事、同東京支部総務である〇当選一回（23）

## 北二郎

北海道第四区選出、日本農民党
農業

大正七年九月北海道空知郡奈井江村に生る、廳立岩見沢中学校修了〇奈井江村酪農振興会々長となる、現に日本農民党渉外部々長である〇当選一回（23）

## 北浦圭太郎

奈良縣選出、日本自由党
弁護士

明治二十年十二月奈良縣磯城郡織田村に生る、関西大学法律科卒業、「法廷回顧」「國定教科書と帝國憲法」等の著書がある○判検事及び弁護士試験合格、司法官試補、検事代理、検事等に任ぜられ、大阪区、東京区各裁判所検事代理、函館区裁判所検事等に補せらる、又司法政務次官に任ぜらる、退官後弁護士を開業し現にその業務に従事す、○大阪近郊土地株式会社取締役社長、吉野大峯ケーブル自動車株式会社監査役、春日建築工業株式会社取締役社長となる、日本自由党政務調査会副会長、同会法制審査委員会委員長となり、現に同党政務調査会顧問である○当選四回（1720補2223）

## 北村徳太郎

長崎縣第二区選出、民主党
運輸大臣

明治十九年五月京都市上京区に生る、関西大学専門部法律学科に学ぶ○佐世保商工会議所会頭に挙げられ、佐世保市復興委員会委員長、戰終連絡地方事務局参與、佐世保税務署管内税務協議委員、長崎縣特殊物件処理委員会委員、長崎地方労働委員会、地方賃金委員会各中立者代表委員等を委嘱せらる、又金銭債務、臨時人事、戰時特別、借地借家各調停委員、封鎖預金等審査委員会委員等を命ぜられ、復興金融委員会、戰時補償特別審査委員会各委員等仰せつけらる○財團法人西海中学校、九州文化学院等の理事、佐世保水産株式会社取締役、株式会社親和銀行取締役頭取となる、又日本進歩党常議員、同総務委員、同政務調査会副会長、民主党政務調査会々長、衆議院財政及び金融委員会委員長となる○さきに大藏政務次官に任ぜられ、現に運輸大臣である○当選二回（2223）

## 吉川久衛

長野縣第三区選出、國民協同党
農業

明治三十八年四月長野縣上伊那郡飯島村に生る、明治大学法学部英法科卒業○農林省属に任ぜらる、退官後満洲糧穀株式会社理事長祕書、満洲興農合作社中央会用度科長、中央農業会庶務課長、同会計課長兼経理課長、全國農業会祕書役、開拓民援護会参事となる、現に波崎製塩協同組合常務理事、七久保村農業会々長である、又國民協同党中央委員、同組織部々長である○当選一回（23）

## 清澤俊英

新潟縣第三区選出、日本社会党
会社重役

明治二十三年八月新潟縣長岡市本町に生る○日本労農党、日本大衆党、社会大衆党、全國農民組合、日本農民組合等の各中央委員並びに縣連常任委員となり、全國労働組合新潟縣委員長、日本漁民組合中央委員となる、新潟縣マニラ麻捲糸工業組合理事を経て北越産業株式会社常任監査役となり現在に至る○当選二回（2223）

## 久保猛夫　長崎縣第一区選出、民主党

明治三十三年二月長崎縣南高來郡愛野村に生る、長崎縣師範学校本科卒業〇國民学校長に任ぜられ、長崎市淵國民学校長を経て地方事務官に任ぜらる、さきに長崎市勝山小学校訓導、同北大浦小学校長、長崎縣視学等を歴任す〇長崎縣並びに長崎市教育会々員、同参與、同評議員、同幹事、大日本教育会長崎縣支部会員、國民協同党中央常任委員となる〇國民党中央常任委員、日本体育会縣支部幹事となる〇國民党中央常任委員、同政務調査会文部々会文教委員会委員長である〇当選二回（22 23）

## 久保田鶴松　大阪府第四区選出、日本社会党

明治三十三年十月大阪府中河内郡高安村に生る〇大阪府会議員に再選せられ、同参事会員に挙げらる、都市計画大阪地方委員会委員を命ぜられ、府失業対策委員に選ばる、日本労働組合総同盟大阪連合会、日本労働農民党等の各執行委員、関西労働組合総連盟財政部々長、社会大衆党全國委員、全國労働組合総同盟布施河内地協会々長となり、日本社会党中央委員、同生野、中河内、布施各支部長となる〇当選一回（23）

## 工藤鐵男　青森縣第二区選出、同志クラブ

明治八年八月青森縣中津軽郡豊田村に生る、日本大学に学び後英國ロンドン大学において法政学を学ぶ〇二六新報、日本新聞各記者となる、又海外企業組合常務委員、大正水力組合理事、濃飛電力組合常務理事、日華実業協会主事となり、水力電氣事業に従事す、日本大学講師、同評議員、東京歯科医学専門学校教授、同評議員、日本連合歯科医師会顧問となる〇文部参與官、厚生政務次官に任ぜられ、鉄道会議々員、東北振興調査会、東北振興電力株式会社設立、医薬制度調査会、内閣東北局、中央社会事業委員会、中央失業対策委員会、保險院保險制度調査会等の各委員外数種の委員等仰せつけらる〇民主党総務委員となる〇当選七回（15 16 17 18 19 20 23）

## 倉石忠雄　長野縣第一区選出、日本自由党

明治三十三年七月長野縣更級郡稲荷山町に生る、法政大学法科卒業、後ロンドン大学に社会政策を学ぶ〇衆議院嘱託としてブラッセル市に開催の万國議院同盟会議に随行、婦女界社々員、山縣製本印刷株式会社取締役、南日本化学工業株式会社専務取締役となり、現に綠産業株式会社取締役会長である、又日本自由党幹事、同政務調査会國土計画委員会副委員長、同党長野縣支部常任総務、同更級支部長である〇当選一回（23）

## 栗田英男

栃木縣第二区選出、民主党
会社重役

大正元年十二月栃木縣足利市本城町に生る○埼玉高等工科学校教授、ヂーゼル機関研究所長となる、現に栗田産業株式会社の重役である、又民主党青年部副部長である○当選一回（23）

## 栗山長次郎

東京都第七区選出、日本自由党

明治二十九年九月東京都北多摩郡狛江村に生る、青山師範学校卒業、後米國「ユタ」大学を卒業、「ハーバート」大学院にて政治経済学を專攻す○東京毎日新聞社「ニューヨーク」支局長、同工務局長を経て同業務局長となる、又日本自由党政務調査会外務部々長、同外交部々長、同党経済再建委員会賠償部々長となり、現に同党渉外部々長、同政務調査会顧問である、さきに中央株式等評價委員会委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 黒岩重治

高知縣選出、國民協同党
新聞社長

明治二十九年六月高知縣香美郡東川村に生る、高知縣師範学校本科第一部卒業○小学校訓導兼校長、高知縣視学、國民学校訓導兼校長、地方教官等を歴任す、この間日本教育会高知縣支部維持財團理事、高知縣教員体育連盟顧問、同縣教育会理事、同縣連合教員組合長、同縣教育委員会々長となり、少年保護司、高知縣教育振興委員会委員となる、現に高知教養新聞社々長である、又國民協同党中央委員である○当選一回（23）

## 黒田壽男

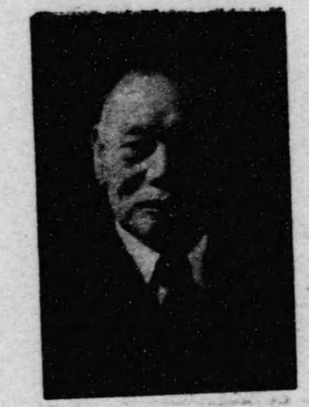
岡山縣第一区選出、日本社会党
弁護士

明治三十二年四月岡山縣御津郡金川町に生る、東京帝國大学法学部卒業○弁護士を開業現在に至る、かつて無産運動に携わり、労働農民党、無産大衆党、日本大衆党、全國大衆党、労農大衆党、社会大衆党等の党員となり、又農民組合中央委員、日本農民組合常任中央委員等を経て日本社会党中央執行委員、同党青年部々長となり現在に至る、さきに地方分與税委員会、中央株式等評價委員会各委員等仰せつけらる○当選四回（19 20 22 23）

## 小枝一雄

岡山縣第一区選出、國民協同党
会社々長

明治三十四年七月岡山縣久米郡打穴村に生る○打穴村助役となる、中國岩綿工業株式会社取締役社長となり、現に有限会社美津鉄工所取締役社長、岡山縣竹材商業組合、同縣堅木々工協同組合各理事長である、又國民協同党中央委員、同社会部々長、同岡山縣支部長である○当選一回（23）



## 小菅藤三郎

神奈川縣第二区選出、日本自由党

明治十三年二月埼玉縣兒玉郡丹莊村に生る○小学校本科正教員試驗檢定合格、村立丹莊尋常小学校訓導となる○四度横須賀市会議員、三度名誉職同市参事会員、三度神奈川縣会議員、四度名誉職同縣参事会員に選ばれ、この間横須賀市会副議長、同議長に挙げらる、日本クレー合資会社無限責任社員、合資会社大和組代表社員となる、現に日本自由党幹事である○当選一回（23）

## 小坂善太郎

長野縣第一区選出、民主党
大藏政務次官

明治四十五年一月長野縣上水内郡柳原村に生る、東京商科大学卒業○信越化学工業株式会社直江津工場長、同社支配人、取締役、生産担当者等を経て同社代表取締役、常務取締役となる、さきに訪伊親善使節團長秘書として独、伊に渡航す、日本進歩党政務調査会副会長となる、肥料審議会委員仰せつけらる、現に大藏政務次官である○当選二回（2223）

## 小島徹三

兵庫縣第五区選出、民主党
弁護士

明治三十二年九月兵庫縣養父郡八鹿町に生る、東京帝國大学佛蘭西法律科卒業○文官高等試驗外交科及び行政科合格、弁護士を開業現在に至る、第一東京弁護士会常議員、帝國弁護士会理事に選任さる、株式会社山口自轉車工場監査役となる、さきに司法省嘱託として中華民國法制視察を命ぜらる、日本自由党政務調査会理事、同司法部々長、同党幹事となり、現に民主党総務委員、同政務調査会理事、同議院運営部会部会長である○当選二回（2223）

**小平久雄**　栃木縣第二区選出、民主党

栃木縣産業報國会、同縣小山町各参與、同縣小山工場協会副会長、小山商工会議所副会頭となる、小平礦業、関東自動車各株式会社取締役、関東車体製作、小平林業各株式会社取締役社長となり、現に小平産業株式会社取締役社長である、又民主党常任幹事、同政務調査会商工連盟委員会副委員長である〇当選一回（23）

会社々長

明治四十三年二月栃木縣下郡賀郡石橋町に生る、東京商科大学卒業〇栃木縣

**小西寅松**　大阪府第五区選出、第一議員倶楽部

会社重役

明治三十五年九月大阪府泉大津市東港町に生る〇土木建築請負業を経て有限会社寅林組を創立し、その取締役社長となり、又泉北労働組合を創立その組合長となり現在に至る、全日本職域同志会に入会その理事となる〇当選二回（22 23）

**小林運美**　長野縣第二区選出、民主党

明治三十八年八月長野縣上田市常入町に生る、上田蚕糸專門学校製糸科卒業〇福井縣技手に任ぜらる、後全國産業組合製糸組合連合会技師、全國共営蚕糸組合常務理事、日本蚕糸業会祕書兼渉外課長、同職員組合長、全國蚕糸労働組合連合会々長となる、さきに山十製糸株式会社に入社中少年團日本連盟より英國に開催の少年團世界大会へ派遣せられ、滯英中同社よりニユーヨークに開催の第二回國際生糸技術協議会に出席を命ぜられ渡米す、現に民主党常議員、同政務調査会蚕糸委員会委員長である〇当選一回（23）

**小松勇次**　静岡縣第二区選出、民主党

会社重役

明治二十六年十二月静岡縣熱海市下多賀町に生る、静岡縣韮山中学校修業〇再度多賀村会議員、熱海市会議員、再度静岡縣会議員に選ばる、この間多賀村長、静岡縣会副議長に挙げらる、熱海市下多賀漁業組合、熱海市多賀購買信用組合、同多賀農業会、熱海市漁業会各理事、同市多賀農地委員となり、株式会社駿河銀行誉田町支店長、横浜興業無盡株式会社取締役社長となる、現に大西拓殖、南邦水産各株式会社取締役、大同農薬株式会社監査役である、又民主党幹事、同政務調査会水産連盟委員会副委員長である〇当選一回（23）

## 小峯柳多

群馬縣第三区選出、日本自由党

明治四十一年九月群馬縣碓氷郡松井田町に生る、東京商科大学専門部卒業、「工業進歩の発見」「和の思索」「統制会運営論」等の著書がある○興亜院、経済安定本部各嘱託となる、軍事保護院職業調査委員、傷痍軍人奉公財團評議員、日本学術振興会工場改善特別委員、商工省能率委員会委員等に挙げられ、社團法人生活科学協会、同日本鍛圧協会各理事、産業機械統制会参事となり、又理化学興業株式会社総務部長を経て理研科学映画株式会社、株式会社東洋鉄工所各専務取締役となり現在に至る、日本自由党幹事、同党政務調査会副会長である○当選二回（2223）

## 古賀喜太郎

福岡縣第三区選出、同志クラブ

明治二十三年七月福岡縣大牟田市有明町に生る、久留米市立商業学校卒業○しばしば大牟田市会議員、福岡縣会議員、同参事会員に選ばれ、大牟田市所得調査委員に挙げらる、大牟田信用組合監事、旭セメント株式会社取締役を経て福岡縣陸上小運搬業組合大牟田支部長、三池製氷株式会社取締役となり現在に至る○日本進歩党常議員、民主党総務委員、同政務調査会理事、同会大藏部会予算委員会委員長となる○当選二回（2223）

## 河野金昇

愛知縣第三区選出、國民協同党

著述業

明治四十三年三月愛知縣中島郡朝日村に生る、早稲田大学専門部政治経済科卒業「濠洲発達史」「独ソ戦とソ連」その他数種の著書がある○東久邇宮内閣嘱託となる○協同民主党遊説部々長となり、現に國民協同党常任中央委員である○当選二回（2223）

## 近藤鶴代

岡山縣第二区選出、日本自由党

明治三十四年十一月岡山縣眞庭郡八束村に生る、日本女子大学校家政科卒業○岡山縣第一岡山高等女学校教諭に任ぜらる、かつて岡山縣山陽高等女学校にも奉職す、日本自由党幹事となり、現に同党婦人部々長、同総務である、さきに地方制度調査会委員、家事審判制度調査委員会委員等仰せつけらる○当選二回（2223）

## 金野定吉

山形縣第二区選出、日本社会党

明治四十三年七月山形縣飽海郡高瀬村に生る○深川区会議員に選ばる、山形縣開発事業協会理事長、同縣農地改革推進協議会副会長、同縣未墾地解放協議会委員等に挙げらる、さきに自由労働者組合常任書記、全國労働組合同盟執行委員、社会大衆党深川支部青年部長、同党東京都執行委員、同党全國委員、東京地方自由労働者組合、東京連合会雇傭員同志会等の組織部長、日本平形釘工業組合専務理事等となり、現に深川区住宅建設協同組合理事長、日本漁民組合総部中央委員、日本農民組合中央委員、同山形縣連合会副会長、同副委員長、日本社会党中央委員長、日本農村対策部々長である○当選一回（23）

## 五圴茂雄

石川縣第二区選出、民主党

明治二十二年五月滋賀縣東淺井郡朝日村に生る、滋賀縣師範学校本科第一部卒業「農村改造を標榜せる補習学校の組織及教授法」「農家経済の改造を目的とせる複式農業経営」等の著書がある○公立中学校長、公立実業学校長兼実業補習学校教員養成所長等に任ぜられ、縣立羽咋中学校長、同羽咋高等女学校長事務取扱、縣立松任農学校長兼縣立実業補習学校長等に補せらる、この間石川青年師範学校長、縣立津幡農学校長等に補せらる、石川縣農会特別議員に選任せられ、青年学校視学委員、石川縣傷痍軍人農業教育所長兼講師を委嘱せらる、現に民主党総務委員、同政務調査会理事である○当選二回（22 23）

## 後藤悦治

兵庫縣第二区選出、民主党

会社重役

明治三十七年五月兵庫縣尼崎市大物町に生る、尼崎実業補習学校英語科商業科修了○尼崎市会議員に再選せられ、兵庫縣会議員に選ばる、日本硝子卸工業株式会社々長、旭商会、昭和化学各株式会社取締役会長、全國卸工業組合理事長となり、民主々義新党期成同盟創立委員長となる、現に近畿サルヴェージ株式会社々長、兵庫縣民主政治会常任幹事である、又民主党幹事、同政務調査会理事である○当選一回（23）

## 佐々木更三

宮城縣第一区選出、日本社会党

会社員

明治三十三年五月宮城縣本吉郡柳津町に生る、日本大学専門部政治科卒業○東北燃料有限会社々員、宮城縣亜炭鉱業会監事となり現在に至る○当選一回（23）

## 佐々木秀世

北海道第二区選出、同志クラブ

明治四十二年四月山形縣東村山郡山辺町に生る、早稻田工手學校電氣科高等科卒業〇旭川市会議員に選ばる、旭川市食料品組合幹事、北日本木工株式会社專務取締役を經て同社顧問、株式会社旭川社交倶樂部社長となり現在に至る、さきに民主党遊説部副部長、同政務調査会農業連盟委員会副委員長となる〇当選一回（23）

## 佐々木盛雄

兵庫縣第五区選出、日本自由党

明治四十一年八月兵庫縣氷上郡大路村に生る、東京外國語學校卒業、「天皇制打倒論と闘ふ」の著書がある〇海軍省、情報局の各嘱託を經て自由新聞社編集局長、報知新聞社渉外部長となる、現に日本自由党情報部副部長、同幹事、同政務調査会文化委員会副委員長である〇当選一回（23）

## 佐瀬昌三

埼玉縣第四区選出、日本自由党

弁護士、大学教授、法学博士

明治三十五年七月千葉縣山武郡上堺村に生る、法政大学法律科卒業、後佛國パリー法科大学に学ぶ、「法律学概論」「刑法大意」その他数種の著書がある〇文官高等試驗司法科及び行政科合格、靜岡、浦和各地方裁判所等の検事、沼津区裁判所、横浜、東京各地方裁判所及び東京控訴院等の判事等を歴任す、退官後弁護士を開業現在に至る、又明治大学講師となり、現に法政大学教授、同理事である、又日本自由党政務調査会司法委員会副委員長である〇当選一回（23）

## 佐竹晴記

高知縣選出、日本社会党

司法政務次官

明治二十九年九月高知縣高岡郡窪川町に生る、中央大学專門部法科卒業〇弁護士試驗に合格し、弁護士を開業、高知弁護士会々長となる、高知市会議員、同参事会員、高知縣会議員に選ばる、社会民主党、社会大衆党の各中央執行委員並びに高知縣支部連合会々長、日本社会党中央執行委員、同高知縣支部連合会長となり、現に同党無任所中央執行委員である、又司法政務次官であるさきに中央物資活用委員会委員、経済関係罰則調査委員会委員等を命ぜられ、財政收支調整調査会委員、高松財務局管内不動産評價委員会委員等仰せつけらる〇当選四回（1922 23）

## 佐竹新市

廣島縣第一区選出、日本社会党

明治三十三年十二月廣島縣山縣郡川迫村に生る、修道中学校に学ぶ〇廣島市会議員、同縣会議員に選ばれ、廣島縣開拓委員会委員に挙げらる、かつて北京東亜実業公司專務理事となる、中國無産党書記長、全國労農大衆党、社会大衆党各中央執行委員、日本労働総同盟中央委員となり、現に日本農民組合縣連合会々長、同組合常任執行委員である〇当選一回（23）

## 佐藤觀次郎

愛知縣第三区選出、日本社会党
新聞社取締役

明治三十四年八月愛知縣海部郡蟹江町に生る、早稲田大学政治経済学部卒業、「世界の農学農民問題」の訳書及び「自動車部隊」「自動車隊陣中日記」「泥濘」「陣中の読書」「戦のきづな」等の著書がある〇中央公論編集部長、同宣傳部長、同編集局参與等を経て中京新聞社を創立、その取締役編集総務となり現在に至る〇当選一回（23）

## 佐藤通吉

鹿兒島縣第三区選出、同志クラブ
弁護士

明治三十六年八月鹿兒島縣囎唹郡大崎町に生る、中央大学專門部法科卒業〇高等試験司法科試験合格、弁護士開業現在に至る、さきに小学校訓導、台湾総督府巡査、高雄州巡査部長、同警部補となる、又民主党政務調査会理事、同治安及び地方制度委員会委員長となる〇当選一回（23）

## 佐伯宗義

富山縣第一区選出、民主党
会社々長

明治二十七年二月富山縣中新川郡立山村に生る〇富山縣産業報國会理事、富山商工会議所顧問となる、さきに富山市参與、富山電氣鉄道、富山電鉄自動車、富南鉄道、富岩鉄道、黒部鉄道、加越鉄道、鯨水鉱山、高志観光興業、各株式会社取締役社長、日本海渠工業、越中鉄道、福島電氣鉄道各株式会社取締役、富山縣乗合旅客自動車運送事業組合理事長となり、現に福島製作所、富山地方鉄道各株式会社取締役社長、日本鉄道会常議員、富山縣観光協会々長、全日本観光連盟東海北陸支部理事である、又民主党常議員、同政務調査会理事である、さきに鉄道省陸上交通調整委員会臨時委員を命ぜらる〇当選一回（23）

## 齋藤隆夫

兵庫縣第五區選出、民主党
國務大臣

明治三年八月兵庫縣立石郡宰埴村に生る、早稻田大学卒業後米國エール大学院卒業、「帝國憲法論」「憲法及政治論集」「革新及革新運動論」等の外數種の著書がある〇内務政務次官、「法制局長官等を經て國務大臣に任ぜられ、行政調査部總裁を命ぜらる、又中央行政監察委員会委員長となり現在に至る、日本進歩党總務委員会々長、同顧問となり、現に民主党最高顧問である、さきに法制審議会、人口食糧問題調査会、勞働保險調査会各臨時委員、衆議院議員選挙法調査委員会、米穀統制調査会、神社制度調査会、都市計画中央委員会、失業対策委員会、衆議院議員選挙革正審議会、瓦斯事業委員会、議院制度調査会、薬業振興委員会、議会制度審議会、戰爭調査会各委員、土木会議々員等仰せつけらる、又第十八回列國議会同盟会議、万國議院商事会議に出席す〇当選十二回（11 12 13 15 16 17 18 19 20 21 22 23）

## 齋藤晃

福島縣第三区選出、第一議員倶樂部
醬油味噌釀造業

明治三十五年十一月福島縣石城郡小名浜町に生る、縣立盤城中学校卒業〇福島縣玉川村会議員に選ばる、福島縣遺族連合会々長となる、昭和四年初めて縣下に立憲養正会の運動を開始し、同会東部總務、同福島縣連合会支部長となる〇当選一回（23）

## 酒井俊雄

愛知縣第四区選出、國民協同党
弁護士

明治三十一年六月愛知縣碧海郡高岡村に生る、中央大学専門部法学科卒業〇高等試驗司法科に合格す、弁護士及び税務代理士を開業現在に至る、さきに愛知縣猿渡尋常小学校訓導となる、又愛知縣臨時社会調査員、同方面委員を委嘱せらる〇協同民主党政策調査会法制部々長、國民協同党政策調査会司法部々長となり、現に同党中央委員である〇当選二回（22 23）

## 坂口主稅

熊本縣第一区選出、民主党
農業

明治三十二年四月熊本縣玉名郡賢木村に生る、東京帝國大学法学部卒業〇文官高等試驗行政科合格、台湾總督府属、同地方理事官、同税関長、同事務官、同警察官及司法官練習所教官、同地方事務官、新竹州教育課長、高雄、台北の各州知事等を歴任す、この間鳳山郡守、中の各州警務部長、警務局保安課長、高雄税関長、台中州内務部長等に補せらる、警察制度視察のため欧米各國、埃及、馬來、英領香港及び中華民國各地に出張す、退官後株式会社台湾新報社取締役社長となり、後熊本縣玉名郡賢木村長となる〇当選一回（23）

**坂田道太**　熊本縣第二区選出、日本自由党
農業

大正五年七月熊本縣八代市植柳下町に生る、東京帝國大学文学部独逸文学科卒業〇厚生省嘱託、八代市文書課長、商工大臣秘書官等を歴任す、現に日本自由党青年部副部長、同党幹事である、さきに熊本財務局管内不動産評價委員会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

**坂本實**　山口縣第一区選出、日本自由党
会社重役

明治三十七年七月山口縣豊浦郡岡枝村に生る、山口高等商業学校本科卒業〇山口縣漬物統制組合理事長、同水産物製造業会々長、同製麺製粉業統制組合理事長に選任せられ、合名会社坂本商店代表社員、山口縣合同罐詰、漬物興業、漬物佃煮製造、関門水産物貿易、下関水産煉製品各株式会社取締役社長、下関水産販賣株式会社監査役となる、現に日本自由党経理部副部長、同幹事である、さきに財産税委員会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

**境一雄**　北海道第一区選出、日本社会党
会社員

明治三十三年十一月北海道小樽市稻穗町に生る、廳立小樽中学校卒業〇鋲箸製造販賣業を営む、後株式会社岸鉄工所庶務課長、小樽物産有限会社取締役となり、現に北海道配電株式会社小樽支店経営協議会委員である〇当選一回（23）

**榊原千代**　福島縣第一区選出、日本社会党

明治三十一年七月靜岡縣田方郡三島町に生る、青山女学院英文専門科本科卒業、独逸マールブルグ大学、同ベルリン大学、英國セリオーク大学に聽講す〇雜誌「婦人の友」の記者となる、自由学園教授、福島縣立第一高等女学校教諭を委嘱せらる、又横浜連合婦人会創立委員、同総主事となる〇当選二回（22 23）

## 榊原亨

岡山縣第一區選出、日本自由党

醫師、醫學博士

明治三十二年十一月福井縣福井市宝永上町に生る、九州帝國大學醫學部卒業、「外科的治療劑としての空氣」「所謂紙ガーゼに就いて」の著書がある○金沢医科大学副手、同助手、岡山医科大学講師、同助教授等を歴任す、日本外科学会評議員、日本臨床外科医会常任幹事等を経て岡山縣医師会々長となり、昭和七年より岡山市に外科病院を開業今日に至る、現に日本自由党政務調査会厚生委員会副委員長である○当選一回（23）

## 櫻內義雄

東京都第一區選出、民主党

会社重役

明治四十五年五月東京都新宿区四谷尾張町に生る、慶應義塾大學經濟學部卒業○日本タイプライター株式会社秘書役、小笠原水産株式会社支配人、高倉鉱業株式会社監査役、松本農場、中島機械各株式会社取締役、三信興業株式会社專務取締役となり、東洋食器、城東製鋼、朝日産業各株式会社取締役、日本電化工業、日下部工業各株式会社專務取締役、日本貿易振興会、北豊島学園、新日本建設連盟各理事、文化日本研究会代表者、貿易經濟懇話会副会長となり現在に至る、又民主党政務調査会理事、同貿易委員会委員長である○当選一回（23）

## 笹口晃

神奈川縣第二區選出、日本社会党

明治三十七年二月東京都江東区佐賀町に生る、中央大学專門部法律科に学ぶ○横須賀市会議員に三選せられ、神奈川縣会議員に選ばる、輸出雑貨製造業經営、神奈川縣製綿工業組合專務理事、同縣製綿工業統制組合理事長、全國製綿工業統制組合理事を経て神奈川縣製綿寝具工業協同組合理事長、全國製綿工業協同組合理事、横須賀商工会議所理事となり現在に至る、さきに社会大衆党中央執行委員となり、現に日本社会党横須賀支部相談役、同党神奈川縣支部連合会執行委員である○当選一回（23）

## 笹森順造

青森縣第二區選出、國民協同党

國務大臣

明治十九年五月青森縣弘前市若党町に生る、早稲田大学政治経済学科卒業、後北米「デンバー」大学卒業、英文「米國に於ける日本人の社会生活」その他の著書がある○在米中北米デンバー新報主筆、北米南加中央日本人会書記長となる、歸朝後東奥義塾長、青山学院長、全國基督教々育同盟会理事長、東京女子大学理事、大東亜省及び外務省嘱託、東奥義塾理事、弘前聖愛高等女学校理事長、青森縣奨学会理事、早稲田大学、東京女子大学各評議員となる○又國民党中央常任委員、國民協同党代議士会々長となり、現に同党常任顧問である、さきに青森縣選挙粛正委員会委員を委嘱せられ、持株会社整理監査委員会委員仰せつけらる○復員廳総裁を命ぜらる、現に國務大臣である○当選二回（2223）

**志賀健次郎**　岩手縣第二区選出、民主党

明治三十六年十二月岩手縣東磐井郡大原町に生る、早稲田大学政治経済学部卒業○朝日新聞社政治経済記者を経て大日本産業報國会文化部員、同情報部長となる、現に日本石炭鉱業連盟嘱託である、又民主党常任幹事、同政務調査会常任理事、同会勤労連盟委員会副委員長である○当選一回（23）

**椎熊三郎**　北海道第一区選出、民主党
逓信政務次官

明治二十八年四月北海道利尻郡鴛泊村に生る、中央大学法科卒業○鉄道大臣官房、文部大臣官房並びに文部省社会局等の各嘱託となり、退職後小樽新聞社取締役となる○現に逓信政務次官である、逓信省行政監察委員会委員を命ぜらる、さきに日本進歩党遊説部々長となる○当選二回（22?23）

**重井鹿治**　岡山縣第二区選出、日本社会党
染色工業

明治三十五年一月岡山縣吉備郡日近村に生る○倉敷市会議員、岡山縣参事会会員に選ばれ、同縣社会事業委員に挙げらる、旭川市北都新聞社員となり、退社後染色工場を経営今日に至る、この間無産運動に携わり、日本農民組合、政治研究会、労働農民党、日本労働組合、全國評議会、社会大衆党等に加盟す○当選二回（20補23）

**重富卓**　山口縣第二区選出、日本自由党
農業

明治三十三年六月山口縣山口市黒川に生る、早稲田大学政治経済学部卒業○文官高等試験行政科合格、東京府農林主事補、同属に任ぜらる、退官後産業組合山口縣支会主事を経て山口縣農業会理事となり、山口縣教職員資格審査委員、同縣緊急開拓臨時委員、同縣食糧対策委員を委嘱せられ、山口縣開拓協会副会長、同縣農地委員に選任せらる、現に日本自由党政務調査会農林委員会副委員長である○当選一回（23）

## 幣原喜重郎

大阪府第三区選出、同志クラブ

明治五年八月大阪府北河内郡門眞町に生る、法科大学卒業〇農商務属、領事官補、領事、外務書記官、外務省取調局長、米國及び英國在勤大使館參事官、オランダ及びデンマーク駐劄特命全權公使、外務次官、大礼使參與官、米國駐劄特命全權大使、貴族院議員、外務大臣、内閣總理大臣臨時代理、内閣總理大臣、兼任第一復員大臣第二復員大臣、戰爭調査会總裁、食糧対策審議会々長、國務大臣、復員廳總裁等を歴任し、さきに民主党名誉總裁となる〇当選一回（23）

## 澁谷雄太郎

千葉縣第一区選出、日本自由党

会社々長

明治二十年十二月千葉縣松戸市下矢切に生る、慶應義塾大学理財科卒業〇寺島町長となる、東京府会議員、東京商工会議所議員に選ばる、東京ゴム製品工業組合長、東京ゴム同業組合、東京ゴム工業組合、東京再生ゴム工業組合、日本再生ゴム材料卸商業組合、日本東部ゴム材料卸商業組合連合会等の各理事長、日本輸出ゴム玩具運動具共同販賣会社々長、亀戸ゴム工業株式会社常務取締役、ゴム統制会評議員、ゴム統制組合理事、関東地方ゴム製作所会副会長となり、現に日本車輛ゴム株式会社、澁谷ゴム製作所各社長、日本ゴム工業協同組合連合会理事である、又日本自由党会計監督である〇当選一回（23）

## 島上善五郎

東京都第六区選出、日本社会党

明治三十六年十二月秋田縣南秋田郡天王村に生る〇東京市電車掌を経て日本交通労働總同盟本部書記、労働農民党及び日本無産党等の役員となり、日本工藝合資会社に入社支配人となる、日本社会党結成中央執行委員となり、現に日本交通運輸労働組合同盟書記長である〇当選一回（23）

## 島田晋作

秋田縣第一区選出、日本社会党

著述業

明治三十四年一月秋田縣秋田市土崎港町に生る、東京帝國大学経済学部卒業、「準戰時体制全集（会社篇）」「財界夜話」「昭和財界風雲錄」等の著書がある〇東京府嘱託を経て中外商業新報社入社、経済部記者を経て名古屋新聞、報知新聞、中部日本新聞、東京新聞、秋田魁新報社各論説委員となり、又「文藝戰線」同人、日本評論家協会常任委員に挙げらる〇秋田市主事に任ぜられ土崎出張所長を命ぜらる、現に日本社会党秋田縣支部顧問である、さきに財産税委員会、金融制度調査会、仙台財務局管内不動産評價委員会各委員等仰せつけらる〇当選二回（22 23）

**島村一郎**　東京都第六区選出、日本自由党
会社重役

明治二十七年九月東京都江戸川区平井に生る、中央大学経済学科に学ぶ○三度小松川町会議員、再度小松川町長、再度江戸川区会議員、同区会議長、東京市区会議長会々長、東京市会議員、同郡部会副議長、同参事会員、三度東京府会議員、東京都会議員、同参事会員等に選ばる、又東京市学務委員に挙げらる、大蔵大臣秘書官に任ぜらる、株式会社大浦製作所取締役となり現在に至る、又日本自由党政務調査会予算委員会副委員長である○当選二回（22補23）

**庄忠人**　山口縣第一区選出、同志クラブ
会社重役

明治三十二年二月山口縣宇部市小串に生る、早稲田大学に学ぶ○宇部市会議員に選ばる、小島炭鉱組合、於福無煙炭鉱組合、長門無煙炭鉱組合等の各頭取となり、現に松浜炭鉱組合、不二石材工業株式会社の各取締役、宇部市体育協会々長、山口縣野球連盟会長、山口縣政治協議会常務委員である○当選一回（23）

**庄司一郎**　宮城縣第一区選出、日本自由党
新聞社長

明治二十五年一月宮城縣伊具郡角田町に生る、東北学院に学ぶ、「町村自治と公民生活」「郷土史の研究」その他十数種の著書がある○仙台日日新聞、東北新聞各記者、仙南新聞主筆、仙南合会相談役、仙台日日新聞社々長となり、現に東北自由新聞社々長、日本亞炭連問である○大河原町会議員、宮城縣会議員に選ばれ、大河原町長、同町農業会長、柴田郡畜産組合長、柴田郡養蚕組合長、同郡町村長会長、宮城縣町村長会評議員、同縣蚕糸業調査委員、同縣臨時負債整理委員会委員、同縣繭格付委員会委員、同縣酪農協議会委員、宮城司法保護委員会々長となる、特許補償審査会委員、大東亞省委員、中央社会事業委員会委員等仰せつけらる○日本自由党政務調査会厚生部々長、同党代議士会副会長となる○当選四回（20 21 22 23）

**庄司彦男**　鳥取縣選出、日本社会党
会社顧問

明治二十九年十月鳥取縣西伯郡渡村に生る、早稲田大学商科卒業、後米國南カリホルニア大学経済科終了○かつて大阪市立東江小学校専科教員、米國カリホルニア大学教授となる、現に大日本レスリング協会、在外同胞歸還促進会各理事長、同胞救援議員連盟幹事、日本漁業組合中央委員、日本社会党中央委員、全國機船底曳漁船同盟、足立産業株式会社各顧問である○当選一回（23）

## 白井佐吉

神奈川縣第二区選出、日本自由党
会社々長

明治三十年二月神奈川縣川崎市八幡町に生る〇川崎市会議員、三度神奈川縣会議員に選ばれ、同縣会副議長、同議長に挙げらる、横浜地方裁判所管内調停委員、内務省警察制度調査会委員となる、現に川崎市馬匹畜産組合組合長、川崎牛乳配給株式会社々長、川崎市信用組合理事である、又日本自由党政務調査会通信委員会副委員長である〇当選一回（23）

## 周東英雄

山口縣第一区選出、日本自由党

明治三十一年一月山口縣大津郡三隅町に生る、東京帝國大学法学部卒業、「漁業政策」「農業動産信用法」等の著書がある〇文官高等試験行政科合格、特許局属、同事務官、農林事務官、農林省米穀局長、同経済厚生部長、同農務局長、同農林書記官、兼任総力戦研究所員、企画院部長、同次長心得、同総務局長、内閣副書記官長等を歴任す、帝國油糧統制株式会物價局長官、内閣副書記官長となる、現に日本自由党総務、同組社々長、油脂統制会理事長となる、現に日本自由党総務、同組織部々長、同政務調査会顧問である〇当選一回（23）

## 鈴木強平

群馬縣第一区選出、民主党
燃料商

明治三十一年四月群馬縣碓氷郡九十九村に生る、慶應大学理財科に学ぶ〇前橋市会議員、前橋商工会議所議員、群馬縣商工経済会評議員、同前橋支部長等に選ばれ、金銭債務、借地借家、戰時民事、人事調停の各調停法委員等に挙げらる〇全國家庭燃料配給協会理事、群馬縣燃料統制組合理事長、全國燃料組合連合会理事となる、日本進歩党常議員、同総務委員となり、現に民主党総務委員、同政務調査会公團法対策特別委員会委員長である、さきに農林参與官に任ぜられ、中央開拓委員会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 鈴木里一郎

静岡縣第三区選出、日本自由党
会社重役

明治三十五年八月静岡縣浜名郡篠原村に生る、明治大学法科予科に学ぶ〇西洋美術店青樹社を創業し、その社長となり、美術雑誌國民美術社社長、日本画商組合理事長となる、現に富士テックス株式会社取締役である、又日本自由党幹事である、さきに米國を経て欧洲各地を視察旅行す〇当選一回（23）

## 鈴木仙八

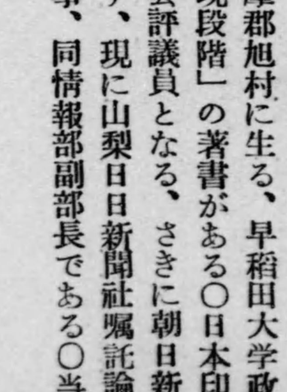
東京都第五区選出、日本自由党
劇場、映画、割烹経営業

明治三十一年八月東京府北豊島郡王子村に生る〇再度王子町会議員、同議長代理、再度東京市会議員、同参事会員、三度東京府会議員、同議長代理、再度東京市会議員、同参事会員、同都会議員、同参事会員に選ばる〇財団法人日本興行者協会理事、大東亜演藝株式会社専務取締役となり現在に至る、さきに内務省都市計画東京地方委員会委員を命ぜられ、地方分與税委員会委員、石油配給公團、配炭公團各設立委員等仰せつけらる、又日本自由党幹事、同政務調査会戰災復興部々長となり、商工参與官に任ぜらる〇当選二回（22 23）

## 鈴木善幸

岩手縣第一区選出、日本社会党

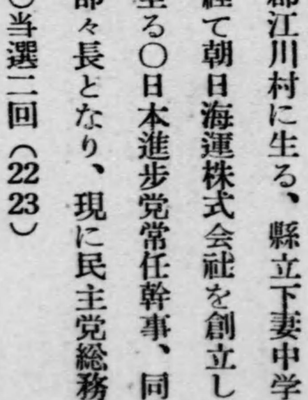
明治四十四年一月岩手縣下閉伊郡山田町に生る、農林省水産講習所卒業〇第九回及び第十三回行政査察使随員補佐官に任ぜらる、大日本水産会、全國漁業組合連合会各技手、岩手縣漁業組合連合会水産部長となり、漁村文化並びに生産指導に当り、又中央水産業会主事、同企画課長を経て同企画部次長となり現在に至る〇当選一回（23）



## 鈴木正文

山梨縣選出、日本自由党
農業

明治三十二年八月山梨縣北巨摩郡旭村に生る、早稲田大学政治経済学部卒業、「朝鮮経済の現段階」の著書がある〇日本印刷文化協会専務理事、日本出版会評議員となる、さきに朝日新聞特派員としてバタビアに出張す、現に山梨日日新聞社嘱託論説委員である、又日本自由党幹事、同情報部副部長である〇当選一回（23）



## 鈴木明良

茨城縣第三区選出、民主党
会社重役

明治四十二年二月茨城縣結城郡江川村に生る、縣立下妻中学校卒業〇岩佐鉄工所営業部長を経て朝日海運株式会社を創立し、その取締役社長となり現在に至る〇日本進歩党常任幹事、同常議員、同監察部々長、同情報部々長となり、現に民主党総務委員、同政務調査会理事である〇当選二回（22 23）

**鈴木茂三郎**　東京都第三区選出、日本社会党常任委員長

明治二十六年二月愛知縣宝飯郡蒲郡町に生る、早稲田大学専門部政治経済科卒業、「日本財閥論」「日本独占資本主義の展望」「新聞批判」「外数種の著書がある○東京市会議員に選ばる、東京都労働委員、終戦連絡中央事務局参與、戦時補償特別税審査委員、封鎖預金等審査委員会委員等を命ぜられ、商工省專門委員等仰せつけらる、かつて報知新聞、東京日日新聞記者となる○無産政党の母体たる政治経済研究会創立以来各無産政党の本部役員となり、社会主義政治経済研究所理事となる、現に日本社会党中活者同盟会長、労働科学研究所理事長、東京俸給生央執行委員、同党政務調査会、同議案審査委員会各会長である、又衆議院予算委員会委員長である、さきに欧米を視察す○当選二回（22 23）

**鈴木彌五郎**　秋田縣第二区選出、民主党

明治三十五年十月秋田縣平鹿郡浅舞町に生る○大阜鉱業株式会社專務取締役を経て東北鉱業株式会社專務取締役、帝國農産興業株式会社々長となり、又北洋漁業労働組合委員長となり現在に至る○國民党々務部副部長、同組織部副部長となる、現に民主党幹事長補佐である○当選二回（22 23）

**鈴木雄二**　神奈川縣第三区選出、日本社会党

明治四十二年九月東京都港区芝神谷町に生る、上智大学に学ぶ○小田原水産興業株式会社々員を経て同社取締役となり、相海漁業経営組合理事、相洋水産化学研究所理事長、神奈川縣水産業会理事となる、又青年民主政治研究会顧問となる○当選一回（23）

**鈴木義男**　福島縣第二区選出、日本社会党司法大臣

明治二十七年一月群馬縣高崎市柳町に生る、東京帝國大学法学部法律学科卒業、「法学概論」「法律哲学」の著書の外憲法、行政法、社会法及び社会政策に関する論文等四十数篇がある○東京帝大助手、東京女子大学教授、東北帝國大学教授、法政大学教授等を歴任し、東京高等試験臨時委員を委嘱せらる○退官後弁護士を開業、帝國弁護士会理事、日本文化人連盟常任委員、日本社会党結成準備委員、同中央執行委員、同教育部々長となり、現に司法大臣に任ぜられて、同党無任所中央執行委員となり現在に至る○さきに行政調査部顧問等仰せつけらる、かつて英、米、独、佛、伊に留学す○当選二回（22 23）

## 角田藤三郎

佐賀縣選出、日本社会党

明治三十年五月島根縣松江市新材木町に生る〇西部交通労働同盟執行委員、日本交通労働同盟関西支部、大阪市電従業員組合各顧問、佐賀炭坑従業員組合組合長、株式会社納富鉄工所支配人、佐賀兵器株式会社庶務兼勤労課長となり、現に日本放送協会役員、浜産業株式会社、唐津地区労働組合連合会、日本社会党佐賀縣支部連合会各顧問である〇当選一回（23）

## 世耕弘一

和歌山縣第二区選出、日本自由党

明治二十六年三月和歌山縣東牟婁郡敷屋村に生る、日本大学法文学部法律科卒業後、同大学政治経済海外研究員として独乙に留学す、「独乙文法並文体論」その他数種の著書がある〇日本大学講師、同大学理事、大阪專門学校長、大阪理工科大学総長代理、大阪理工科大学理事等となり現在に至る、かつて文部省欧米各國宗教制度調査委員、東京市知識階級就職委員会委員等を命ぜられ、百貨店委員会、國民貯蓄奨励委員会各委員等仰せつけらる〇日本自由党常議員、同総務となり、現に同政務調査会予算委員長である、さきに内務政務次官に任ぜられ、臨時法制調査会委員、地方制度調査会臨時委員等仰せつけられ、経済安定本部事務を嘱託せらる〇当選四回（18 20 22 23）

## 關内正一

福島縣第三区選出、日本自由党

油類販賣業

明治三十年三月福島縣石城郡大浦村に生る、早稲田大学商科に学ぶ〇福島縣平町会議員、福島縣会議員及び平市会議員に各再選せられ、同市会議長に挙げらる、福島縣石油類統制配給株式会社々長となる、現に日本自由党幹事である〇当選一回（23）

## 關根久藏

埼玉縣第三区選出、民主党

農業

明治二十七年十二月埼玉縣兒玉郡金屋村に生る、縣立富岡中学校卒業〇金屋村助役、同学部委員、同農業会長、同信用購買販賣利用組合理事組合長、兒玉郡農村工業販購利用組合連合会理事副会長、埼玉縣信販購利用組合連合会事務理事、埼玉縣農業会專務理事等に挙げらる〇日本進歩党常議員、同幹事となり、現に民主党党常議員、同総務委員、同政務調査会理事、同農林部会部会長である〇当選二回（22 23）

## 千賀康治

愛知縣第四区選出、同志クラブ
会社員

明治二十五年九月愛知縣岡崎市連尺町に生る、縣立岡崎中学校卒業〇岡崎市会議員に四選せられ、愛知縣会議員に三選せらる、この間愛知縣嘱託として産業視察のため中華民國に三度、動植物学研究のため台湾、朝鮮方面にしばしば視察旅行をなす、現に日本繊維機器工業株式会社、花崗石材工業株式会社各取締役である、さきに民主党政務調査会理事、同畜産委員会委員長となる〇当選一回（23）

## 相馬助治

栃木縣第一区選出、第一議員倶楽部

明治四十四年三月栃木縣那須郡芦野町に生る、栃木縣師範学校本科第一部卒業、「兒童心理とお母様の心構へ」「子供の見方躾方」等の著書がある〇栃木縣黒磯及び大内、東京都平塚各尋常高等小学校訓導、栃木縣立日光高等女学校教諭兼書記、同縣立今市中学校教諭等を歴任し、栃木縣教員組合常任委員長、関東地方教員中央執行委員長に選ばる、栃木縣地方労働委員会委員を委嘱せらる〇当選一回（23）

## 園田直

熊本縣第二区選出、民主党
農業

大正二年十二月熊本縣天草郡一町田村に生る、縣立天草中学校卒業〇小学校代用教員、一町田村助役、同村長、同村農業会々長となり、現に同村保健組合組合長、天草郡農民組合連合会々長、一町田村農地委員である〇当選一回（23）

## 田口助太郎

埼玉縣第一区選出、日本自由党
会社重役

明治四十年八月埼玉縣北足立郡草加町に生る、早稲田大学専門部法律科卒業、「牧野法研究」「部落の研究」「農林省会計法規提要」等の著書がある〇農林省馬政局属を退官後、日満工業株式会社々員を経て大同産業株式会社取締役社長、國際映画プロダクション理事長となる〇当選一回（23）

**田島房邦**　埼玉縣第一区選出、民主党

酒類販賣業

明治十五年十月東京都文京区音羽町に生る○川口市会議員に再選せられ、同市会副議長、埼玉縣会議員、同縣会副議長に選ばる、川口商工会議所副会頭、同会頭、埼玉縣商工経済会理事川口支部長、川口商工会々長、川口食料品小賣商業組合、同小賣統制組合連合会々長となり、都市計画埼玉縣地方委員会委員、埼玉縣轉廃業者資産評價委員会委員等となる、埼玉縣業務酒々販組合、川口食料品商業協同組合各理事長、埼玉縣生活物資活用協会々長、商工組合中央会埼玉縣支部副支部長、埼玉縣酒類販賣株式会社常務取締役となり今日に至る、現に浦和兌務署管内所得調査員、浦和地方裁判所各種調停委員、司法保護委員、埼玉縣監査委員である、又民主党常議員、同政務調査会理事である○当選一回（23）

**田中織之進**　和歌山縣第一区選出、日本社会党

木材業

明治四十四年二月和歌山縣那賀郡中野上村に生る、九州帝國大学法文学部法科卒業、「無産党ヲ動カス人々」「小磯內閣ノ閣僚」外数種の著書がある○協同連合通信社、東京通信社、読賣新聞社の各記者、新生社調査部長となり、後木材伐採業を営み今日に至る、現に日本社会党和歌山縣連書記長、日本農民組合和歌山縣連書記長、部落解放全國委員、和歌山縣食糧危機突破対策、同縣震災対策各委員会委員である○当選一回（23）

**田中角榮**　新潟縣第三区選出、同志クラブ

新潟縣会社々長

大正七年五月新潟縣刈羽郡二田村に生る、中央工学校土木科卒業、後錦城商業学校に学ぶ○建築設計業、土木建築請負業を営み、田中土建工業株式会社を創立、その取締役社長となり現在に至る○当選一回（23）

**田中健吉**　秋田縣第二区選出、日本社会党

明治四十二年十二月秋田縣北秋田郡上川沿村に生る○横手町会議員、秋田縣会議員にそれぞれ再選せられ、同縣参事会員に挙げらる、横手農地協同購買利用組合理事、秋田縣地方労働委員会委員、日本農民組合秋田縣連合会政治部長、同連合会々長を経て日本農民組合中央委員となり、又日本社会党秋田縣支部連合会書記長、同支部連合会々長を経て日本社会党中央委員となり現在に至る○当選二回（22 23）

## 田中源三郎

兵庫縣第三区選出、民主党
運輸政務次官

明治二十八年八月兵庫縣明石郡大久保村に生る、法政大学に学ぶ○三度兵庫縣会議員、同参事会員に選ばる、営業税調査委員、兵庫縣地方道路共進会審査委員、土地收用審査委員、市町村吏員懲戒審査委員等に挙げられ、都市計画神戸地方委員会委員仰せつけらる○三木電鉄株式会社監査役、兵庫縣淡水養魚組合長、日本養魚組合連合会常務理事となり、明石莚叺同業組合長、兵庫縣水産業会顧問、中央水産業会参與、兵庫縣池中養殖特別漁業会々長、阪神産業株式会社々長となる、又日本自由党常議員、同政務調査会理事、同商工部々長、同石炭部々長、同選挙対策副部長となる○現に運輸政務次官に任ぜられ、運輸省行政監察委員会委員を委嘱せらる○当選三回（20 22 23）

## 田中松月

福岡縣第一区選出、日本社会党
僧侶

明治三十三年九月福岡縣嘉穗郡大隈町に生る、京都市平安中学校卒業○眞宗本願寺派布教使、補導使となる、福岡縣会議員に選ばれ、福岡縣農地委員会委員に挙げらる、日本社会党中央執行委員となり、現に同党福岡縣支部連合会書記長、全國水平社中央委員、全國水平社九州地方協議会書記長である○当選二回（22 23）

## 田中稔男

福岡縣第三区選出、日本社会党

明治三十五年二月佐賀縣唐津市山下町に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業○東京市社会事業事務を嘱託せられ、東京都主事に任ぜらる、退官後日本製鉄株式会社参事を経て日本労働組合総同盟西部同盟会主事となり現在に至る○当選一回（23）

## 田中久雄

三重縣第一区選出、第一議員倶樂部

明治三十八年十二月三重縣河藝郡高野尾村に生る、関西大学専門部商科卒業○東京時事新報社々長祕書、同管理課長、同横浜販賣局長を経て鐘淵紡績株式会社に入社、同社東北販賣店取締役店長、鐘淵盛岡産業株式会社監査役となり、仙台市繊維製品統制組合理事長を兼ね、鐘淵工業株式会社明石工場長となる○当選二回（22 23）

## 田中豊

千葉縣第三区選出、民主党

明治二十七年四月千葉縣長生郡鷹南村に生る、縣立大多喜中学校に学ぶ〇千葉縣叉納入組合組合長、同縣農水産株式会社々長、日本藁工品配給株式会社評議員並びに千葉縣出張所長等を経て全國農業会千葉縣藁工品事務所長となる〇当選一回（23）

## 田淵実夫

廣島縣第三区選出、日本社会党

著述業

明治四十二年一月廣島縣双三郡和田村に生る、関西大学文科卒業後、立命館大学東亜文学科に学ぶ、「藝備方言考」「莫鷺円「蛇語源考」」等の著書がある〇関西工学講師を経て廣島縣立三次高等女学校教諭に任ぜらる、さきに全國農民組合奈良縣連合会組織部長となり、又日本農民組合廣島縣連合会副会長となる〇当選一回（23）

## 由村虎一

山口縣第二区選出、日本自由党

弁護士

明治二十七年二月山口縣大島郡小松町に生る、中央大学專門部法律科卒業〇弁護士試験に合格、岩國町会議員に四選、山口縣会議員に三選、同縣会副議長、岩國市会議員に選ばれ、玖珂郡川下村長、岩國区裁判所人事、金銭債務、小作、借地借家各調停委員となる、岩國市助役となる、大正十一年弁護士開業現在に至る〇当選一回（23）

## 多賀安郎

岡山縣第二区選出、國民協同党

新聞社主筆

明治三十八年三月岡山縣兒島郡福田村に生る、早稲田大学專門部法律科卒業〇東京吉井洋行を経営し、昭和十一年廃業後合同新聞社、大阪時事新報社各記者、満洲新聞社大阪支社営業部長等を経て山陽民報社主筆となり現在に至る、又在外同胞帰還促進会理事、日本漁民組合瀬戸内海部長、倉敷体育協会副会長、備中板金加工業組合理事長となる、現に國民協同党中央委員、同遊説部々長である〇当選一回（23）

## 多田勇

千葉縣第一区選出、日本自由党
会社重役

明治四十四年二月千葉縣香取郡香取町に生る、日本大学商業学校卒業、「砂糖配給統制の実務」の著書がある〇かつて房総新聞社記者となる、千葉縣砂糖卸商業組合、同卸統制組合各専務理事、同縣石鹸卸施設組合、同縣日用品配給統制組合常務理事、同縣植物油脂小賣施設組合各理事等に挙げられ、同縣燐寸卸施設組合、同縣生活用品販賣株式会社副社長、東日本産業株式会社々長となる、又日本自由党千葉市郡支部幹事長となる〇当選一回（23）

## 高岡忠弘

新潟縣第二区選出、民主党
会社々長

明治三十二年四月新潟縣中蒲原郡新津町に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業〇十全村長、新潟縣会議員、同参事会員に各三選せられ、十全村農地委員会々長、新潟縣社会教育委員長等に挙げらる〇新潟木工有限会社専務取締役、北日本航空工業株式会社取締役社長となり、現に北越木材工業株式会社取締役社長である〇さきに立憲民政党新潟縣支部遊説部々長、同総務となり、日本進歩党新潟縣支部政務調査会々長となる、現に民主党政務調査会理事、新潟縣支部総務である〇当選一回（23）

## 高倉定助

北海道第五区選出、日本農民党
農業

明治二十六年八月滋賀縣甲賀郡土山町に生る〇北海道音更村会議員に選ばれ、帯廣市会議員、北海道会議員に各再選せらる、又名誉職北海道参事会員に挙げらる、音更村農会副会長、帯廣市農会、同農業会各会長、十勝郡農会副会長、北海道農会議員、北海道農業会理事となる、十勝拓殖株式会社取締役社長、北海道木炭株式会社取締役となり、又日本農民党代議士会々長となり現在に至る〇当選一回（23）

## 高瀬傳

栃木縣第一区選出、日本社会党

明治三十一年十二月栃木縣那須郡親園村に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業〇文官高等試験行政科合格、鉄道省事務官、遞信局事務官、大使館一等書記官、兼鉄道官、鉄道監察官、兼鉄道、外務各書記官、國際観光局書記官、鉄道監等を歴任す、退官後上海特別市特別秘書となる、終戦連絡中央事務局参與、鉄道会議々員等仰せつけらる、在官中、観光事業促進のため米國へ出張し、又泰國へ在勤す〇当選二回（22 23）

## 高田弥市

岩手縣第二区選出、日本自由党
土木建築請負業

明治三十八年十月岩手縣和賀郡鬼柳村に生る○岩手縣労務報國会黒沢尻支部長、東北土木建築統制組合監事、財團法人労務協会岩手縣支部副支部長等を経て日本建設工業会評議員となる、さきに土木建築請負業を開業現在に至る、又日本自由党政務調査会電氣委員会副委員長である○当選一回（23）

## 高津正道

廣島縣第三区選出、日本社会党
著述業

明治二十六年四月廣島縣御調郡羽和泉村に生る、早稲田大学に学ぶ、「無産階級と宗教」「搾取に恥る人々」「邪教新論」「ソ連の勝因とドイツの敗因」等の著書及びジョージ・セルデス原著「ファッショの偶像」、アプトン・シンクレア原作「オイル」その他の飜訳書がある○かつて本派本願寺派南光寺住職となる○当選二回（22 23）

## 高橋英吉

愛媛縣第三区選出、日本自由党
弁護士

明治三十一年一月愛媛縣八幡浜市に生る、日本大学法科に学ぶ○弁護士試験に合格、弁護士を開業現在に至る、八幡浜町会議員に三選、八幡浜市会議員に再選せられ、同市会議長、愛媛縣会議員に挙げらる、日本自由党幹事、同政務調査会理事となり、大蔵参與官に任ぜらる、現に株式会社愛媛新報社々長である○当選二回（22 23）

## 高橋長治

神奈川縣第一区選出、民主党

明治三十年五月神奈川縣横浜市南区蒔田町に生る、慶應義塾商工学校卒業○神奈川縣会議員に四選、同縣会議長に再選せられ、同縣行政監査委員長に選ばる、現に民主党常議員、同監査部副部長である○当選一回（23）

**竹内克巳**　京都府第一区選出、日本社会党

明治二十三年五月福井縣福井市に生る、京都帝國大学文科選科に学ぶ〇大阪朝日新聞社記者、同海外特派員、満洲日朝社取締役主筆等を経て文化團体聞人会を創立、その理事長となり現在に至る、日本社会党創立準備委員となり、ついで同党中央執行委員となる、大阪財務局管内不動産評價委員会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

**竹尾弌**　千葉縣第二区選出、日本自由党

著述業

明治二十九年十二月千葉縣印旛郡八生村に生る、東京外國語学校露語科卒業、「ソヴィエト統制経済論」の著書及び「世界外交史」の飜訳書がある〇朝鮮銀行浦潮支店に勤務し、後報知新聞、東京毎夕新聞各記者となり、國士館高等拓殖学校講師、朝鮮林業協会附属北方産業研究所主事となる、現に日本自由党政務調査会理事である〇当選一回（23）

**竹田儀一**　石川縣第一区選出、民主党

國務大臣

明治二十七年三月石川縣江沼郡大聖寺町に生る、京都帝國大学法科大学卒業〇大阪市会議員、同参事会員に選ばる、拓務大臣秘書官に任ぜらる〇樺太ツンドラ工業、福井工作、大聖寺産業各株式会社取締役社長、高千穂光学工藝株式会社監査役、昭和電極、白光舎、津上安宅製作所、竹田産業各株式会社取締役、高田精工株式会社取締役会長となる、又日本自由党代議士会副会長、同党務部副部長、同党石川縣支部顧問等を経て民主党幹事長となる、さきに封鎖預金等審査委員会委員を命ぜられ、地方分與税委員会委員、財政收支調整調査会々長、戰時補償特殊税審査委員会委員等仰せつけらる〇現に國務大臣である〇当選四回（17 18 22 23）

**竹谷源太郎**　宮城縣第一区選出、日本社会党

明治三十四年二月宮城縣伊具郡角田村に生る、東京帝國大学法学部法律科卒業〇文官高等試験外交科及び行政科合格、地方事務官、北海道廳事務官、富山、山口、福岡、兵庫各縣書記官、陸軍司政長官、千葉、新潟各縣部長等に任ぜられ、富山、山口、兵庫各縣警察部長、福岡縣経済部長、千葉、新潟各縣内政部長等に補せらる、現に日本社会党代議士会副会長である〇当選二回（22 23）

## 竹山祐太郎

靜岡縣第三区選出、國民協同党
常任委員長

明治三十四年四月靜岡縣磐田郡磐田町に生る、東京帝國大学農学部農学実科卒業〇農林技師兼農林省小作官に任ぜられ、東京高等農林学校教諭を兼任す、退官後全國農業会参事指導部長となる〇協同民主党政策調査会理事となり、現に國民協同党常任中央委員である、又衆議院決算委員会委員長である〇当選二回（22 23）

## 武田キヨ

廣島縣第二区選出、民主党
中等学校教諭

明治二十九年九月山口縣玖珂郡神代村に生る、東京女子高等師範学校文科卒業〇縣立吳高等女学校教諭に任ぜられ、大正中学校講師を兼ぬ、婦人参政権獲得同盟中國支部長となり、又東京八雲女学校長を経て財團法人大正学園理事、吳港中学校、同商業学校各教諭となり現在に至る、又日本自由党総務、同婦人部副部長、同政務調査会理事となり、現に民主党総務委員である、さきに地方制度調査会臨時委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 只野直三郎

宮城縣第一区選出、第一議員倶樂部

明治三十三年十月宮城縣遠田郡沼部村に生る、東北帝國大学法文学部卒業〇仙台東北中学校教諭、東北薬学専門学校講師兼生徒主事、財團法人南光学園理事等を経て陸軍司政官に任ぜられ、退官後再度東北中学校教諭に就職、東北農学校長、財團法人薬学専門学校理事となる〇当選一回（23）

## 橘直治

富山縣第二区選出、民主党
会社重役

明治四十一年十一月富山縣高岡市守山町に生る、早稲田大学商学部卒業〇富山縣守山郵便局長に任ぜらる、守山村会議員、高岡市会議員、同議長に選はる〇橘、丸中商行、高岡土地、伏木港、共和組回漕店、岩瀬運輸、伏木海陸運送、北陸機帆船運送、伏木港湾産業等の各株式会社取締役社長、高岡劇場、灘浦造船鉄工各株式会社取締役、木造海運協会理事、新潟縣地方事務局長兼北陸支部長となる、又日本進歩党常任幹事となり、現に民主党庶務部々長、同政務調査会理事、同運輸部会部会長、同経済力集中排除法対策特別委員会委員長である、さきに封鎖預金審査委員を命ぜられ、名古屋財務局管内不動産評價委員会、戰時補償特別税審査委員会各委員等仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 館　俊三　北海道第三区選出、日本社会党

明治二十九年六月石川縣鹿島郡七尾村に生る、縣立七尾中学校卒業○鹿島郡滝尾、中之島各尋常高等小学校准訓導心得となる、後鉄道局書記に任ぜられ、函館駅案内係主任兼助役を命ぜらる、函館駅従業員労働組合、函館地区鉄道従業員組合協議会各常任委員長を経て國鉄北海道労働組合中央執行委員長、國鉄労働組合総連合会中央委員となり現在に至る○当選一回（23）

## 玉井祐吉　新潟縣第二区選出、日本社会党

大正四年一月東京都文京区駒込林町に生る、東京帝國大学法学部法律学科独逸法律科卒業○日本曹達、日本鋼管各株式会社々員を経て東山炭礦所長となる、現に日本農民組合青年部新潟縣連執行委員長、日本社会党新潟支部執行委員、同支部青年部々長である○当選一回（23）

## 圖司安正　山形縣第二区選出、民主党

明治三十八年十二月山形縣飽海郡松嶺町に生る、明治大学高等專攻科修業、「雪國の悲惨を語る」「東北地方大凶作の原因、現狀、対策」外数種の著書がある○農林省、拓務省、大東亜省各嘱託となる、財團法人雪國協会、山形縣草履統制及び施設組合、同木工品統制組合各理事長、最上川運輸株式会社々長、最上興農株式会社取締役となり現在に至る、又日本進歩党幹事となり、現に民主党總務委員、同政務調査会副会長である○当選二回（22 23）

## 塚田十一郎　新潟縣第四区選出、日本自由党

明治三十七年二月新潟縣中頸城郡春日村に生る、東京商科大学本科卒業○文官高等試験行政科及び司法科合格、東京外國語学校生徒主事補兼助教授、長崎高等商業学校事務官等を歴任す○株式会社鹿島組監査役及び経理部長等を経て同鹿島製作所取締役となり現在に至る、又日本自由党々務部副部長、同幹事、同政務調査会財政金融委員長である、さきに金融制度調査会委員仰せつけらるる○当選二回（22 23）

## 佃　良一

兵庫縣第一区選出、民主党
会社重役

明治二十七年六月神戸市兵庫区五宮町に生る、早稲田大学英法科卒業〇四度神戸市会議員、神戸市会議長、兵庫縣会議員に選ばれ、しばしば神戸、須磨各税務署管内所得調査委員、大阪財務局所得審査委員に挙げらる、現に株式会社大野社監査役である、又日本進歩党常議員、同総務委員、同兵庫縣支部総務、同幹事長となり、現に民主党代議士会副会長、同政務調査会理事である、さきに地方制度調査会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 辻　寛一

愛知縣第一区選出、日本自由党
会社重役

明治三十八年十月岐阜縣岐阜市長良町に生る、名古屋高等商業学校卒業、「民主々義問答」「婦人参政の話」外数種の著書がある〇名古屋新聞記者となる、再度名古屋市会議員、愛知縣会議員に選ばる、日本自由党常議員、同政務調査会文化委員長となり、運輸参與官に任ぜらる、現に株式会社中央ヤスリ製作所社長、染木建築株式会社取締役である、さきに鉄道輸送中央協議会委員仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 辻井民之助

京都府第一区選出、日本社会党
織物工

明治二十六年六月京都市上京区大宮通椹木町に生る、「無産青年に與ふ」「戦時下に於ける西陣賃織業者問題対策」の著書がある〇三度京都府会議員、京都市会議員に選ばれ、京都府労働委員に挙げらる、日本労働総同盟京都連合会長、日本労農党京都支部長、日本社会党中央執行委員となり、現に日本労働組合総同盟京都連合会々長である〇当選二回（22 23）

## 綱島正興

長崎縣第二区選出、日本農民党
弁護士

明治二十三年三月長崎縣北松浦郡南田平村に生る、東京帝國大学独逸法律科卒業〇かつて鉱山労働同盟会々長、日本労働党新潟縣連合会々長となる、大正六年弁護士を開業現在に至る〇当選一回（23）

## 坪井亀藏　靜岡縣第三区選出、國民協同党

明治三十三年十二月靜岡縣浜名郡赤佐村に生る、縣立浜松農蚕学校卒業○赤佐村尋常小学校訓導となる、赤佐村会議員、靜岡縣会議員に選ばれ、靜岡縣家屋税第一次第二次調査委員に挙げらる○浜名郡養蚕業副組合長、同桑苗生産組合、同緬羊山羊組合各連合会々長、靜岡縣桑苗組合副会長、赤佐村農業会副会長、浜名郡農業保険組合理事、浜松市農業会理事生産課長等を経て靜岡縣蚕糸業会副会長、靜岡縣農業会技師となる○協同民主党政策調査会蚕糸部々長となり、現に同党中央委員、國民協同党政策調査会理事となり、現に同党中央委員、國民協同党政策調査会蚕糸部々長である○当選二回（2223）

## 坪川信三　福井縣選出、民主党

明治四十二年十一月福井縣足羽郡社村に生る、福井師範学校本科卒業○社小学校訓導となり、北平日本大使館に出向、居留民教育に従事す、湯沢内相秘書、鈴木内閣嘱託となる、又だるま屋百貨店東京出張所長となる、中央社会事業委員会、大阪財務局管内不動産評價委員会各委員等仰せつけらる○日本進歩党幹事、同情報部副部長となり、現に民主党情報部々長、同総務委員、同政務調査会理事である、さきに逓信参與官に任ぜらる○当選二回（2223）

## 圓谷光衞　福島縣第二区選出、日本自由党

明治二十二年二月福島縣西白河郡信夫村に生る、福島縣師範学校卒業○小学校訓導、同校長、郡視学、縣視学、國民学校長等を歴任す○西白河郡連合青年團長、日本教育会福島縣支部長、又日本自由党福島縣教育会理事長となり、経済安定本部嘱託となる、教育刷新委員会委員、自由党政務調査会文部部副部長、同会文教委員長となる、靜岡縣第三区選出、日本自由党政務調査会文部部副部長、同会文教委員長となる、靜岡縣第三区選出、日本農民党

## 寺崎覺　福岡縣第三区選出、日本農民党　農業

明治二十七年八月福岡縣久留米市津福本町に生る○福岡縣方面委員、久留米市鳥飼産業組合理事、同鳥飼農業会副会長、同会長となり、現に久留米区司法保護委員、福岡縣民生委員、久留米市農地委員会々長、福岡縣農村青年連盟久留米地区委員長である、又日本農民党情報部々長である○当選一回（23）

## 寺島隆太郎

千葉縣第二区選出、民主党
農業

明治四十五年三月千葉縣香取郡万歳村に生る、大東文化学院卒業、「佛教反省時代」の著書及び「新民主義」の訳書がある○財團法人関東中学校教諭となる、辞して後報知新聞社に入社論設委員となる○司法保護委員に挙げらる、農林省帰農対策本部嘱託、同開拓局嘱託、財團法人大東文化協会幹事となる、現に民主党常議員、同政務調査会理事、同特別委員会農業連盟委員会委員長である、さきに厚生参與官に任ぜられ、中央社会事業委員会委員仰せつけらる○当選二回（2223）

## 寺本齋

熊本縣第一区選出、民主党

明治三十四年八月熊本縣玉名郡豊水村に生る、中央大学專門部法学科卒業○熊本縣属、台湾總督府属、遞信省事務官、兼國務大臣秘書官等を歴任す、中央食糧営團主事、同總務部文書課長を経て全國食料営團連合会庶務課長となる、現に民主党幹事、同政務調査会労働委員会委員長である○当選一回（23）

## 土井直作

神奈川縣第二区選出、日本社会党
労働政務次官

明治三十三年十一月石川縣鳳至郡地村に生る○三度神奈川縣会議員、同名誉職参事会員、再度川崎市会議員、同名誉職参事会員に選ばる、横浜地方裁判所借地借家、金銭債務、商事、人事等の各調停委員、神奈川縣労務調停委員等に挙げらる○日本労働総同盟、労働組合總同盟各中央委員及び各神奈川縣連合会副会長、社会大衆党中央執行委員を経て日本社会党中央執行委員、同党宣傳部々長となる○現に労働政務次官である、さきに中央職業紹介委員会委員仰せつけらる○当選二回（2223）

## 東井三代次

奈良縣選出、第一議員倶樂部
天理教々師

明治三十三年十二月滋賀縣甲賀郡柏木村に生る、東京帝國大学法学部卒業○天理教々廳印刷所長、同庶務課長、同輸送部長等を経て、同東京出張所長兼教廳總務となる○当選二回（2223）

## 戸叶里子

栃木縣第一区選出、日本社会党

明治四十一年十一月長野縣松本市東町に生る、京都同志社女子專門学校英文科卒業○愛宕英語塾教師となり、東京青蘭女子商業学校教師となる○当選二回（22 23）

## 外崎千代吉

青森縣第二区選出、第一議員倶樂部
青森縣会社々長

明治三十年七月青森縣北津軽郡五所川原町に生る、日本大学專門部政治経済科に学ぶ○五所川原町会議員、青森縣会議員に選ばれ、北津軽郡脇元村長となる、さきに陸奥タイムス、青森日報各新聞社を経営その社長となる、現に小泊造船有限会社取締役社長である○当選一回（23）

## 徳田球一

東京都第三区選出、日本共産党
著述業

明治二十七年九月沖繩縣國頭郡名護町に生る、日本大学專門部法律学科卒業、「人民に訴ふ」の著書、その他赤旗紙上に諸論文等がある○文官高等試験司法科合格、弁護士を開業す、中央労働委員となり、現に日本共産党中央委員書記長である○当選二回（22 23）

## 野老誠

千葉縣第三区選出、日本社会党
農業

明治三十七年五月千葉縣山武郡大網町に生る、東京高等師範学校研究科卒業○中等学校教育科教員免許状受領、さきに山武郡公平尋常高等小学校代用教員、同小学校訓導となる、千葉縣視学に任ぜられ、千葉市寒川國民学校長に補せらる○当選一回（23）

## 冨田照

千葉縣第三区選出、日本自由党
学校長

明治二十五年三月千葉縣君津郡湊町に生る、日本大学専門部法律科卒業○小学校訓導、精華高等女学校教員、日本大学書記、同教務課長、同幹事、同主事、同画策課長、同総務、同予科文科参與、同参事、同第四普通部経理監となり、現に日本大学第四中学、同第四商業、同第四工業学校の各校長である、さきに満洲、朝鮮地方の図書館教育状況を視察す、又神奈川縣図書館協会理事となる、現に日本自由党幹事、同組織部副部長、同政務調査会文教委員会副委員長である○当選一回（23）

## 冨永格五郎

北海道第三区選出、日本自由党
会社重役

明治二十七年九月北海道檜山市江差町に生る、廳立函館中学校卒業○函館市会議員、北海道会議員に選はる、現に株式会社北海商報社代表取締役、北海道水産物製造業会、同水産業会各理事、函館漁業会々長、同救難所長等である、又日本自由党政務調査会水産委員会副委員長である○当選一回（23）

## 冨吉榮二

鹿兒島縣第二区選出、日本社会党
商工政務次官

明治三十二年七月鹿兒島縣姶良郡清水村に生る、開成中学校卒業後研数学館高等科卒業○三度清水村会議員、再度鹿兒島縣会議員に選ばる○私立精華学校教諭、株式会社鹿兒島鉄工所取締役となる○農民運動に携わり、農民組合中央執行委員、労働農民党中央執行委員、同鹿兒島縣支部連合会執行委員、社会大衆党中央執行委員、同宣傳部々長となる○現に商工政務次官である、鉱業法令改正委員会委員を命ぜらる、さきに鹿兒島地方裁判所管内各種調停委員を委嘱せらる○当選四回（1920 22 23）

## 苫米地義三

青森縣第一区選出、民主党

明治十三年十二月青森縣上北郡藤坂村に生る、東京高等工業学校卒業○株式会社青森銀行取締役、日産化学工業株式会社取締役社長、日東硫曹株式会社取締役会長、日本硫黄株式会社々長、化成品統制株式会社監査役、日本硫硝酸株式会社監事、油脂製品統制株式会社理事、その他多数会社の社長又は各種重要役となり、又全國肥料商業組合理事長、油脂加工統制組合理事長、社團法人肥料協会理事となる○化学工業連盟評議員、商工省企業経理調査委員会委員等に挙げられ、税制調査会々長、給與、肥料各審議会委員等仰せつけらる、日本進歩党常議員会副会長、同党総務委員、同政務調査会々長となり、現に民主党幹事長及び顧問である○さきに運輸大臣に任ぜらる○当選二回（22 23）

## 苫米地英俊　北海道第一區選出、日本自由党

明治十七年十二月福井縣大野郡大野町に生る、東京外國語學校英語本科卒業後文部省より商業英語、國際公法及び國際私法研究のため英、米に留學を命ぜられ、「ハーヴァード」大學及び「ロンドン」大學において研究す、「高等商業英語」「貿易活法」「外數種の著書がある○東京外國語學校、宏文學院、小樽高等商業學校各講師を嘱託せられ、小樽高等商業學校教授、同校長等を歴任し、小樽經濟專門學校名譽教授の名稱を與えらる、在官中西比利亞、朝鮮、滿洲及び中國へ出張を命ぜらる○日本自由党政務調査會副會長、同文部部々長、同政務調査會教育部々長となり、現に同党議員總會副會長、同政務調査會顧問であるに社會保險制度調査會、金融制度調査會各委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 豊澤豊雄　香川縣第二區選出、國民協同党

明治四十年六月香川縣綾歌郡川西村に生る、香川縣師範學校專攻科卒業、「日本発明発見物語」「創造の民日本民族」「塩田の父久米栄左衞門」「飛行機を工夫したる二宮忠八」等の著書がある○香川縣宇多津、長炭各小學校訓導、縣立高松商業學校、縣立坂出高等女學校、女子師範學校等の各教諭を歴任す、又成城學園訓導となる○國民党組織部副部長となり、現に國民協同党中央委員、同青年部々長である○当選二回（22 23）

## 內藤友明　富山縣第二區選出、國民協同党

明治二十七年十二月富山縣高岡市長江に生る、東京帝國大學農科大學農學実科卒業○富山地方裁判所小作、金錢債務各調停委員となる、帝國農會參事、富山縣農會技師兼幹事、富山縣立産業講習所講師、財團法人農村更生協會主事、産業組合中央金庫祕書課長兼祕書役となり、農林大臣祕書官に任ぜらる、現に農地開発営團監事、財團法人農村更生協會常任理事、社團法人農山漁村文化協會監事、同日本國民高等學校協會常任理事である、又國民協同党中央委員である○当選一回（23）

## 中垣國男　愛知縣第四区選出、國民協同党

明治四十四年六月鹿兒島縣日置郡市來村に生る、鹿兒島縣立水産學校卒業○愛知縣横須賀村農業会及び同幡豆郡農業会の事務員等を経て幡豆食品株式会社支配人、愛知トマト製造株式会社常務取締役、愛知旺盛興業輸送機製作所、同三和印刷、カゴメ出版社、愛知西三証券、同商事、同三和商事、同太陽興業、同旺盛興業、同三河漁業、同海産興業等の各株式会社取締役、愛知建築株式会社々長及び愛知縣警民協会委員となり現在に至る、又民主党常任幹事、同政務調査会理事である○当選一回（23）

## 中崎敏

島根縣選出、日本社会党

明治三十三年十一月島根縣那賀郡都野津町に生る、東京商科大学卒業○文官高等試験合格、日本防火資材有限会社々長となり、現に東邦化学工業株式会社代表取締役、日本切削油製造株式会社々長、共和石油合資会社無限責任社員である、さきに中央株式等評價委員会委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 中嶋勝一

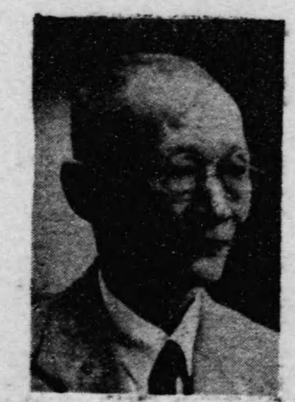
山口縣第二区選出、民主党

明治二十五年九月山口縣玖珂郡川越村に生る○下関市会議員、同市会副議長に選ばる、下関唐戸乾物商業組合理事となる、現に日満大豆製粉工業、中島重石鉱業各株式会社取締役社長である、又民主党山口縣支部長である○当選一回（23）

## 中島茂喜

福岡縣第一区選出、民主党

明治四十二年二月福岡縣朝倉郡金川村に生る、東京農業大学農学部卒業○再度福岡縣会議員、同名誉職参事会員に選ばれ、金川村長、同農会長、同農業会長、同産業組合長、福岡縣農業会総代等に挙げらる、福岡縣陸上小運搬業統制組合理事、同竹材商組合連合会々長となり、又朝倉郡文化報國会顧問、同馬匹組合副組合長、福岡縣家畜保險組合総代、同運搬業組合理事、同竹製品生産組合連合会副会長、その他多数組合の組合長となり現在に至る、現に民主党常議員、同政務調査会理事である○当選二回（22 23）



## 中島守利

東京都第六区選出、日本自由党

明治十年十月東京都葛飾区新宿町に生る○四度新宿町長、再度東京府会議員、四度同参事会員、同郡部会副議長、同農会議員、同教育会議員、同教育会評議員に選はる、封鎖預金等審査委員会委員を命ぜられ、都市計画東京地方委員会、特別都市計画委員会各委員等仰せつけらる○北越木材、白鬚橋各株式会社専務取締役、東亜火災保險株式会社常務取締役、多摩川水力電氣株式会社清算人となる○立憲政友会幹事、同総務委員、同顧問等を経て日本自由党代議士会々長となり、現に同党総務である○当選七同（14 15 16 17 18 22 23）

## 中曾根康弘

群馬縣第三區選出、民主党

著述業

大正七年五月群馬縣高崎市末廣町に生る、東京帝國大学法学部卒業、「青年の理想」の著書がある○文官高等試験行政科合格、東京府属、内務事務官、地方事務官、香川縣警視、警視廳警視、同監察官等を歴任す、現に民主党政務調査会理事である○当選一回（23）

## 中野四郎

愛知縣第四区選出、日本農民党

会社員

明治四十年一月愛知縣碧海郡新川町に生る○再度東京市牛込区会議員、同区会議長、東京市会議員に選ばる、合資会社日本旅行クーポン社長、日本食糧協会專務理事となる、地方制度調査会委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 中野寅吉

福島縣第二区選出、民主党

農、僧侶

明治十二年四月福島縣大沼郡赤沢村に生る、早稲田大学法科卒業○北海道廳、台湾總督府、朝鮮總督府、警視廳等にいずれも警部として在任し、又南洋群島占領地民政事務官に任ぜらる、さきに日本自由党常議員となる○当選六回（14 15 18 20 22 23）

## 中野武雄

京都府第二区選出、日本自由党

会社重役

明治三十四年四月京都府乙訓郡新神足村に生る、早稲田大学法学部卒業○京都市会議員、同参事会員、同学務委員に選ばる、伏見桃山農業会連合会々長、京都市開拓協会理事となり、鳳凰醸造株式会社監査役、日本食料株式会社專務取締役、伏見小運搬株式会社取締役社長となる、現に日本自由党幹事である○当選二回（22 23）

**中原健次**　岡山縣第二区選出、日本社会党

明治二十九年五月岡山縣浅口郡玉島村に生る○岡山縣会議員、同参事会員、再度岡山市会議員に選ばる○無産階級解放運動に携わり、政治研究会、労働農民党の組織に参劃す、労働農民党、社会大衆党各岡山縣支部連合会常任執行委員、岡山労働者組合執行委員長、日本労働組合全國評議会、労働組合総同盟、日本社会党各中央委員となり、現に日本社会党岡山縣支部連合会副会長である○当選二回（22 23）

**中山マサ**　大阪府第二区選出、民主党

明治二十四年一月長崎縣長崎市馬町に生る、長崎市活水女学校中等科卒業、後米國オハイヨ・ウエスレヤン大学に学ぶ○活水女子英語專門学校、長崎市立女学校、島岡裁縫学校等の教師となる、現に民主党常議員である○当選一回（23）

**中村嘉壽**　鹿兒島縣第一区選出、同志クラブ常任委員長

明治十三年十一月鹿兒島縣川辺郡西南方村に生る、水產講習所卒業後米國紐育大学卒業「マスター・オブ・アーツ」の学位を受く、「単純生活」の飜訳及び英文「伊藤公」「日本の水產」の外数種の著書がある○紐育日米週報社員となり「学生より見たるアメリカ」等の「学生より見たるアメリカ」等の外数種の著書がある○紐育日米週報社員となり「英字新聞記者として「ポツマス」平和会議に参列す、紐育市に中村、木村、ケルハー法律事務所を開く○米國スツードベーカー自動車会社東洋代表者、福徳貯金銀行、輸出水產会社、株式会社山神組各專務取締役、東洋文化学会、海外貿易振興会各代表者、海外の日本社々長、法政大学教授となる、又民主党会計監督となる、さきに度量衡制度調査会委員、内閣綜合計画局參與等仰せつけらる、四度列國議会同盟会議に、又第十六回万國議院商事会議に參列す、現に衆議院図書館運営委員会委員長である○当選六回（15 17 18 19 22 補23）

**中村俊夫**　兵庫縣第二区選出、民主党弁護士

明治三十一年七月兵庫縣洲本市上物部町に生る、京都帝國大学法学部卒業○大正十二年弁護士を開業現在に至る、日本冷却器株式会社專務取締役、神戸保護観察所嘱託保護司となる、現に兵庫縣司法保護委員、同縣体育連盟副会長、同縣教育審議会委員である、又民主党常任幹事、同常議員である○当選一回（23）

## 中村寅太

福岡縣第一区選出、日本農民党
農業

明治三十五年八月福岡縣糸島郡可也村に生る、福岡縣糸島農学校卒業○福岡縣農業会主事、同縣福岡青果物統制会社副参事等を経て福岡縣農村青年連盟書記長となり、同連盟機関紙「耕作者」を発刊現在に至る、日本農民党書記長である○当選一回(23)

## 中村又一

佐賀縣選出、民主党

明治二十三年十月佐賀縣藤津郡古枝村に生る、明治大学法律科卒業○弁護士及び弁理士試験に合格す、東京市会議員、同参事会員に選ばる、日本弁護士協会理事、明治大学評議員となり、台湾製糖株式会社法律顧問、朝鮮釜山株式会社法律顧問、朝鮮釜山株式会社田中造船所相談役となる、司法参與官に任ぜらる、日本進歩党総務委員、同代議士会副会長、同副幹事長となり、現に民主党総務委員である、さきに臨時法制調査会、熊本財務局管内不動産評價委員会各委員等仰せつけらる○当選三回(1922 23)

## 中村元治郎

奈良縣選出、第一議員倶楽部

明治二十四年十一月奈良縣磯城郡耳成村に生る○商業組合奈良縣神農会々長、日本仮設興行副会長、日本神農党執行委員長となり現在に至る○当選一回(23)

## 仲內憲治

千葉縣第二区選出、日本自由党
会社々長

明治三十五年一月千葉縣銚子市本城町に生る、中央大学專門部法科に学び、後北米合衆國「クラーク」大学に学ぶ、「これからは外交だ」の著書がある○文官高等試験行政科及び外交科合格、外務書記生、外務属、外交官補、領事館補、外務事務官、領事、外務書記官、外務書記官、終戦連絡中央事務局連絡官等に歴任し、退官後縣立銚子高等女学校、千葉縣笹川高等女学校等の教師を嘱託せられ、エコノミック、プレス株式会社社長となり現在に至る○当選一回(23)

**永井勝次郎**　北海道第五区選出、日本社会党
会社員

明治三十四年一月北海道中川郡利別村に生る、札幌師範学校に学ぶ○野付牛町会議員、北海道会議員に選ばる、北見新聞社編輯局長、北見時論社、北見木材工業株式会社、常磐澱粉有限会社等の各社長となり、現に北海地方木材株式会社参與、復興木材北海道工業組合理事である、さきに地方制度調査会委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

**永江一夫**　兵庫縣第一区選出、日本社会党
文部政務次官

明治三十五年二月岐阜縣惠那郡陶町に生る、関西学院高等商業学部卒業○神戸市会議員に四選、同議長、再度兵庫縣会議員に選ばる、大衆診療所を創設す、神戸外國語学校理事、日ノ本高等女学校理事となる、兵庫縣退職金審査会委員を命ぜられ、地方制度調査会委員仰せつけらる○日本労農党神戸支部書記長、社会大衆党中央執行委員、日本労働組合会議評議員、日本労働組合総同盟中央委員、同総同盟兵庫縣連合会々長となる○現に文部政務次官に任ぜられて、文部省行政監察委員会委員、國語審議会委員等を命ぜらる○当選三回（20 22 23）

**長尾達生**　福岡縣第四区選出、無所属

明治二十五年十二月福岡縣田川郡弓削田に生る○後藤寺町会議員、福岡縣会議員に選ばる、位登炭坑、石灰工場を創業し、丸山劇場を経営す、純正日本民主々義連盟会長に挙げらる、日本進歩党常議員、同常議員会々長、同総務委員となり、民主党議員総会々長となる○当選二回（22 23）

**長野長廣**　高知縣選出、民主党
内務政務次官

明治二十五年四月高知縣長岡郡介良村に生る、「農村教育新論」「青年教育ノ眞髄」「日本農村ノ新経営」「青年学校ノ新経営」「経済日本ノ農業政策」等の著書がある○豊水、萩野、長岡各尋常高等小学校訓導、高知縣立農林学校、縣立熊本農業学校、同農業補習学校教員養成所各教諭等を歴任し、文部省社会教育官、宇都宮高等農林学校教授、文部政務次官等に任ぜられ、國語審議会委員仰せつけらる○日本進歩党総務委員、同総務委員会副会長となる、又民主党常議員となる、現に内務政務次官である○当選四回（19 補20 22 23）

**長野　重右ヱ門**　滋賀縣選出、民主党　農業

明治三十一年七月滋賀縣坂田郡坂田村に生る〇法性寺村会議員四度滋賀縣会議員に選ばれ、同縣会副議長、同議長に挙げらる、琵琶湖対策審議会、地方統制指導委員会、轉廃業者資産評價地方委員会、滋賀縣選挙粛正委員会、同縣企業整備委員会各委員、滋賀縣坂田東浅井地方事務所参與委員その他各種多数の委員等を委嘱せられ、又滋賀縣河川砂防協会、同縣失業対策委員会、同縣開拓協会、同縣蚕糸業会、日本眞綿商工業協同組合、日本眞綿製造販賣統制組合、同縣眞綿製造販賣統制組合、日本眞綿商工業組合等の各理事長、滋賀栄養食糧、富士産業各株式会社取締役、有限責任八戸信用組合理事、青森縣水産業会々長となる〇日本自由党東洋メリヤス株式会社々長となり現在に至る、又民主党政務調査会理事、同党政務調査会長となる〇日本自由党同調査員となる、同党滋賀縣支部長である、さきに滋賀縣経済視察員、満支へ出張す〇当選二回（22補23）

**夏堀　源三郎**　青森縣第一区選出、日本自由党　漁業

明治二十年四月青森縣三戸郡地引村に生る〇水産皮革統制株式会社理事、八戸魚市場、東北振興水産、八戸漁港製函、同興亜造船鉄工、大東機械製作所各株式会社々長、興亜水産皮革、青森縣罐詰、青森地方木材、八戸通運各株式会社取締役、有限責任八戸信用組合理事、青森縣水産業会々長となる〇日本自由党政務調査会理事、同会農林部副部長、同党会計監督となり、現に同党政務調査会顧問である、さきに産業復興営團設立委員仰せつけらる〇当選二回（2223）

**並木　芳雄**　東京都第七区選出、民主党

明治四十一年四月東京都西多摩郡西多摩村に生る、東京帝國大学法学部卒業〇大阪商船株式会社へ入社、東京支社総務課長となる、社命により米國に留学し、ニューヨーク、ナショナル、シティ銀行に英語及び事務管理を研究す、又マニラ支店に勤務す、この間マニラ軍政部交通部通訳を命ぜられ、比島留日学生寄宿舎々監、駐日比島大使館日本人係となる、昭和二十一年大阪商船株式会社退社後立川方面にて民間側の通訳となり、又三多摩小農救済会副会長となり今日に至る、又民主党渉外部副部長である〇当選一回（23）

**成島　憲子**　千葉縣第一区選出、民主党　農業

明治三十一年七月東京都文京区小石川原町に生る、台北州立第一高等女学校卒業〇大正十年頃より各種の婦人運動に参加し、専ら農村婦人の思想向上に努め今日に至る、民主党婦人部副部長となる〇当選一回（23）

## 成瀬喜五郎

徳島縣選出、日本社会党
農業

明治三十四年三月徳島縣那賀郡羽浦町に生る○日本農民組合岩脇支部長となり、以來徳島縣連合会幹部を経て日農中央常任委員徳島縣連合会々長となり今日に至る、徳島縣農地委員、同縣食糧委員となり、中央農地委員会委員を命ぜらる○当選一回（23）

## 成重光眞

福岡縣第四区選出、日本社会党
会社々長

明治三十一年九月大分縣西國東郡臼野村に生る、小倉工業学校機械科本科卒業、「小倉市会の裏面相」「工場災害予防労働衛生安全運動大綱」の著者がある○門司鉄道局技手に任ぜられ、門司鉄道局小倉工場鍛冶職場長を命ぜらる、小倉市会議員に三選、同市会副議長に再選せられ、同議長に挙げらる、又福岡縣会議員に選ばる、九州合同製器株式会社取締役となり、九州車輛工場を設立経営し、現に九州車輛株式会社取締役社長である○当選一回（23）

## 成田知巳

香川縣第一区選出、日本社会党
会社重役

大正元年九月香川縣高松市五番町に生る、東京帝國大学法学部卒業○三井鉱山、三井化学工業各株式会社々員を経て高砂商事株式会社顧問となり現在に至る、又日本労働総同盟香川縣連合会顧問となる○当選一回（23）

## 西尾末廣

大阪府第二区選出、日本社会党
國務大臣、内閣官房長官

明治二十四年三月香川縣香川郡雌雄村に生る○機械工より労働運動に入り三十年に及ぶ、國際労働会議に労働者側随員或いは代表として再度渡欧す、日本労働総同盟本部副部長、同関西同盟会々長、同大阪連合会々長、日本労働組合会議執行委員、社会大衆党中央執行委員、同大阪府連合会政策調査会々長、日本社会党中央執行委員等となり、現に同党書記長である、さきに大阪府社会事業統制委員会、同失業防止委員会各委員、中央労働委員会委員となり、中央賃金委員会、持株会社整理監査委員会各委員等仰せつけらる○現に國務大臣、内閣官房長官である○当選七回（16 17 20 20補 21 22 23）

## 西田隆男

福岡縣第二区選出、民主党

鉱業

明治三十四年十月福岡縣嘉穂郡稲築町に生る、早稲田大学法学部卒業〇秋山鉱業所坑長兼経理部長となる、退職後筑前炭坑及び第二筑前炭坑を経営、互助会石炭株式会社、北九州石炭統制株式会社各監査役、北九州石炭統制組合監事、同評議員となる、現に第二筑前炭坑を経営し、日本石炭鉱業会、九州石炭鉱業会、炭鉱文化協会各理事、日本産業協議会評議員、日本石炭鉱業連盟常任理事、石炭復興会議全國委員会幹事である、又民主党常任幹事、同政務調査会理事である〇当選一回（23）

## 西山富佐太

岡山縣第一区選出、民主党

明治二十二年七月岡山縣岡山市青江町に生る、岡山師範学校卒業〇岡山縣福浜尋常高等小学校、同縣女子師範学校、朝鮮平壌尋常高等小学校各訓導、岡山縣富山、清輝、内山下各尋常高等小学校訓導兼校長、清輝青年訓練所長、内山下青年学校々長等を歴任す、廣島少年審判所司法保護委員を命ぜられ、岡山縣体育会評議員、日本教育会岡山縣支部参與、同岡山市分会副会長、岡山市教員組合組合長、岡山縣連合教員組合組合長等に挙げられる、現に民主党政務調査会理事である〇当選二回（2223）

## 西村榮一

大阪府第五区選出、日本社会党

明治三十七年三月奈良縣北葛城郡五位堂村に生る、「大東亜建設経済原理」「生命保険國営論」「激動期の日本」等の著書がある〇堺市会議員に選ばる、社会民衆党、日本労農大衆党、社会大衆党に入党し、全國サラリーマン組合長となる、昭和生命保険相互会社大阪支店長を経て財團法人民生科学経済研究会理事長となり現在に至る、現に日本社会党政務調査会副会長、同議案審査委員会副会長である、さきに金融制度調査会、熊本財務局管内不動産評價委員会各委員等仰せつけらる〇当選二回（2223）

## 西村久之

長崎縣第二区選出、日本自由党

漁業

明治二十六年九月長崎縣南松浦郡福江村に生る、早稲田大学商科に学ぶ〇しばしば長崎縣会議員に選ばれ、同参事会員、同議長に挙げらる、又都市計画長崎地方委員会委員に挙げらる、現に西村漁業合資会社を経営し、福江製氷株式会社々長、長崎市鮮魚介藻配給統制組合理事長となり現在に至る〇日本自由党幹事となり、現に同党政務調査会水産委員長である〇当選二回（2223）

## 根本龍太郎　秋田縣第二区選出、同志クラブ

著述業

明治四十年五月秋田縣仙北郡大曲町に生る、京都帝國大学農学部農林経済学科卒業〇満洲國國務院民政部、同総務廳、同興安総省各属官、同興安総省参事官、同蒙政部、同総務廳各事務官、同建國大学助教授、同綏陽縣長、同東満総省、同総務廳各参事官等を歴任し、退官後は著述業に従事現在に至る、さきに民主党常議員、同政務調査会理事となる〇当選一回（23）

## 野上健次　大分縣第一区選出、日本社会党

明治四十一年七月福岡縣嘉穂郡千手村に生る〇西部鉱山労働組合、社会大衆党大分縣支部連合会各常任書記兼九州統一労働組合常任委員を経て渡支、株式会社興中公司、山西炭鉱々業所、江蘇省柳泉炭鉱々業所職員として鉱山及び炭鉱開発に従事し、又兼松株式会社々員となり貿易並びに機械販賣に従事す、帰國後日本社会党大分縣支部連合会書記長となる〇当選一回（23）

## 野坂參三　東京都第一区選出、日本共産党

明治二十五年三月山口縣萩市御許町に生る、慶應大学理財科卒業、「労働組合論」の飜訳「民主戦線のために」等の外多数の著書がある〇産業労働調査所々長となる、昭和六年故國を脱出、ソ連へ渡り、コミンテルン総会執行委員となる、同十八年延安に移り日本人解放連盟を創立す、同二十一年歸國し、現に日本共産党中央委員である〇当選二回（22.23）

## 野原正勝　岩手縣第一区選出、日本自由党

明治三十九年三月埼玉縣秩父郡樋口村に生る、宇都宮高等農林学校林学科卒業〇営林署技手、農林技官に任ぜられ、脇野沢、川尻、盛岡の各営林署長等を歴任す、現に日本自由党幹事である〇当選一回（23）

## 野溝勝

長野縣第三区選出、日本社会党
常任委員長

明治三十一年十一月長野縣上伊那郡赤穂村に生る、青森農学校畜産科卒業、後法政大学に学ぶ「地方議会闘争史」「電燈料値下ゲ運動ト基本方針」「戰時体制下ニ於ケル産業組合ヲ論ズ」等の著書がある○長野縣衞生技手に任ぜらる○長野縣会議員に選ばる、上伊那畜産組合長、長野獸医師会々長、南信アンゴラ連合会々長、同農村工業研究会副会長、日本食肉配給協会、日本飼料会社各理事となる○長野縣職業紹介委員会、封鎖預金等審査委員会各委員等を命ぜられ、食糧対策審議会、中央開拓委員会、戰時補償特別税審査委員会、肥料審議会各委員等仰せつけらる○日本農民組合主事、社会民衆党、日本労農大衆党、社会大衆党各中央執行委員を経て現に日本社会党中央執行委員、同代議士会々長である、又衆議院農林委員会委員長である○当選三回（20 22 23）

## 野本品吉

群馬縣第二区選出、國民協同党

明治二十六年三月群馬縣新田郡尾島町に生る、群馬縣師範学校卒業○群馬縣世良田、笠懸、宝泉、木崎各尋常高等小学校訓導、女子師範学校訓導、群馬縣生品尋常高等小学校訓導兼校長、同縣矢場川、廣沢、伊勢崎、太田各尋常高等小学校々長、同縣社会教育主事補、同視学、同太田青年学校々長等を歴任す、國民党中央常任委員となり、現に國民協同党常任中央委員である○当選二回（22 23）



## 馬場秀夫

埼玉縣第四区選出、日本社会党

明治三十四年九月埼玉縣北埼玉郡忍町に生る、東京外國語学校露西亞語部卒業、「足で視たソヴィエト連邦」「ソ連の底力」の著書がある○鴻巣町長となる、さきに毎日新聞社入社、モスクワ特派員、外國通信部副部長、同部ロシヤ課長、出版局「時局情報」編集課長を経て同局編集部長、同局次長、同局長、同局顧問となり、社團法人ソヴィエト文化協会理事長となる○当選一回（23）

## 萩原壽雄

神奈川縣第三区選出、國民協同党
農業

明治二十九年四月神奈川縣中郡成瀬村に生る、東京帝國大学農学部農学実科卒業○産業組合中央会主事補、全國購買組合連合会主事、同肥料部長を経て同常任理事となり、又農林省肥料配給統制に関する事務を嘱託せられ、一般農林水産物價格形成專門委員会專門委員、東京財務局管内不動産評價委員会委員等を命ぜらる○飼料配給、日本大豆統制、日本油糧統制、帝國油糧統制、神戸港運等の各株式会社取締役、有機肥糧株式会社專務取締役となる、現に宝運汽船株式会社取締役社長、全國農業会監事、同会「家の光」協会監事、神奈川縣農業会々長理事、同縣蚕糸業会々長、同縣組合金融協会々長、農業團体監査連合会理事である、又國民協同党事業部々長である○当選一回（23）

## 橋本金一

愛知縣第一区選出、民主党
食料品販賣業

明治二十三年十二月愛知縣名古屋市中区新柳町に生る○名古屋市会議員、愛知縣会議員に各四選せられ、同縣会副議長に挙げらる、名古屋青果物商業協同組合、愛知縣木製品商工組合、名古屋青果物荷受商業協同組合等の各理事長、新日本輿論実践連盟主宰者、愛知縣生活用品價格査定委員会副委員長、同縣監査委員となり、又愛知縣木製工業株式会社々長、名古屋青果物株式会社取締役となり現在に至る、又民主党民情部副部長、同常議員、同名古屋市中区支部長である○当選一回（23）

## 長谷川俊一

岐阜縣第二区選出、民主党
農業

明治三十七年六月岐阜縣惠那郡東野村に生る、東北帝國大学法文学部卒業○岐阜縣会議員に三選せられ、同縣会副議長、同議長に挙げらる、大日本亞炭鉱業会理事長、全國亞炭産業統制組合理事等を経て南山炭坑鉱業権代表者、第一証券株式会社及び日本陶磁器加工株式会社の各社長となり現在に至る、又民主党常議員である○当選一回（23）

## 長谷川政友

福井縣選出、民主党
会社重役

明治四十三年十一月福井縣大野郡上庄村に生る、日本大学法文学部政治学科卒業○かつて北海道廳嘱託、同農林主事となる、大和食品株式会社を創設その取締役社長、福井油脂工業株式会社取締役、帝國理化学工業株式会社及び横浜油脂工業株式会社の各顧問等となり現在に至る○当選一回（23）

日本自由党

## 花村四郎

東京都第四区選出、日本自由党
弁護士

明治二十四年八月長野縣東筑摩郡上川手村に生る、日本大学法科卒業、「陪審法通義」「東京市政と其の刷新」「伯林に使して」「最近の欧米を巡りて」等の著書がある○弁護士試験合格、弁護士を開業、日本大学理事、万朝報專務取締役兼主筆となる、四度東京市会議員に選ばれ、同市参事会員、東京都会議員に挙げらる○佛國民新聞従軍特派員として中國各地の戰線に、東京市より「オリンピック」招致のため独乙に、司法省、東京弁護士会及び日本大学等より司法制度並びに自治行政調査研究のため欧米及び満支等にそれぞれ派遣せらる○当選三回（21 22 23）

**早川崇**　和歌山縣第二區選出、國民協同党

新聞業

大正五年八月和歌山縣田辺市上屋敷町に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業○文官高等試験行政科合格、厚生省属、内務事務官等に任ぜらる、退官後紀州民報社を創設その社長となり、又夕刊みやこ新聞社副社長となる○國民党中央常任委員、國民協同党副書記長となり、現に同党中央委員である○当選二回（22 23）

**林譲治**　高知縣選出、日本自由党

明治二十二年三月高知縣幡多郡宿毛町に生る、京都帝國大学法科大学独法科卒業○宿毛町長、同農会長、同信用組合長に挙げられ、高知縣会議員に選ばる、文部大臣秘書官、農林参與官、内閣書記官長等を歴任し、農林計画、米穀自治管理、自作農創設維持、糸價安定、米穀統制、米穀配給調整中央各委員会、生糸需要増進、中小産業各調査会、米穀取引事業審議会等の各委員、日本輸出農産物株式会社設立委員、臨時法制調査会委員等仰せつけらる○日本自由党常議員、同政務調査会内閣部々長となり、現に同党総務、同経理部々長である、さきに第三十三回列國議会同盟会議に参列し、欧米各國を視察す○当選六回（17 18 19 20 22 23）

**林大作**　愛知縣第五区選出、日本社会党

弁護士

明治三十八年一月愛知縣八名郡賀茂村に生る、東京帝國大学法学部卒業、「印度の土と人」「交易営團への理論と実践」の著書がある○三井物産株式会社に入社、孟買支店及びニューヨーク支店勤務となり、印度、北中南米を視察す、商工省嘱託として貿易政策の企画に参劃、重要物資管理営團企画課長、交易営團上海運絡部次長等を経て交易営團総務部次長となる、現に弁護士を開業その業務に従事す、日本社会党渉外部次長である○当選一回（23）

**林百郎**　長野縣第三区選出、日本共産党

弁護士

明治四十五年六月長野縣岡谷市岡谷に生る、中央大学法学部卒業○高等試験司法科合格、昭和十六年弁護士開業現在に至る、株式会社小口工作所監査役となる○当選一回（23）

## 林平馬

福島縣第二區選出、民主党

明治十六年十一月福島縣耶麻郡駒形村に生る、日本体育会体操学校卒業、後日本大学に学ぶ、一大國民読本」外数種の著書がある〇福島縣喜多方、東京市十思各小学校訓導となり、京城陶器株式会社專務取締役、財團法人協調会參事、同修養團理事となる〇鉄道參與官、國務大臣等に任ぜらる〇協同民主党会計監督、同常任中央委員、國民協同党中央常任委員となり、現に民主党顧問である、さきに東北振興調査会、中央社会事業委員会、特殊会社整理監査委員会、國際観光委員会、中央社会事業委員会、鉄道幹線調査会、國各委員等仰せつけらる、第三十三回列國議會同盟会議に參列し欧米各國を視察す〇当選七回（16 17 18 19 20 22 23）

## 原健三郎

兵庫縣第二區選出、同志クラブ

評論家

明治四十年二月兵庫縣津名郡淺野村に生る、早稲田大学政治経済学部卒業、後米國オレゴン大学、コロンビア大学卒業〇大日本雄弁会講談社入社、「現代」編集長、參事を経て現在に至る、日本進歩党幹事、同渉外連絡部副部長、同部長等を経て民主党渉外部々長、同政務調査会理事、同外務部会外務委員会委員長となる、さきに外務參與官に任ぜらる〇当選二回（22 23）

## 原孝吉

福島縣第一區選出、同志クラブ

疊製造販賣業

明治十七年十月福島縣郡山市原田町に生る〇福島縣会議員、郡山市会議員、同市会議長に選ばる、福島地方裁判所金銭債務、借地借家特別調停委員、福島縣警察傷害審査委員となる、現に東北木工株式会社々長、福島縣土木建築職種別組合協議会々長、同縣疊商工業協同組合理事長である、さきに民主党常議員、同常議員会副会長となる〇当選一回（23）

## 原侑

廣島縣第三區選出、日本自由党

研究所專務理事

明治三十年四月廣島縣三原郡須波町に生る、日本大学高等師範部卒業〇日本大学第二中学校々長、京浜学園（中学商業）園長となる〇日本汽船漁業株式会社常任監査役、山路壁紙株式会社監査役、合資会社義合祥顧問、協同土木株式会社総監督となり、又國際科学食糧研究所專務理事となり現在に至る〇日本自由党幹事、同政務調査会同胞援護部々長、同労働委員長となり、現に同党総務である〇当選二回（22 23）

## 原　彪

茨城縣第三区選出、民主党
会社重役

明治三十七年十月台湾台北市府後街に生る、東京帝國大学経済学部卒業○再度土浦市長に挙げらる、土浦市國民健康保険組合、同市観光協会、同市体育協会等の各理事長、株式会社朝日組及び株式会社賀田組等の各取締役となる○さきに三井物産株式会社々員を経て株式会社賀田組の各取締役となる○さきに三井物産株式会社理事となり現在に至る、又民主党庶務部副部長、同政務調査会理事である○当選一回（23）

## 原　彪之助

東京都第一区選出、日本社会党
著述業

明治二十七年十一月岡山縣小田郡金浦町に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業○明治、法政各大学教授を歴任し、日本ファエビアン協会、自由学藝連盟各評議員、日本独立労働協会理事、自由懇話会常任理事等となる○社会民衆党常任中央執行委員、同教育部々長、社会大衆党常任中央執行委員等を経て日本社会党常任中央執行委員、同調査部々長となる、さきに復興金融金庫設立委員、中央株式等評價委員会委員等仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 原田　憲

大阪府第三区選出、日本自由党
新聞社長

大正八年二月大阪府池田市米屋町に生る、明治大学専門部政経科に学ぶ○池田産報協力工業株式会社労務課長、株式会社農工社勤労人事課長等を経て有限会社原田印刷工業社々長となり、現に阪神毎朝新聞社々長である、又日本自由党青年部副部長である○当選一回（23）

## 坂東幸太郎

北海道第二区選出、民主党
常任委員長

明治十四年四月香川縣大川郡相生村に生る、早稲田大学政治経済科卒業、「旭川回顧録」「議会ノ内幕」等の著書がある○旭川区会議員、旭川市会議員、同市会副議長、同議長に選ばる、金銭債務、人事、借地借家、小作各調停委員、旭川区学務委員、旭川商工会議所書記長、北海道拓殖計画調査会委員、同開発調査会々長等に挙げられ、旭川中央青年團名誉團長となる、かつて雑誌「旭川評論」を発刊す○鉄道参與官に任ぜらる、土木会議々員、「旭川回顧録」「議会ノ内幕」等の著書がある○旭川区会議員、旭川市会議員、同市会副議長、同議長に選ばる、金銭債務、人事、借地借家、小作各調停委員、旭川区学務委員、旭川商工会議所書記長、北海道拓殖計画調査会委員、同開発調査会々長等に挙げられ、旭川中央青年團名誉團長となる、かつて雑誌「旭川評論」を発刊す○鉄道参與官に任ぜらる、土木会議々員、国際観光委員会、鉄道幹線調査会各委員、行政調査部顧問等仰せつけらる、民政党本部遊説部副部長、同党務部副部長、日本自由党常議員、同北海道綜合開発調査特別委員会委員長、同総務、同民情部々長となり、現に民主党代議士会々長、同政務調査会理事である、又衆議院治安及び地方制度委員会委員である○当選九回（15 16 17 18 19 20 21 22 23）

## 樋貝詮三

山梨縣選出、日本自由党
大学教授、法学博士

明治二十三年四月山梨縣東山梨郡勝沼町に生る、京都帝國大学法科大学英法科本科卒業○文官高等試験合格「恩給法原論」外數種の著書がある○遞信局書記、法制局属、恩給局書記官、恩給局長官、保険院長官、衆議院議長等を歴任し、行政裁判所評定官、恩給金庫評議員、簡易生命保険及郵便年金積立金運用委員会委員及び幹事、行政調査部顧問等仰せつけらる、現に山梨縣の各委員外各種多数の委員会、調査会、審議会等の青果物組合連合会々長、中央大学教授である○当選二回（22 23）

## 一松定吉

大阪府第一区選出、民主党
厚生大臣

明治八年三月大分縣西國東郡高田町に生る、明治法律学校卒業○小学校訓導となり、後判検事登用試験に合格、司法官試補を経て判事、検事等に任ぜられ、大分地方長崎区各裁判所判事、天草、飯塚、延岡各区裁判所検事、佐賀区兼地方裁判所検事、横浜、大阪各地方兼区裁判所検事、大阪控訴院、大審院各検事等に補せらる、退官後弁護士の業務に従事す○大阪市会議員に選ばる○厚生政務次官、遞信大臣等を歴任し、現に民主党顧問となり、現に厚生大臣である、さきに都市計画中央、中央社会事業、國民貯蓄奨励、國立公園、中央賃金、武道振興、阿片、住宅対策、政府貸付金処理等の各委員会、國民体力審議会、医薬制度調査会各委員等仰せつけらる、第三十三回列國議会同盟会議に日本議員團々長として参列、欧米各國を視察す○当選八回（16 17 18 19 20 21 22 23）

## 平井義一

福岡縣第四区選出、日本自由党

大正二年三月福岡縣築上郡八屋町に生る、明治大学法学部卒業○かつて東京地方専賣局に勤務す、退職後計理士を開業し、麹町区会議員に再選せられ、東京市会議長秘書となる、現に日本自由党幹事、同政務調査会理事である○当選一回（23）

## 平工喜市

岐阜縣第一区選出、日本社会党
農業

明治二十五年二月岐阜縣岐阜市長森町に生る○北長森村会議員、岐阜市会議員に選ばる、北長森農会総代、中部日本農民組合副組合長、同組合争議部長、全國大衆党中央委員、全國農民組合岐阜縣連合会統制委員長、農地制度改革同盟岐阜縣支部主幹等を経て日本農民組合岐阜縣連合会執行委員長となる、愛知縣食糧委員、同縣開拓委員、中央農地委員会委員等を命ぜらる○当選一回（23）

## 平澤長吉

秋田縣第一區選出、同志クラブ
林業

明治二十六年十月秋田縣秋田市土崎港湾水町に生る、東京帝國大学農科大学実科卒業○秋田縣会議員、同縣会議長に選ばる、出羽林業株式会社專務取締役、秋田縣厚木組合、同縣木材業統制組合各理事長、秋田縣地方木材株式会社理事、同縣森林組合連合会理事、同副会長等を経て同縣木材業林産組合組合長、同縣林業会理事、倉敷合板工業株式会社相談役となり現在に至る、さきに日本進歩党秋田縣支部常任総務、秋田縣民主党幹事長となる○当選一回（23）

## 平島良一

大阪府第五區選出、日本自由党
農、鉱業

明治二十四年六月大阪府泉南郡信達町に生る、明治大学法科卒業○大阪木津川セメント株式会社に勤務し、後会計士を開業す、廃業後合資会社信達織布工場理事となり、鉱、農業に従事し現在に至る、又日本自由党総務である○当選一回（23）

## 平野力三

山梨縣選出、日本社会党
出版業

明治三十一年十一月岐阜縣郡上郡山田村に生る、早稲田大学專門部政治経済科卒業、「日本の農業政策と農地問題」の著書がある○日本農民組合関東同盟宣傳部長、日本農民党幹事長、日本大衆党書記長、社会民主党中央委員、國家社会党農村委員長、日本農民組合会長、農地制度改革同盟主事、支那農村対策研究所長、産業組合時報社、協同連合通信社各理事長等を経て日本社会党中央執行委員、同選挙委員長となり、ついで同党無任所中央執行委員となる、さきに農林大臣に任ぜられ、東京財務局管内不動産評價委員会委員仰せつけらる、又肥料配給公團設立委員長、復興金融委員会委員を命ぜらる○当選五回（1920212223）

## 廣川弘禪

東京都第三區選出、日本自由党
酒類商

明治三十五年三月福島縣石川郡須釜村に生る、曹洞宗大学々部に学ぶ○東京市会議員、同府会議員ともに再選せられ、市府各参事会員に挙げらる、東京市土木、社会、水道、電氣各事業の委員、常設委員及び委員長、東京市佛貨公債訴訟臨時委員、同養育院常設委員、同防空委員、都市計画東京地方委員会委員、同東京府警務委員理事、所得調査委員となる○酒類商を営み、東京都世田谷酒類商業組合理事長となり、現に東京酒類商同業組合長である、又日本自由党政務調査会理事となり、現に同党副幹事長である○当選三回（20補22補23）

## 深津玉一郎　愛知縣第二区選出、日本自由党
農業

明治三十五年一月愛知縣半田市前田に生る、早稲田大学専門部法律科卒業、後米國コロンビア大学法学部、佛國々立ソルボン大学に学ぶ〇縣立半田農学校講師を経て満洲國外交部嘱託となる、この間文部省嘱託として専門学校教育制度調査のため欧米各國を視察す、又日本自由党総務、同渉外部副部長、同政務調査会鉱工業委員長となる、さきに中央経済再建整備委員会委員仰せつけらるる〇当選二回（22 23）

## 福田繁芳　香川縣第二区選出、民主党
常任委員長

明治三十八年三月香川縣三豊郡観音寺町に生る、関西大学法律学科卒業〇大阪商業実修女学校々長事務取扱を経て実業界に入り株式会社日本遠心機製作所代表取締役となり、又報國工業株式会社代表取締役、協和化学工業、嘉宝物産、電光社各株式会社取締役社長、上越銅山の社長等に就任す、現に民主党常議員である、又衆議院文化委員会委員長である〇当選二回（22補23）

## 福田昌子　福岡縣第一区選出、日本社会党
医師、医学博士

明治四十五年七月鹿兒島縣鹿兒島市清水町に生る、東京女子医学専門学校卒業、後九州帝國大学医学部専攻科に学ぶ〇大阪府嘱託を経て地方技官に任ぜられ、大阪府内政部衛生課、東京都衛生局公衆衛生課等に勤務す、さきに九州帝國大学医学部附属医院、恩賜財團済生会福岡病院、至誠会関西支部病院等に勤務す〇当選一回（23）

## 福永一臣　熊本縣第二区選出、日本自由党
会社々長

明治四十年五月熊本縣球磨郡木上村に生る、東京外國語学校卒業〇上海海軍武官府支那方面艦隊事務嘱託となる、現に旭金属株式会社、旭商事株式会社各取締役社長である〇当選一回（23）

## 藤田榮

廣島縣第一區選出、日本社会党

大正三年一月佐賀縣三養基郡鳥栖町に生る、東京帝國大学法学部法律学科卒業○文官高等試験行政科合格、鉄道属、鉄道官等を歴任す、現に日本社会党政務調査会運輸部幹事である○当選二回（22 23）

## 藤原繁太郎

長崎縣第二區選出、日本社会党

明治三十年一月長崎縣南松浦郡奈留島村に生る、早稲田大学商学部卒業○かつて日本電報通信社通信記者となる、興亜精機株式会社、興亜産業株式会社の各顧問を経て同各会社の取締役社長となり現在に至る、又日本漁民組合組合長、日本社会党長崎縣支部連合会副会長である、経済事情調査研究のため満洲及び中國を視察す○当選一回（23）

## 淵上房太郎

福岡縣第二區選出、日本自由党

明治二十六年六月福岡縣鞍手郡小竹町に生る、東京帝國大学政治科卒業○文官高等試験行政科合格、専賣局書記を経て同副参事に任ぜられ、名古屋専賣支局庶務課長、熊本並びに三田尻の各地方専賣局事業課長に、兵庫縣明石、川辺の各郡長を経て商工水産課長に任ぜられ、長崎縣内務部地方課長、石川縣内務部長に、三重、青森、岩手、大分及び廣島等の各縣書記官等に任ぜられ、三重縣学務部長、青森縣警察部長、岩手、大分、廣島の各縣総務部長等に補せられ、ついで沖縄縣知事に任ぜらる、退官後日本医療團理事、日本木材株式会社監事、日本油機製造株式会社監査役となる○当選一回（23）

## 船田享二

栃木縣第一區選出、國民協同党

栃木縣宇都宮市塙田町に生る、東京帝國大学女学校長、法学博士

明治三十一年一日栃木縣宇都宮市塙田町に生る、東京帝國大学法学部法律学科卒業「羅馬元首政の起源と本質」「羅馬和法提要」「法律思想史」「羅馬法」等の著書の外、カイウスの「法学提要」の訳書がある○京城法学專門学校講師を嘱託せられ、羅馬法研究のため、伊、佛、英、独へ留学を命ぜらる、京城帝國大学助教授、同大学教授等に任ぜられ、同大学附属図書館長、同法文学部長等に補せらる、財團法人作新館高等女学校々長と同学部長等となり、現に同民主党政策調査会々長、國民協同党政策調査会々長である○当選二回（22 23）

## 降旗徳弥

長野縣第四区選出、同志クラブ
会社員

明治三十一年九月長野縣東筑摩郡本鄉村に生る、早稲田大学商学部卒業、「縣電問題の眞相」外三種のパンフレットを著す○再度長野縣会議員に選ばる、本鄉村助役となり、信濃日報社副社長、長野縣地方木材会社理事、同縣森林組合連合会理事となる、日本進歩党幹事、同情報部副部長、民主党総務委員、同政務調査会理事となる、さきに國務大臣祕書官に任ぜらる○当選二回（22 23）

## 古島義英

埼玉縣第四区選出、日本自由党
弁護士

明治十八年六月埼玉縣南埼玉郡三箇村に生る、日本大学卒業○判検事登用試験に合格、司法官試補を命ぜられ、東京地方裁判所兼区裁判所に勤務す、退官後弁護士を開業し現在に至る、この間司法政務次官に任ぜられ、臨時法制調査会委員仰せつけらる○日本自由党政務調査会通信部々長となる、さきに派遣議員團員としてタイ國を視察す○当選四回（17 20 22 23）

## 星島二郎

岡山縣第二区選出、日本自由党
弁護士

明治二十年十一月岡山縣兒島郡藤戸町に生る、東京帝國大学法科大学独法科卒業、「最近憲法論」「最近の欧米を見る」等の著書がある○日本繊維新聞社経営局長、隆文館株式会社々長、日本衣料製品統制会社々長、外國映画株式会社会長となる○鉄道参與官、司法政務次官、商工大臣、國務大臣等を歴任す、日本自由党常議員、同総務となり、現に同党総務会々長である、さきに対支文化事業調査会、國有財産調査会、社会事業調査会、國際観光委員会、交通事業調整委員会、傷痍軍人保護対策審議会、中央社会事業委員会、家事審判制度調査委員会、司法制度調査委員会、法規整備委員会、大藏省、農地審議会各委員、復興金融金庫設立副委員長、産業復興営團設立委員長等仰せつけられる、第三十一回列國議会同盟会議に議員團長として参列し欧米各國を視察す○当選十回（14 15 16 17 18 19 20 21 22 23）

## 細川隆元

熊本縣第二区選出、日本社会党
著述業

明治三十三年一月熊本縣熊本市花園町に生る、東京帝國大学法学部政治学科卒業○東京朝日新聞社政治部記者、同政治部長、同ニューヨーク支局長、同連絡本部長、同報道局長、同編集局長を経て同社参與となり、日本國際新聞協会副会長となる、現に日本社会党渉外部々長である○当選一回（23）

## 細川八十八

大阪府第二区選出、民主党
会社重役

明治三十五年五月徳島縣徳島市佐古町に生る○大阪市都島区高島町会連合会々長、司法省司法保護委員、日本戰災者同盟本部委員、大阪市都島区地区方面委員長となり現在に至る、又丸十花緒工業有限会社代表取締役である、日本進歩党常任幹事、同青年部々長となり、現に民主党幹事長補佐である、さきに金融制度調査会委員仰せつけらる○当選二回（22 23）

## 細野三千雄

秋田縣第一区選出、日本社会党
弁護士

明治三十年三月富山市総曲輪町に生る、東京帝國大学法学部独法科卒業「労働組合運動の理論と歴史」の譯訳書がある○大原社会問題研究所、農商務省各嘱託、立教大学教授となり、東京市々有地評價委員に挙げらる、現に弁護士を開業その業務に従事す、又法政大学講師を嘱託せらる○農民労働党、日本労農党、日本大衆党各本部役員、社会大衆党、日本社会党各中央執行委員となり、現に日本社会党会計である○当選二回（22 23）

## 堀江實藏

鳥取縣選出、第一議員倶樂部
農業

明治三十六年四月鳥取縣東伯郡八橋町に生る○八橋町会議員に選ばる、八橋町農業会理事、同町農地委員会委員、同農地委員会長に挙げらる、さきに八橋果物信用購買販賣利用組合組合長、鳥取縣果物同業組合副組合長等を経て同縣果実協会副会長となり、又日本農民組合東伯郡協議会々長、日本労働農民党及び日本労働党の各鳥取縣支部常任執行委員、鳥取縣社会党常任執行委員等を経て日本農民組合鳥取縣支部連合会副会長、鳥取縣農民総同盟常任執行委員中部協議会々長となる○当選一回（23）

## 堀川恭平

兵庫縣第四区選出、民主党
会社重役

明治二十七年五月岡山縣岡山市川崎町に生る、早稲田大学專門部政治経済科卒業○兵庫縣城南村会議員、姫路市会議員、兵庫縣会議員に選ばる、城南村長、同村信用組合長、姫路市警防團長となり、又兵庫縣飼料統制株式会社々長、播州交通、播州青果、大和土建各株式会社取締役となる、日本進歩党常議員、同常任幹事、同総務委員となり、現に民主党総務委員、同政務調査会公團法対策特別委員会理事である○当選二回（22 23）

## 本田英作

長崎縣第一區選出、日本自由党
弁護士

明治十八年四月長崎市船大工町に生る、東京帝國大学法科大学英法科卒業〇司法官試補を命ぜらる、退官後弁護士を開業、現にその業務に從事す、この間三度長崎市会議員、再度長崎縣会議員に選ばれ、日本自由党代議士会副会長となり、又外務政務次官に任ぜらる〇当選五回（16 19 20 補 22 23）

## 本多市郎

長崎縣第一區選出、日本自由党
著述業

明治二十八年十一月長崎縣南高來郡南有馬町に生る、中央大学法学部卒業「最近の世界を巡りて」の著書がある〇東京税務監督局属、復興局属等を歴任す、農商省民情委員を委嘱せらる、東京市会議員に四選せられ、同市参事会員、東京府会議員に選ばるる〇内閣委員、地方制度調査会、税制調査会各委員、引揚援護院参與等仰せつけらる〇日本自由党常議員、同総務、同遊説部副部長、同政務調査会税制部々長、同経済再建委員会統制撤廃準備部々長となり、現に同党國会部々長、同総務である、さきに東京市の嘱託により都市施設並びに社会狀勢調査のため欧米二十二ヶ國五十余都市を視察す〇当選三回（21 22 23）

## 本藤恒松

長野縣第一區選出、日本社会党
酒造業、会社々長

明治二十八年二月長野縣上高井郡綿内村に生る〇長野縣会議員に再選せらる、酒造業を営み今日に至る、現に高畑殖産株式会社々長である、さきに社会民衆党及び社会大衆党の各中央委員となり、現に日本社会党長野縣支部連合会常任執行委員である、かつて風俗視察のため朝鮮、満洲及び中國を歴遊す〇当選一回（23）

## 本間俊一

宮城縣第一區選出、同志クラブ

大正元年十一月宮城縣加美郡中新田町に生る、早稲田大学政治経済学部政治学科卒業、「戰後ノ教育改造」「國民学校令釈義」等の著書がある〇中外商業新報社社会部記者、読賣新聞社政治部記者等を経て中新田町長となる〇日本進歩党常議員、同幹事、民主党政務調査会理事となる、さきに農林参與官となり、地方制度調査会委員、復興金融金庫設立委員、中央経済再建整備委員会委員等仰せつけらる〇当選二回（22 23）

## 前田郁

鹿兒島縣第三区選出、日本自由党

会社重役

明治二十二年二月鹿兒島縣肝屬郡大根古町に生る、明治大学政治経済学部卒業〇東京時計製造株式会社專務取締役、東京遊覧乗合自動車株式会社取締役社長等を経て東京ミシン株式会社取締役社長となり現在に至る、又現に日本自由党幹事、同組織部副部長である〇当選一回（23）

## 前田榮之助

廣島縣第二区選出、日本社会党

常任委員長

明治二十四年六月廣島縣吳市宮原通に生る〇吳市会議員、三度廣島縣会議員に選ばる、吳砂糖小賣商業組合、吳冷凍菓工業組合各理事長、吳家庭用雜貨小賣商業組合理事、廣島縣軽便副食物工業組合理事長、同縣食糧品組合連合会副理事長となり、現に吳食料品配給統制組合理事長、廣島青果統制株式会社監事である〇日本社会党中央執行委員となり、現に同党廣島縣支部連合会々長である、又衆議院電氣委員会委員長である〇当選二回（22 23）

## 前田種男

大阪府第二区選出、日本社会党

会社員

明治三十五年十二月佐賀縣杵島郡大町に生る〇大阪市会議員に選はる、日本労働総同盟大阪連合会常任理事、大阪府出入橋診療所常務理事等を経て発動機製造株式会社に入社現在に至る、又大阪地方労働委員、大阪府労務加配運営委員となり、労働組合総同盟中央委員、同総同盟大阪金属産業労働組合組長、関西産業復興会議常任委員、日本社会党大阪府支部連合会労働部長となる〇当選一回（23）

## 前田正男

奈良縣選出、第一議員倶樂部

大正二年七月岐阜縣稻葉郡北長森村に生る、山梨高等工業学校機械科卒業〇三井物産株式会社々員を経て三井精機工業株式会社に勤務し、後奈良縣産業復興会議設立準備委員会事務責任者となる、現に奈良縣工業協会連合会常任理事兼事業部長である〇当選一回（23）

## 正木清

北海道第一區選出、日本社會党
常任委員長

明治三十三年五月福島縣石城郡好間村に生る、平市商業學校に學び、後大原簿記學校卒業〇鉱山労働者となり、平市商業學校に搬業に従事す、札幌市会議員、北海道会議員ともに再選せらる、北海道荷馬車運送業組合連合会理事長、北海道輓馬業組合長、北海道陸上小運搬業統制組合理事長となり、北海道長官より各種委員を命ぜられ、商工省委員仰せつけらる〇労働農民党北海道支部連合会常任執行委員、社会大衆党北海道支部連合会常任執行委員、同議会委員長、同北海道支部連合会執行委員兼会計監督である、又衆議院運輸及び交通委員会委員長である〇当選三回（21 22 23）

## 益谷秀次

石川縣第二區選出、日本自由党
弁護士

明治二十一年一月石川縣鳳至郡宇出津町に生る、京都帝國大学法科大学佛法科卒業〇弁護士の業務に従事し、五十嵐食肉加工株式会社取締役社長となる、司法官試補、判事、國勢院総裁秘書官、外務政務次官等を歴任す、日本自由党常議員となり、現に同党総務である、さきに宗教制度調査会委員仰せつけらる〇当選五回（14 18 19 22 23）

## 增田甲子七

長野縣第四區選出、日本自由党

明治三十一年十月長野縣東筑摩郡坂北村に生る、京都帝國大学法学部英法科卒業〇高等文官試験行政科合格、内務属、地方警視、大阪府監察官等を経て地方事務官に任ぜられ、兵庫縣社会課長、同商工課長、同議事課長を、内務事務官に任ぜられ、大臣官房文書課長等を命ぜられ、対満事務局庶務課長、関東廳事務官を経て福島縣知事、北海道長官、運輸大臣等を歴任す、この間社会事業及び労働問題研究調査のため欧米各國に出張す、船舶公團設立委員長仰せつけらる、日本自由党遊説部々長となり、現に同党政務調査会々長である〇当選一回（23）

## 松井豊吉

群馬縣第二區選出、民主党
土木建築請負業

明治二十八年二月群馬縣桐生市に生る〇桐生市会議員に三選せられ、同市農会長となる、現に民主党常議員である〇当選一回（23）